
第 131 回日本森林学会大会プログラム

会 期 2020年3月27日(金)～3月30日(月)

会 場 名古屋大学東山キャンパス全学教育棟・豊田講堂

大会日程

3月27日(金)

- 10:00～19:00 研究発表(企画シンポジウム, 公募セッション) (全学教育棟)
10:00～12:00 ダイバーシティ推進委員会 (全学教育棟)
13:00～15:00 【学会企画】ダイバーシティ推進セッション (全学教育棟)
13:15～14:45 中等教育連携推進委員会, 日林誌編集委員会, 森林科学編集委員会 (全学教育棟)
18:00～19:15 【学会企画】「国有林野の管理経営に関する法律等の一部を改正する法律」の概要 (全学教育棟)
18:00～19:30 JFR 編集委員会 (全学教育棟)

3月28日(土)

- 9:00～11:00 日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演 (豊田講堂1Fホール)
11:00～16:30 研究発表(P1ポスター:コアタイム12:00～13:30) (豊田講堂1F/2Fフロア)
14:00～17:00 公開シンポジウム「人と森とSDGs—東アジアからの報告」 (豊田講堂1Fホール)
16:00～17:30 日林誌・JFR・森林科学合同編集会議 (豊田講堂3F会議室)
18:30～20:30 懇親会 (ホテルメルパルク名古屋)

3月29日(日)

- 9:00～19:00 研究発表(部門別発表, 公募セッション) (全学教育棟)
11:00～16:30 研究発表(P2ポスター・高校生ポスター:コアタイム12:00～13:30) (豊田講堂1F/2Fフロア)
17:00～19:00 【学会企画】森林学会発行の2誌における査読のプロセス (全学教育棟)

3月30日(月)

- 9:00～ 関連研究集会 (全学教育棟他)

主 催 一般社団法人 日本森林学会

共 催 名古屋大学大学院生命農学研究科, 愛知県

後 援 愛知県森林協会, 公益社団法人 愛知県緑化推進委員会, 一般財団法人 今枝愛林共生会

第131回日本森林学会大会運営委員会

竹中 千里 (委員長), 水野 成夫 (副委員長), 肘井 直樹 (副委員長), 戸丸 信弘, 小谷 亜由美, 山本 一清, 中川 弥智子, 宮坂 隆文, 小川 一治, 梶村 恒, 平野 恭弘, 土岐 和多瑠, 原田 一宏, 香坂 玲, 伊藤 香純, 谷川 東子, 青山 義明

連絡先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院生命農学研究科内

第131回日本森林学会大会運営委員会

E-mail: jfs131@agr.nagoya-u.ac.jp

参加無料

申込不要

第131回 日本森林学会 大会公開シンポジウム

人と森とSDGs

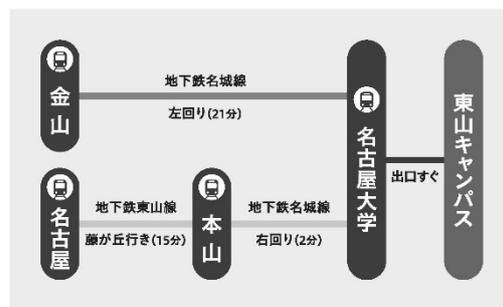
東アジアからの報告

2020.3.28 SAT 14:00-17:00

SDGs Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)とは、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。

現在様々な分野においてSDGsが注目されており、森林の分野においても、環境保全や生物多様性、気候変動など森林の多面的な機能を効果的に維持していくための重要な視点となっています。2020年という愛知目標の目標年という節目の年に、日本・中国・韓国での行政や市民による森林管理、地域社会やそこに住む人々の森への関わりについてSDGsの視点から紹介します。東アジアの国々が、今後SDGsを視野に入れながら、どのように森林管理に取り組んでいくかみんなで考えましょう。

名古屋大学東山キャンパス豊田講堂ホール



問い合わせ 第131回日本森林学会大会運営委員会 ✉ jfs131@agr.nagoya-u.ac.jp

Program

あいさつ：黒田慶子(日本森林学会会長、神戸大学大学院農学研究科教授)
題旨説明：原田一宏(名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

- 講演 1 香坂 玲(名古屋大学大学院環境学研究科教授)
国際指標から考える相乗効果とトレード・オフ:持続可能な開発目標・生物多様性保全の達成に向けて
- 講演 2 針原寿朗(住友商事株式会社顧問、元農林水産省農林水産審議官)
日本の森林を守るために
- 講演 3 YOUN Yeo-Chang(ソウル国立大学森林科学部教授)
Is the forestry in support of Sustainable Development Goals of UN?
(林業は国連のSDGsの支えとなり得るのか)
- 講演 4 LIU Jinlong(中国人民大学 森林・環境・政策学センター教授)
Linkage forest policy in China to goals of 2030 agenda
for sustainable development with micro-historic perspective
(中国における森林政策とミクロな歴史的視点を備えた持続可能な発展のための2030アジェンダ目標との関連)
- 質疑応答 コメント：井上 真(早稲田大学人間科学学術院教授)
- 閉会 あいさつ：竹中千里(名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

本シンポジウムは、森林・自然環境技術教育研究センター(JAFEE)による森林分野CPD認定プログラムです。
また、公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」からの助成を受けています。

[主催] 一般社団法人 日本森林学会

[共催] 公益社団法人 国土緑化推進機構、名古屋大学大学院生命農学研究科、同大学院環境学研究科、IUFRO(国際森林研究機関連合)

2020 年度 日本森林学会各賞 受賞者および受賞業績

1. 日本森林学会賞

隅田 明洋 (北海道大学)

個体ベースによるヒノキ林葉量の長期変動の解析

清和 研二 (東北大学)

樹は語る—芽生え・熊棚・空飛ぶ果実—の出版

熊谷 朝臣 (東京大学)

東南アジア熱帯島嶼域における森林破壊が引き起こす気候変化

2. 日本森林学会奨励賞

大橋 伸太 (森林総合研究所)

Seasonal variations in the stable oxygen isotope ratio of wood cellulose reveal annual rings of trees in a Central Amazon terra firme forest

宮本 裕美子 (北海道大学)

Temperature niche position and breadth of ectomycorrhizal fungi: Reduced diversity under warming predicted by a nested community structure

3. 日本森林学会学生奨励賞

森 英樹 (投稿時: 筑波大学 応募時: 森林総合研究所)

Large contribution of clonal reproduction to the distribution of deciduous liana species (*Wisteria floribunda*) in an old-growth cool temperate forest: evidence from genetic analysis

久野 真純 (投稿時: レイクヘッド大学 応募時: レイクヘッド大学)

Biodiversity as a solution to mitigate climate change impacts on the functioning of forest ecosystems

向井 真那 (投稿時: 京都大学 応募時: 京都大学)

Productivity and morphological traits of fine roots in forest ecosystems along an elevation gradient of Yakushima Island

4. Journal of Forest Research 論文賞

Tai Tien Dinh, Yasuaki Akaji, Tetsuya Matsumoto, Takumi Toribuchi, Takushi Makimoto, Muneto Hirobe and Keiji Sakamoto

Sprouting capacity of *Quercus serrata* Thunb. and *Quercus acutissima* Carruth. after cutting canopy trees in an abandoned coppice forest. (Journal of Forest Research Vol.23, No.5, 287–296, 2018) (筆頭著者の所属: 岡山大学 現在: フエ農林大学)

5. 日本森林学会誌論文賞

木村 憲一郎

原発事故が福島県の木材需給に与えた影響と林業・木材産業の現状. (日本森林学会誌 101 巻 1 号, 7-13, 2019 年)
(筆頭著者の所属: 福島県)

岡崎 千聖・逢沢 峰昭・森嶋 佳織・福沢 朋子・大久保 達弘

群馬県のナラ枯れを起こしたカシノナガキクイムシは在来か近年移入の個体群か—遺伝解析に基づく検証—.

(日本森林学会誌 100 巻 4 号, 116-123, 2018 年) (筆頭著者の所属: 宇都宮大学 現在: イビデングリーンテック株式会社)

3月28日(土)9時から、名古屋大学豊田講堂において、授賞式ならびに学会賞、奨励賞、学生奨励賞の受賞者講演を行います。また、同日同講堂のポスター会場では、Journal of Forest Research 論文賞・日本森林学会誌論文賞のポスターを展示します。

大会へ参加される方へ

学術講演集

冊子体の学術講演集（要旨集）を大会受付にて配布します。大会プログラムもこの学術講演集に含まれます。各要旨は、日本森林学会ウェブサイト（<http://www.forestry.jp/>）からリンクしたサイトにおいて3月初旬から閲覧できる予定です。

名札ケース

名札を収納するケースの持参をお願いします。大会運営委員会で名刺サイズの名札を用意いたしますので、お手持ちの名札ケースに入れてお使いください。

食堂・レストラン・カフェ・売店

利用できる食堂・レストラン・カフェ・売店については、「東山キャンパスマップ」を参照してください。土曜営業の食堂は南部食堂、北部食堂、ダイニングフォレスト、日曜営業の食堂は南部食堂のみです。

研究発表される方へ

部門別口頭発表

部門別口頭発表の講演時間は1件15分（講演12分、討論3分）です。発表のための機材は、液晶プロジェクタのみです。発表会場には、Microsoft PowerPoint 2019をインストールしたコンピュータを準備します。発表に用いるPowerPointファイルは2019までのバージョンでご準備ください。ファイルは、USB接続可能なメディアに保存してご持参ください。発表する午前あるいは午後のセッション開始10分前までに、発表会場のコンピュータのデスクトップ上にある日付と名前のついたフォルダ（例：27日午後 経営1）内にファイルをコピーしてください。ファイル名は「講演番号+筆頭者の名前」（例：D1〇〇〇〇）としてください。なお、コピー後に動作確認されることをお勧めします。近年、USBメモリを介したウィルス感染の事例が増えていますので、使用されるUSBメモリ等の取扱いには十分にご注意ください。なお、会場設置のコンピューターからウィルスの感染が起こった場合でも、大会運営委員会は一切責任を負えませんのでご了承ください。

ポスター発表

ポスター発表の大きさは、A0縦置き（1,188×841mm）を基本とします。ポスターには、発表題目、発表者氏名を明記してください。ポスターボードの前に置いてある掲示用のテープ等を用いてポスターを貼ってください。コアタイム時には、発表者はポスターを用いて必ず発表・質疑応答を行ってください。

企画シンポジウム・公募セッション・関連研究集会での発表

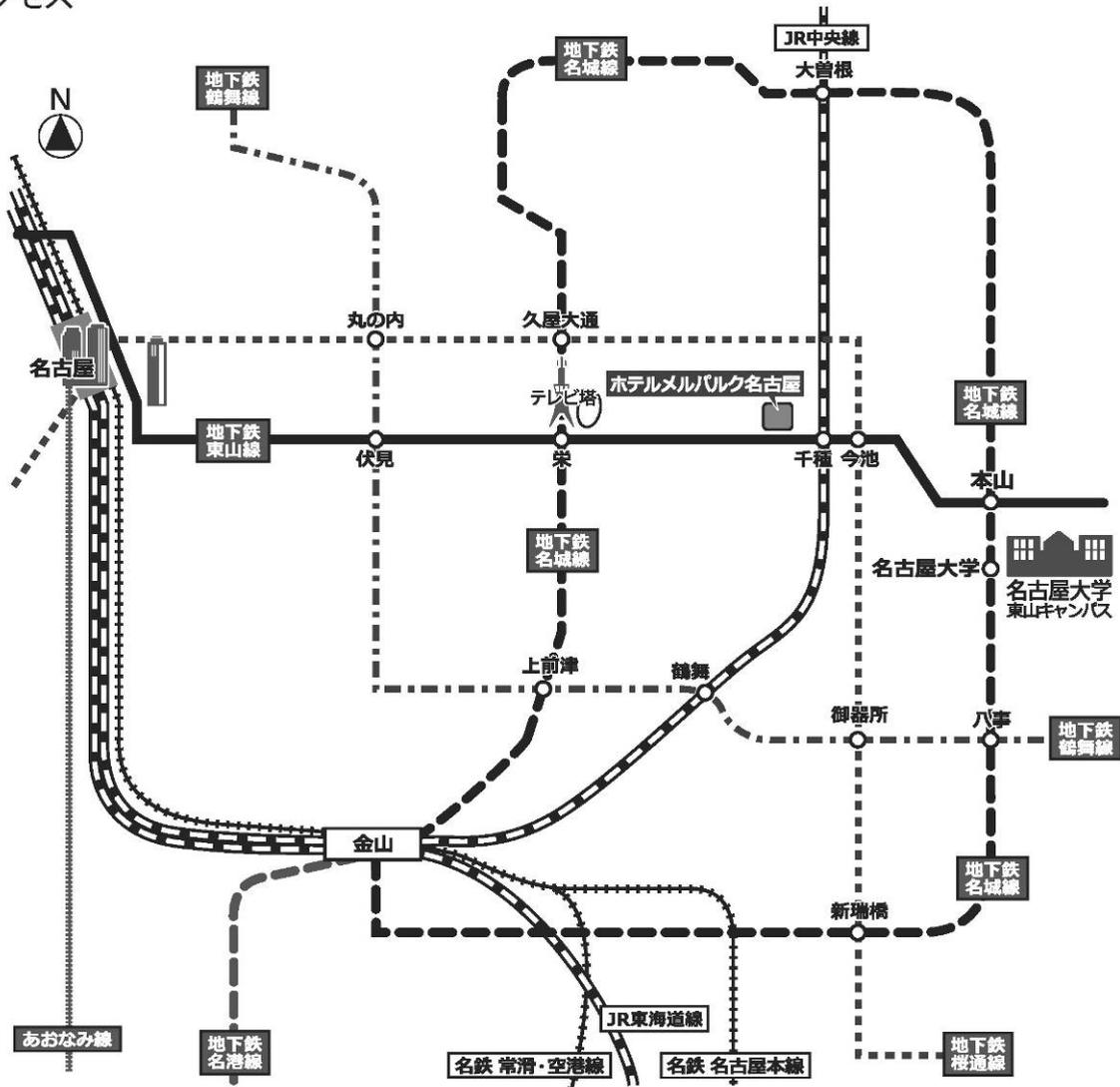
運営はコーディネータ（責任者）に一任していますので、コーディネータからの指示に従って準備してください。

企画シンポジウム・公募セッションのコーディネータおよび 関連研究集会の責任者の方へ

企画シンポジウム・公募セッションにはMicrosoft PowerPoint 2019をインストールしたコンピュータを準備します。関連研究集会でコンピュータが必要な場合は、各自でご準備ください。会場に備え付けの液晶プロジェクタ等の機材を使用することができます。

企画シンポジウム・公募セッションについては、各会場にタイムキーパーを配置します。ファイルのコンピューターへのコピーの手順や時間配分などは、コーディネータの責任で発表者に周知徹底するようお願いいたします。

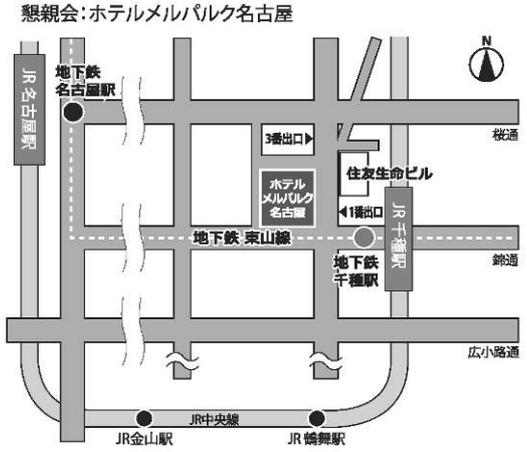
交通アクセス



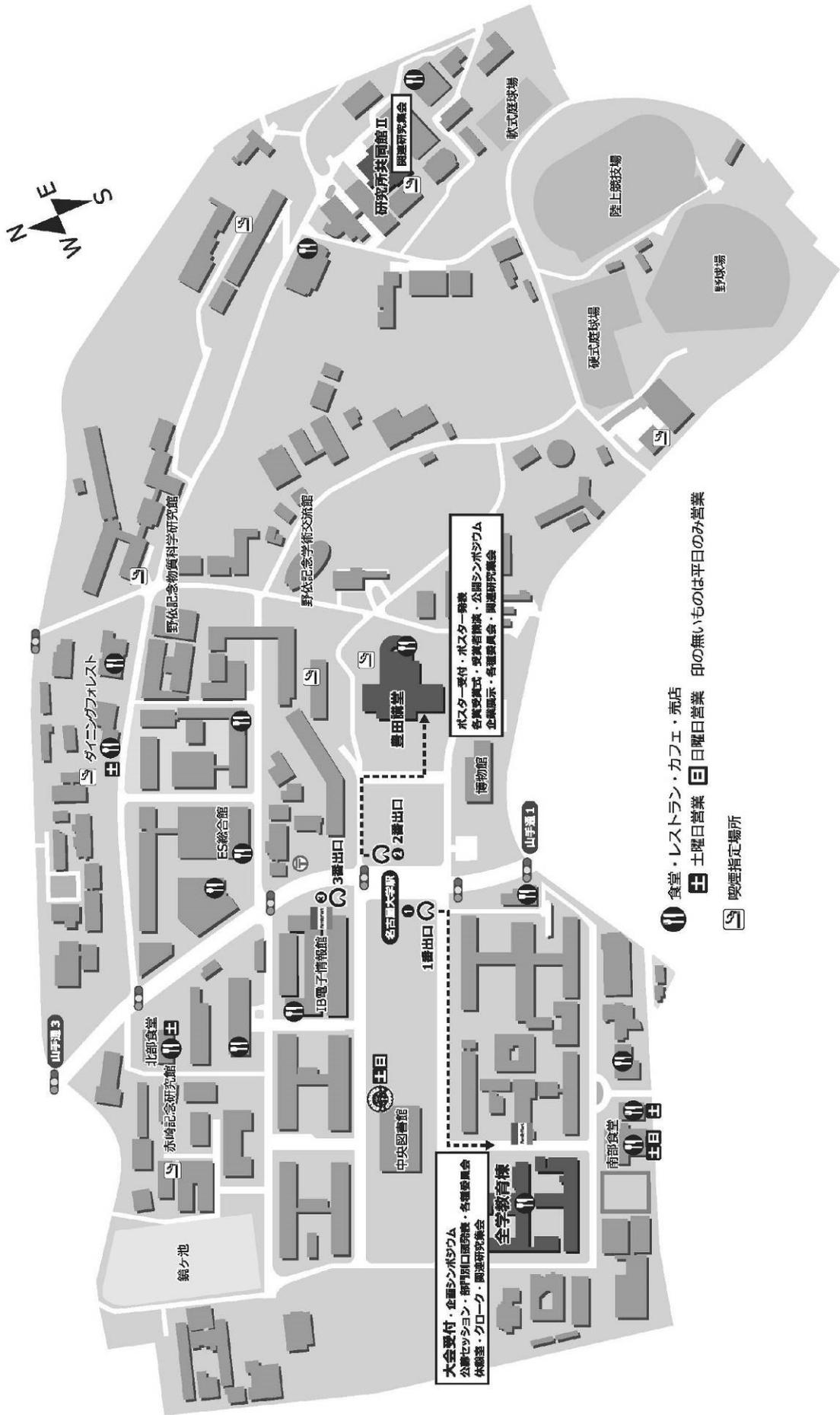
名古屋市営地下鉄 東山線 ●●●●●●●●●● 名城線 ●●●●●●●●●● 名港線 ●●●●●●●●●● 鶴舞線 ●●●●●●●●●● 桜通線 ●●●●●●●●●●
 JR ●●●●●●●●●● 名鉄線 ●●●●●●●●●● あおなみ線 ●●●●●●●●●●

名古屋駅 近鉄線 JR新幹線	地下鉄	名古屋 → 東山線 → 本山 (乗換え) 丸が丘行き 名城線 右回り → 名古屋大学 → 徒歩 (約5分) → 豊田講堂 全学教育棟	所要時間 約40分
中部国際空港 セントレア	名鉄線 + 地下鉄	中部国際空港 → 常滑・空港線 → 金山 (乗換え) 名城線 左回り → 名古屋大学 → 徒歩 (約5分) → 豊田講堂 全学教育棟	所要時間 約80分
名古屋大学 ↓ ホテルメルパルク名古屋	地下鉄	豊田講堂 全学教育棟 → 徒歩 (約5分) → 名古屋大学 → 名城線 左回り → 本山 (乗換え) 東山線 高畑行き → 千種 1番出口 → 徒歩 (約1分) → ホテルメルパルク名古屋	所要時間 約30分

※所要時間は目安です。時間に余裕をもってお越しください。



東山キャンパスマップ

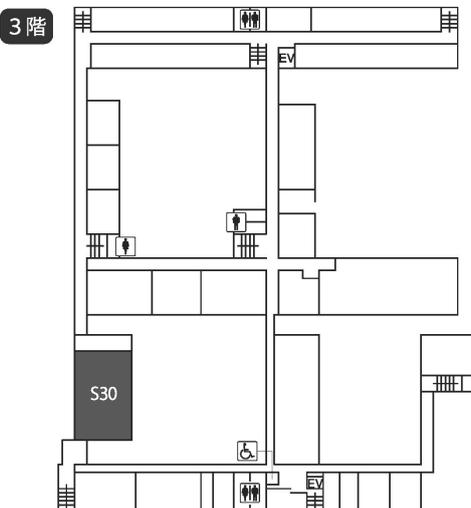
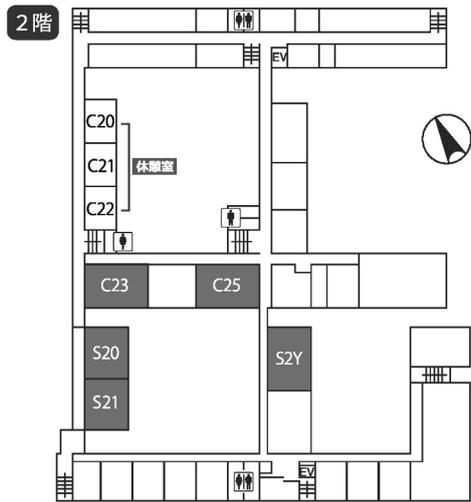
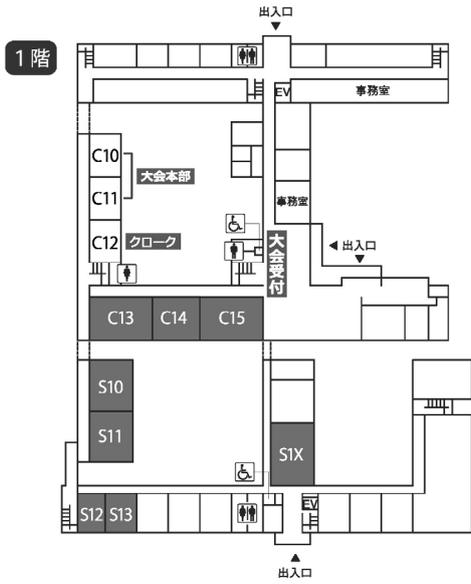


大会受付・企業シンポジウム
公断セッション・部門別口頭発表・各選考委員会
休憩室・クローク・問答研究会

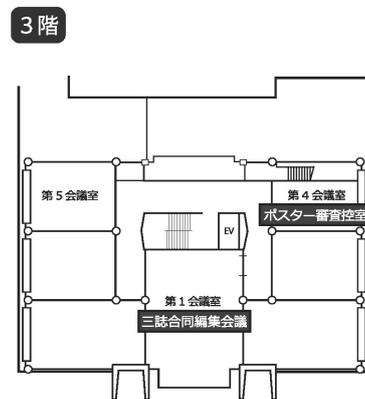
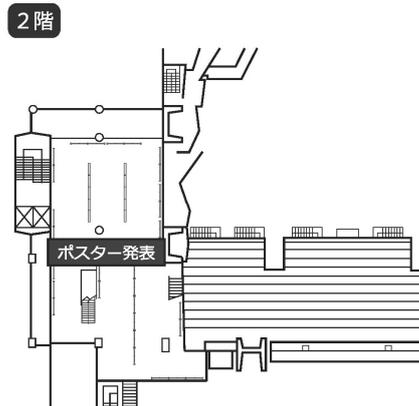
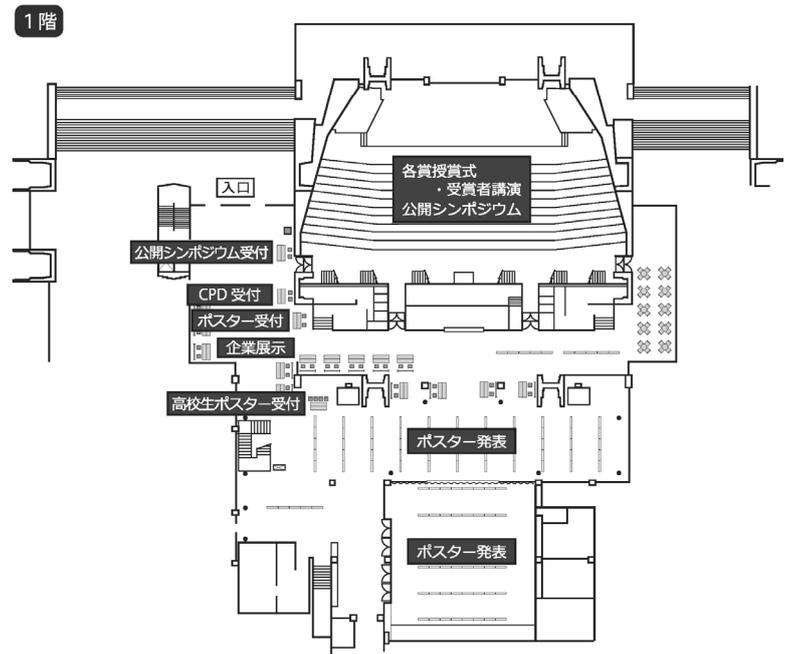
ポスター受付・ポスター発表
各賞授賞式・卒業生講演・公開シンポジウム
企業展示・各選考委員会・問答研究会

- ① 食堂・レストラン・カフェ・売店
- 田 土曜日営業 日 日曜日営業 印の無いものは平日のみ営業
- ☞ 喫煙指定場所

会場図 全学教育棟



会場図 豊田講堂



大会スケジュール 3月27日

開始時刻/会場	全学教育棟							
	S30	C15	C13	C25	C23	S2Y	S1X	S10
8:30								
8:45								
9:00								
9:15								
9:30								
9:45	S1	T1	T2	S2	S3	S4	S5	S6
10:00	S1-1 S1-2 S1-3 S1-4 S1-5 S1-6	T1-1	T2-1	S2-1 S2-2 S2-3 S2-4 S2-5	S3-1 S3-2 S3-3 S3-4 S3-5 S3-6 S3-7 S3-8 S3-9 S3-10	S4-1 S4-2 S4-3 S4-4 S4-5 S4-6 S4-7 S4-8 S4-9 S4-10	S5-1 S5-2 S5-3 S5-4	S6-1 S6-2 S6-3 S6-4 S6-5 S6-6 S6-7 S6-8
10:15		T1-2	T2-2					
10:30		T1-3	T2-3					
10:45		T1-4	T2-4					
11:00		T1-5	T2-5					
11:15		T1-6	T2-6					
11:30		T1-7	T2-7					
11:45		T1-8	T2-8					
12:00		調整・討論	T2-9					
12:15		T1-9	調整・討論					
12:30		T1-10	ポスター紹介					
12:45		T1-11	ポスター紹介					
13:00		T1-12						
13:15		T1-13						
13:30		調整・討論						
13:45								
14:00								
14:15								
14:30								
14:45	T3	S7	S8	S9	S10	経営I	T4	林政I
15:00	T3-1	S7-1 S7-2 S7-3 S7-4 S7-5	S8-1 S8-2 S8-3 S8-4 S8-5 S8-6 S8-7	S9-1 S9-2 S9-3 S9-4 S9-5	S10-1 S10-2 S10-3 S10-4 S10-5	D1	趣旨説明	A1
15:15	T3-2					D2	T4-1	A2
15:30	T3-3					D3	T4-2	A3
15:45	T3-4					D4	T4-3	A4
16:00	T3-5					D5	調整・討論	A5
16:15	調整・討論					D6	T4-4	A6
16:30	T3-6					D7	T4-5	A7
16:45	T3-7					D8	T4-6	A8
17:00	T3-8	D9	調整・討論	A9				
17:15		D10	T4-7	調整・討論				
17:30		D10	T4-8	A10				
17:45	学会企画	調整・討論	T4-9	A11				
18:00	「国有林野の管理 経営に関する法 律等の一部を改 正する法律」 の概要		T4-10	A12				
18:15			調整・討論	A13				
18:30				A14				
18:45				A15				
19:00								
19:15								

■企画シンポジウム一覧

- S1. 階層モデルが変える森林科学分野のデータ解析
- S2. 森林遺伝研究で明らかにするブナの生態—樹木の生態遺伝学最前線—
- S3. 森林教育研究のさらなる展開を目指して—森林をフィールドとした教育実践活動から研究の可能性を探る—
- S4. 森林環境譲与税と森林経営管理制度
- S5. 周極域の森林における樹木の成長と炭素動態 —「樹木根の成長と機能」共同シンポジウム—
- S6. 環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測
- S7. 木質バイオマスの小規模利用に適した燃料調達から上手なエネルギーの使い方
- S8. 津波被災海岸林の再生を考える2: 海岸林への広葉樹導入の可能性と造成生育基盤での広葉樹の生育状況
- S9. 無花粉スギの普及促進に向けた技術開発の最前線
- S10. 次世代の林業技術者育成に向けて —誰が森林のデザインを担うのか

■公募セッション一覧

- T1. 木質バイオマスの小規模エネルギー利用の現状と課題
- T2. 2020年からの森林放射能研究
- T3. 森林におけるシカ問題の解決に向けて
- T4. 樹木根の成長と機能

開始時刻／会場	全学教育棟						入口・ 学生ホール
	S11	S20	S21	C14	S12	S13	
8:30							
8:45							
9:00							
9:15							
9:30							
9:45							
10:00							
10:15							
10:30							
10:45				ダイバーシティ 推進委員会			
11:00							
11:15							
11:30							
11:45							
12:00							
12:15							
12:30							
12:45			学会企画				
13:00							
13:15			ダイバーシティ推進 セッション: 森林学会における ダイバーシティの実 現について考える ～だれもが楽しく参 加できる学会・大会 を目指して～				
13:30				中等教育連携 推進委員会	日林誌 編集委員会	森林科学 編集委員会	大会受付
13:45							
14:00							
14:15							
14:30							
14:45	S11	S12		S13			
15:00			T5				
15:15			趣旨説明				
15:30		S12-1	T5-1	S13-1			
15:45		S12-2	T5-2	S13-2			
16:00		S12-3	T5-3	S13-3			
16:15	S11-1	S12-4	T5-4	S13-4			
16:30	S11-2	S12-5	調整・討論				
16:45	S11-3	S12-6	調整・討論				
17:00		S12-7					
17:15		S12-8					
17:30		S12-9					
17:45							
18:00						森林GIS フォーラム 学生研究 コンテスト	
18:15							
18:30				JFR 編集委員会	森林立地 編集委員会		
18:45							
19:00							
19:15							

■企画シンポジウム一覧

- S11. 生理部門企画シンポジウム「日本林業の造林技術的課題を樹木生理学から考える」とポスター1分紹介
- S12. 森林の多面的機能のモデリング: 現状と課題
- S13. 国産漆の増産に向けて苗木生産を考える

■公募セッション一覧

- T5. 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究

大会スケジュール 3月28日

開始時刻/会場	豊田講堂						全学教育棟
	ホール	第1会議室	第5会議室	第4会議室	1F/2Fフロア	1Fフロア	入口・学生ホール
8:30							大会受付
8:45	授賞式・受賞者講演					企業展示準備	
9:00	日本森林学会 各賞授賞式・受賞者講演				P1 ポスター 準備 (11:00までに掲 示してください)	企業展示	
9:15							
9:30							
9:45							
10:00							
10:15							
10:30							
10:45							
11:00				学生ポスター賞 審査控室	P1 ポスター 発表		
11:15							
11:30							
11:45							
12:00							
12:15							
12:30							
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45	シンポジウム						
14:00	公開シンポジウム 「人と森とSDGs- 東アジアからの報告」			学生ポスター賞 選考委員会	P1 ポスター 発表		
14:15							
14:30							
14:45							
15:00							
15:15							
15:30							
15:45							
16:00		日林誌・JFR・ 森林科学三誌 合同編集会議	森林立地地理学会				
16:15							
16:30							
16:45							
17:00					P1ポスター撤収・ 受賞ポスター移動		
17:15							
17:30							
17:45							
18:00							
18:15							
18:30-20:30	懇親会 (会場:ホテル メルパルク名古屋)						

■P1ポスター発表

- 林政
- 風致・観光
- 教育
- 経営
- 造林
- T4
- 遺伝・育種
- 生理
- 植物生態
- 立地
- T2
- 防災
- 利用
- 動物・昆虫
- T3
- 微生物
- 特用林産

--MEMO--

大会スケジュール 3月29日

開始時刻/会場	全学教育棟							
	C15	C13	C25	C23	S2Y	S1X	S10	S11
8:30								
8:45	経営2	林政2	動物・昆虫1	植物生態		防災1	遺伝・育種	教育1
9:00	D11	A16	L1	H1		J1	F1	C1
9:15	D12	A17	L2	H2	利用1	J2	F2	C2
9:30	D13	A18	L3	H3	K1	J3	F3	C3
9:45	D15	A19	L4	H4	K2	J4	F4	C4
10:00	調整・討論	A20	調整・討論	調整・討論	K3	J5	調整・討論	C5
10:15	D16	A21	L5	造林1	K4	調整・討論	F5	C6
10:30	D17	A22	L6	E1	調整・討論	J6	F6	調整・討論
10:45	D18	A23	L7	E2	K5	J7	F7	C7
11:00	D19	A24	L8	E3	K6	J8	F8	C8
11:15	D20	A25	調整・討論	E4	K7	J9	F9	C9
11:30	調整・討論	A26	L9	E5	K8	J10	調整・討論	C10
11:45		A27	L10	調整・討論	調整・討論	調整・討論		C11
12:00			L11					
12:15								
12:30								
12:45								
13:00								
13:15								
13:30								
13:45		林政3						
14:00		A28						
14:15	経営3	A29	動物・昆虫2	造林2	利用2	防災2	風致・観光	教育2
14:30	D21	A30	L12	E6	K9	J11	B1	C12
14:45	D22	A31	L13	E7	K10	J12	B2	C13
15:00	D23	A32	L14	E8	K11	J13	B3	C14
15:15	D24	A33	L15	E9	調整・討論	J14	B4	C15
15:30	調整・討論	A34	L16	調整・討論	K12	J15	B5	C16
15:45	D25	A35	L17	E10	K13	J16	調整・討論	C17
16:00	D26	A36	調整・討論	E11	K14	調整・討論	B6	調整・討論
16:15	D27	A37	L18	E12	調整・討論	J17	B7	C18
16:30	D28	A38	L19	調整・討論		J18	B8	C19
16:45	調整・討論	調整・討論	L20	E13	学会企画	J19	B9	C20
17:00		A39	調整・討論	E14		J20	B10	C21
17:15		A40		E15		J21	調整・討論	C22
17:30		A41			森林学会発行の 2誌における査読 のプロセス	J22	B11	調整・討論
17:45		A42				調整・討論	B12	
18:00		A43					B13	
18:15		A44					B14	
18:30		A45						
18:45		A46						

大会スケジュール 3月29日

開始時刻／会場	全学教育棟			豊田講堂			全学教育棟	
	S20	S21	S12	第4会議室	1F/2Fフロア	1Fフロア	1Fフロア	入口・学生ホール
8:30								
8:45	立地							
9:00	I1							
9:15	I2							
9:30	I3							
9:45	I4							
10:00	I5	T6		高校生ポスター 審査控室	P2 ポスター 準備 (11:00までに掲 示してください)	高校生 ポスター 準備 (11:00までに掲 示してください)	企業展示	大会受付
10:15	I6	T6-1						
10:30	調整・討論	T6-2						
10:45	特用林産	T6-3						
11:00	N1	T6-4						
11:15	N2	T6-5						
11:30	調整・討論	T6-6						
11:45		調整・討論						
12:00								
12:15								
12:30								
12:45								
13:00								
13:15								
13:30			IUFRO-J 令和2(2020)年 機関代表会議					
13:45								
14:00								
14:15	微生物	生理						
14:30	M1	G1						
14:45	M2	G2						
15:00	M3	G3						
15:15	M4	調整・討論						
15:30	M5	G4						
15:45	調整・討論	G5						
16:00	M6	G6						
16:15	M7	調整・討論						
16:30	M8	G7						
16:45	M9	G8						
17:00	M10	G9						
17:15	M11	G10						
17:30	調整・討論	調整・討論						
17:45		G11						
18:00		G12						
18:15		G13						
18:30		G14						
18:45		調整・討論						

■公募セッション一覧

T6. 熱帯林研究

■P2ポスター発表

- 経営
- 造林
- 遺伝・育種
- 生理
- 植物生態
- 立地
- 動物・昆虫
- 微生物

大会スケジュール 3月30日

開始時刻／会場	全学教育棟							研究所共同館Ⅱ4階409号室	
	S30	C15	C13	S1X	S10	S11	C14		
9:00									
9:15									
9:30									
9:45									
10:00									
10:15		第24回 森林施業研究会 シンポジウム	森林遺伝育種学 総会および第9回 森林遺伝育種学 会シンポジウム					第4回森林水文・ 地球科学研究会	
10:30									
10:45									
11:00									
11:15									
11:30									
11:45									
12:00									
12:15									
12:30									
12:45									
13:00	林業経済学会 2020年春季大会 シンポジウム および総会								
13:15									
13:30									
13:45									
14:00									
14:15									
14:30			広葉樹林業 研究会						
14:45									
15:00									
15:15									
15:30									
15:45									
16:00									
16:15									
16:30									
16:45									
17:00									
17:15									
17:30									
17:45									

口頭発表 座長

部門	発表番号	座長氏名(所属)	セッション番号	発表番号	座長氏名(所属)
林政1	A1	横田康裕(森林総合研究所)	T1	T1-1~T1-8	久保山裕史(森林総合研究所)
	A2~A15	前の講演者が座長(司会)を務める		T1-9~T1-13	佐藤政宗(森のエネルギー研究所)
林政2	A16	垂水亜紀(森林総合研究所)	T2	T2-1~T2-5	大久保達弘(宇都宮大学)
	A17~A27	前の講演者が座長(司会)を務める		T2-6~T2-9	小松雅史(森林総合研究所)
林政3	A28	林雅秀(山形大学)	T3	T3-1~T3-5	藤木大介(兵庫県立大)
	A29~A47	前の講演者が座長(司会)を務める		T3-6~T3-8	明石信廣(北海道立総合研究機構)
風致・観光	B1~B5	庄子康(北海道大学)	T4	趣旨説明	平野恭弘(名古屋大学)
	B6~B10	山本清龍(東京大学)		T4-1~T4-3	牧田直樹(信州大学)
	B11~B14	愛甲哲也(北海道大学)		T4-4~T4-6	中路達郎(北海道大学)
教育1	C1~C6	井上真理子(森林総合研究所)	T5	T4-7~T4-10	安志榮(Chungnam National University)
	C7~C11	杉浦克明(日本大学)		T5-1	上原巖(東京農業大学)
教育2	C12~C17	大石康彦(森林総合研究所)	T6	T5-2~T5-4	前の講演者が座長(司会)を務める
	C18~C22	青柳かつら(北海道博物館)		T6-1	寺内大左(東洋大学)
経営1	D1~D5	星川健史(静岡県農林技術研究所)	T6	T6-2~T6-6	前の講演者が座長(司会)を務める
	D6~D10	加藤正人(信州大学)			
経営2	D11~D15	村上拓彦(新潟大学)			
	D16~D20	井上昭夫(近畿大学)			
経営3	D21~D24	鹿又秀聡(森林総合研究所)			
	D25~D28	鷹尾元(森林総合研究所)			
造林1	E1~E2	平田令子(宮崎大学)			
	E3~E5	渡邊仁志(岐阜県森林研究所)			
造林2	E6~E9	吉田俊也(北海道大)			
	E10~E12	八木橋勉(森林総合研究所)			
	E13~E15	酒井武(森林総合研究所)			
遺伝・育種	F1~F4	成田あゆ(北海道立総合研究機構)			
	F5~F9	鶴田燃海(東京大学)			
生理	G1~G3	田中憲蔵(森林総合研究所)			
	G4~G6	韓慶民(森林総合研究所)			
	G7~G10	古川原聡(住友林業)			
	G11~G14	赤田辰治(弘前大学)			
植物生態	H1~H4	長池卓男(山梨県森林総合研究所)			
立地	I1~I6	石塚成宏(森林総合研究所)			
防災1	J1~J5	篠原慶規(宮崎大学)			
	J6~J10	正岡直也(京都大学)			
防災2	J11~J16	南光一樹(森林総合研究所)			
	J17~J22	芳賀弘和(鳥取大学)			
利用1	K1~K4	櫻井倫(宮崎大学)			
	K5~K8	山口浩和(森林総合研究所)			
利用2	K9~K11	鹿島潤(森林総合研究所)			
	K12~K14	斎藤仁志(岩手大学)			
動物・昆虫1	L1~L4	山崎理正(京都大学)			
	L5~L8	浦野忠久(森林総合研究所)			
	L9~L11	中村克典(森林総合研究所)			
動物・昆虫2	L12~L17	吉田智弘(東京農工大学)			
	L18~L20	土岐和多瑠(名古屋大学)			
微生物	M1~M5	奈良一秀(東京大学)			
	M6~M11	太田祐子(日本大学)			
特用林産	N1~N2	小松雅史(森林総合研究所)			

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション) 3月27日午前 1/2

会場	S30	C15	C13	C25
開始時刻	S1 階層モデルが変える 森林科学分野のデータ解析	T1 木質バイオマスの 小規模エネルギー利用の 現状と課題	T2 2020年からの 森林放射能研究	S2 森林遺伝研究で明らかになるブナの生態 —樹木の生態遺伝学最前線—
10:00	S1-1 階層モデルの特徴と森林科学分野における有用性:飯島勇人(森林総研) S1-2 状態空間モデルを用いたシカ個体群の季節変動と年変動:井上みずき(日本大学)ら	T1-1 北海道における木質バイオマス発電向け未利用材の流通システム:酒井明香(北海道立総合研究機構林産試験場)ら	T2-1 福島県・茨城県の4地点で採取した野生キノコの放射性セシウム濃度特性:小松雅史(森林総合研究所)ら	S2-1 日本各地のブナ集団における葉の形態的可塑性の地理的変異:石井弘明(神戸大学)ら S2-2 RADシーケンシングによるブナの適応的な遺伝子の探索:三須直也(名古屋大学大学院)ら
10:15	S1-3 カメラトラップデータによる中大型哺乳類の生息場所選択モデリング:谷川鴻介(東京大学大学院)ら S1-4 カメラトラップ法によるツキノワグマ個体数推定における調査努力の影響:星崎和彦(秋田県立大学)ら	T1-2 素材生産業者の燃料用素材の供給実態—岩手県の事例—:伊藤幸男(岩手大学)ら	T2-2 スギ苗の放射性Cs吸収に及ぼす硝化の影響:関本均(宇都宮大学)ら	S2-3 ブナにおける花芽分裂組織発達とFLOWERING LOCUS T相同遺伝子発現との関係:宮崎祐子(岡山大学)ら S2-4 Chloroplast genome mining reveals the phylogeographic structure and diversity of warm-edge <i>Fagus crenata</i> forests:WorthJames(森林総合研究所)
10:30	S1-5 植生被度階級データのモデリング:伊東宏樹(森林総合研究所) S1-6 不規則・不完全なデータを用いて樹木デモグラフィのパラメータを推定する:梅木清(千葉大学)ら	T1-3 福島県奥会津地域における木質バイオマス利用の現状:中村省吾(国立研究開発法人国立環境研究所)ら	T2-3 きのこ原木林における放射性セシウムと安定同位体セシウムの動態:三浦寛(森林総合研究所)ら	S2-5 2つの分布北限、黒松内低地帯周辺と奥尻島:北村系子(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)
10:45		T1-4 長野県における木質バイオマスのエネルギー利用の現状と今後の展望:大矢信次郎(長野県林業総合センター)ら	T2-4 カリウムはコナラのセシウム吸収を抑制するか—非交換性カリウムに着目して:小林里緒奈(東京大学)ら	
11:00		T1-5 西栗倉村 薪ボイラ導入による経済効果と事業採算性:半田守(株式会社sonraku)ら	T2-5 広葉樹林の放射性セシウム循環におよぼす林床処理効果の7年間の調査結果:小林達明(千葉大学)ら	
11:15		T1-6 広島県における里山未利用材を使った商品化や社会活動の取り組み:山場淳史(広島県立総合技術研究所 林業技術センター)ら	T2-6 森林の林床処理による放射性セシウムの木部不動化量の変化:間瀬皓介(千葉大学大学院)ら	
11:30		T1-7 高知県における木質バイオマスの小規模エネルギー利用の現状と課題:鈴木保志(高知大学)ら	T2-7 筑波山森林における土壌中 ¹³⁷ Csの下方移動:渡邊未来(国立環境研究所)ら	
11:45		T1-8 宮崎県北部のバイオマス資源小規模利用における基盤に関する考察:櫻井倫(宮崎大学)	T2-8 林床における福島原発事故由来の放射性セシウム存在量の偏在性と形成要因:加藤弘亮(筑波大学)ら	
12:00		討論・調整	T2-9 森林内における ¹³⁷ Cs動態のモデル解析:橋本昌司(森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	
12:15		T1-9 地域における木質バイオマスエネルギー利用:虎澤裕大(株式会社森のエネルギー研究所)	討論・調整	
12:30		T1-10 マルチドメイン問題としての中山間地への再エネ導入:大場真(国立環境研究所)ら	ポスター紹介	
12:45		T1-11 移動式チップバの性能評価に関する研究:小島健一郎(ラフ・フォレスト株式会社)ら	ポスター紹介	
13:00		T1-12 小型ガス化CHP装置向け燃料供給における高品質確保:横田康裕(森林総合研究所)		
13:15		T1-13 小型ベレットガス化CHPの運用上の技術的課題とその対策:佐藤龍磨(シン・エナジー株式会社)ら		
13:30		討論・調整		

研究発表題目(企画シンポジウム) 3月27日午前 2/2

会場	C23	S2Y	S1X	S10
開始時刻	S3 森林教育研究のさらなる展開を目指してー森林をフィールドとした教育実践活動から研究の可能性を探るー	S4 森林環境譲与税と森林経営管理制度	S5 周極域の森林における樹木の成長と炭素動態ー「樹木根の成長と機能」共同シンポジウムー	S6 環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測
10:00	S3-1 鳥取県日南町における一貫的森林教育の試み:前田明日花(公立鳥取環境大学)	S4-1 森林経営管理制度の取組状況について:安高志徳(林野庁)	S5-1 周極域の森林と永久凍土の分布:松浦陽次郎((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所)	S6-1 中部日本の森林生態系の大気汚染及び極端気象への応答:佐瀬裕之(アジア大気汚染研究センター)ら
10:15	S3-2 保育者養成における身近な森林環境の活用ー公園の可能性ー:島貫織江(小田原短期大学通信教育サポートセンター(仙台))	S4-2 森林環境譲与税を活用した都市・農山村連携の萌芽:秩父市と豊島区の事例:内山倫太(名古屋大学)ら	S5-2 シベリア永久凍土地帯の落葉タイガ:根の研究から探る森林の発達様式:梶本卓也((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所東北支所)	S6-2 森林炭素・窒素循環研究:学術分野を超えた連携は必要か?:堅田元喜(茨城大学)ら
10:30	S3-3 にちなん中国山地林業アカデミーでの1年間を振り返って:吉田岳史(にちなん中国山地林業アカデミー)	S4-3 森林環境譲与税及び森林経営管理制度に関する岐阜県の今後の対応策:藤下定幸(岐阜県)	S5-3 年輪から見える永久凍土上に生育する樹木の地下部発達過程と成長制限要因:安江恒(信州大学)ら	S6-3 樹木生理に基づくトドマツ天然更新の促進技術:北尾光俊(森林総合研究所)ら
10:45	S3-4 山梨県における林業大学校設立に向けた課題について:青山将英(山梨県庁)	S4-4 森林管理制度実施の課題と森林環境譲与税の使途:中谷和司(飛騨市森林組合)	S5-4 フィンランド北方林における根系研究の発展:大橋瑞江(兵庫県立大学)	S6-4 札幌都心と郊外等に生育するトドマツの成長と環境変化:小池孝良(北海道大学)ら
11:00	S3-5 新学習指導要領準拠の新教科書における森林に関する記述についての調査分析:寺嶋嘉春(一般社団法人日本森林インストラクター協会)	S4-5 森林関係主体による森林環境譲与税と森林経営管理制度の運用に関する速報:多田忠義(株式会社農林中金総合研究所)		S6-5 自動車排気ガス由来の一酸化窒素と道路周辺樹木の生理活性変化:久米篤(九州大学)ら
11:15	S3-6 森林の保健、医療、福祉分野での活用について ~日英比較より~:居崎時江(埼玉県立大学)	S4-6 市町村をバックアップする民間フォレスターの必要性:小森嵐樹(郡上エネルギー株式会社)		S6-6 都市樹木によるオゾン吸収の評価:渡辺誠(東京農工大学)
11:30	S3-7 組織キャンプにける野外放事の教育効果~学びの内容からの検討~:渡邊万里映(仙台大学 大学院)	S4-7 林業事業者から見た森林経営管理制度の問題点:藤野正也(山梨県富士山科学研究所)		S6-7 Effects of ground-level ozone pollution in urban Beijing: monitoring, evaluation and mitigation: 曲来叶(Chinese Academy of Sciences)
11:45	S3-8 学童支援を目的とした自然体験活動の必要性:井上望(中京大学)	S4-8 環境譲与税と市町村の対応ー岩手県を事例として:大塚生美(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)		S6-8 What impacts of ozone on plant in natural field: 王效科(Research Center for Eco-Environmental Science, CAS)
12:00	S3-9 生きづらさを抱える子どもを対象にした森林体験活動とその可能性:近藤聡(NPO法人こころをつなぐホースセラピーぐりん・はあと／一般社団法人ぎふホースセラピー子育てラボ)	S4-9 国民は森林環境税に何を期待しているのか?:庄子康(北海道大学)ら		
12:15	S3-10 自然体験活動における質的研究:ケーススタディを例に:小森伸一(国立大学法人 東京学芸大学)	S4-10 森林環境譲与税の活用に関する試論:47都道府県を対象として:香坂玲(名古屋大学)ら		
12:30				
12:45				
13:00				
13:15				
13:30				

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月27日午後 1/2

会場	S30	C15	C13	C25	C23	S2Y
開始時刻	T3 森林におけるシカ問題の解決に向けて	S7 木質バイオマスの小規模利用に適した燃料調達から上手なエネルギーの使い方	S8 津波被災海岸林の再生を考える2. 海岸林への広葉樹導入の可能性と造成生育基盤での広葉樹の生育状況	S9 無花粉スキの普及促進に向けた技術開発の最前線	S10 次世代の林業技術者育成に向けて一誰が森林のデザインを担うのか	経営1
15:00	T3-1 富山県において初めて確認されたニホンジカによるスギ植栽木の集団剥皮被害:松浦崇運(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)ら	S7-1 イタリヤの小規模熱電併給施設:有賀一広(宇都宮大学)	S8-1 広葉樹導入による新たな海岸防災林造成の可能性-秋田県の事例-金子智紀(秋田県林業研究研修センター)	S9-1 根圏制御栽培法を用いたスギ種子生産技術の開発:山田晋也(静岡県農林技術研究所森林林業研究センター)ら	S10-1 森林管理と公務員技術者-変化するその役割:田村典江(総合地球環境学研究所)	D1 航空機LiDARによる単木樹種分類の汎用性の検討(II):林勇輝(名古屋大学)ら
15:15	T3-2 若齢造林地におけるシカ被害レベルをシカの痕跡から評価する:山川博美(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	S7-2 日本における小規模バイオマス発電の課題と将来:菅内謙一(株式会社PEO技術士事務所)	S8-2 低湿地対策としての盛土施工効果の検討-富津海岸林における生育調査-:宇川裕一(千葉県農林総合研究センター森林研究所)ら	S9-2 人工埋雪による無花粉スキの省力交配:渡部公一(山形県森林研究研修センター)ら	S10-2 社会人学び直しの場としての大学:鹿児島大学農学部取組から:奥山洋一郎(鹿児島大学)	D2 マルチスペクトルカメラ画像と機械学習を用いた広葉樹の樹種分類:若井望輝(信州大学)ら
15:30	T3-3 カラマツ幼齢林におけるエゾシカ食害が樹高成長に及ぼす影響:明石信廣(北海道立総合研究機構)	S7-3 小規模木質バイオマスエネルギー利用の現状と課題:久保山裕史(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)	S8-3 秋田沿岸の砂丘地に植栽されたケヤキ、カンワ社樹木の根系分布の評価:新田響平(秋田県林業研究研修センター)	S9-3 休耕地を有効活用した無花粉スキ・コンテナ苗の新たな低コスト育苗技術:斎藤真己(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)	S10-3 人材育成か、労働者教育・エンパワーメントか:三木敦朗(信州大学)	D3 機械学習による針葉樹の樹種判別-信州大農学部構内演習林の事例-:藤平光希(信州大学)ら
15:45	T3-4 シカ防護柵ネットと跳び越え防止ロープの隙間からの跳び込み:小長井信宏(兵庫県立農林水産技術総合センター)ら	S7-4 バイオマス熱利用の本格普及に向けて:久木裕(株式会社バイオマスアグリケーション)	S8-4 海岸造成地に植栽されたクロマツとトベラの根系伸長特性:橋隆一(東京農業大学)ら	S9-4 無花粉スキの簡易検定手法の開発と同種不稔ヒノキ神奈川無花粉ヒ1号の特性:齋藤典嗣(神奈川県自然環境保全センター)	S10-4 小規模林業における人材育成と安全管理:興紹克久(筑波大学)	D4 Deep Learningによる針葉樹の単木抽出および樹種分類:林悠介(信州大学 大学院)ら
16:00	T3-5 防護柵にTiによる支柱・ネット損壊検知の実証試験:井内正直(アイオーネイチャールボ株式会社)	S7-5 木質バイオマス燃料の製造と流通について:佐藤政宗(株式会社森のエネルギー研究所)	S8-5 クロマツと広葉樹4種の根系成長と土壌硬度の関係:野口宏典(森林総合研究所)ら	S9-5 無花粉スキ優良品種「三月晴不稔」の開発と植栽方法の提案:袴田哲司(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター)ら	S10-5 森林組合による人材育成の試み:釜石・大槌パークレイ林業スクールを事例に:山本信次(若手大)	D5 レーザーセンシングによるスマート精密林業:加藤正人(信州大学)
16:15	調整・討論		S8-6 分布北限域の海岸造成基盤上への常緑広葉樹種の導入と生育状況:佐野哲也(東北工業大学)			調整・討論
16:30	T3-6 新植地を利用するニホンジカのGPS首輪による行動追跡(第2報):大場孝裕(静岡県農林技術研究所)ら		S8-7 クロマツと落葉広葉樹の滞水応答の比較:藤田早紀(東京大学)ら			D6 ケーブルカメラを利用した林内調査手法の開発:今枝大(名古屋大学)ら
16:45	T3-7 人為的攪乱が日中のシカの行動に与える影響:池田敬(岐阜大学)ら					D7 航空機LiDARの多目的林地利用への応用可能性の検討(2):三浦一将(名古屋大学)ら
17:00	T3-8 ニホンジカと同所的に生息するカモシカの行動面積と移動速度の季節変化:中森さつき(アジア航測株式会社)ら					D8 ドローンによる植栽苗木把握技術の開発:中川太人(信州大学)ら
17:15						D9 ALSデータとタイルポリゴンを使用した路網バッファ別相対幹距の解析:塩田廣美(京都府立大学大学院)ら
17:30						D10 富士市有林におけるLiDAR及び写真測量を用いた森林資源量計測技術の比較:皇川健史(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら
17:45						調整・討論
18:00						
18:15						
18:30						
18:45						

研究発表題目(企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月27日午後 2/2

会場	S1X	S10	S11	S20	S21	C14
開始時刻	T4 樹木根の成長と機能	林政1	S11 生理部門企画シンポジウム「日本林業の造林技術的課題を樹木生理学から考える」とポスター1分紹介	S12 森林の多面的機能のモデリング:現状と課題		S13 国産漆の増産に向けて苗木生産を考える
15:00	趣旨説明	A1 ライフストーリーから描く森林鉄道:魚梁瀬森林鉄道のインタビュー調査から:赤池慎吾(高知大学)ら	S11-1 人工林産葉体系再構築のための造林技術的課題を樹木生理学から考える:丹下健(東京大学) S11-2 スギの成長や材質のQTL解析と環境による変動:森英樹(森林総合研究所) S11-3 カラマツコンテナ苗の生理生態特性:原山尚徳(国研)森林総合研究所北海道支所)	S12-1 森林の生物多様性保全、花粉媒介、炭素貯留機能のモデリング:山浦悠一(森林総合研究所)ら S12-2 水土保全機能の評価:玉井幸治(森林総合研究所)ら S12-3 森林の木材生産・山業採取:散策適地評価とその変遷:北沢城市を事例に:松浦俊也(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら S12-4 機能評価モデルによる地域森林管理の時空間推移評価と予測:山田祐亮(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら S12-5 LANDIS-IIを用いた北海道東部の森林における生態系機能のモデリング:井上貴央(北海道大学)ら S12-6 PANCESでの統合的アプローチによる自然資本・生態系サービスの予測評価:齊藤修(地球環境戦略研究機関) S12-7 生物多様性と生態系サービスに関する森林生態学の展望:森章(横浜国立大学) S12-8 生態系サービスの経済評価の意義と現状、課題:栗山浩一(京都大学) S12-9 森林の多面的機能と市町村の森林政策:鈴木春彦(彦田市)	T5 森林環境の持つ 保健休養機能の基礎的研究と 応用研究	S13-1 ウルシ実生苗の生産を阻害するうどんこ病:田端雅進(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら S13-2 ウルシ種子の発芽に及ぼす発芽処理と温度条件の影響:土屋慧(地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所) S13-3 ウルシ種子の複合体眠を打破する発芽促進処理の検討:松尾晶穂(東京大学)ら S13-4 現存ウルシ林の遺伝的多様性:渡辺敦史(九州大学大学院)ら
15:15	T4-1 二周波アンテナ同時探査可能な地中レーダを用いた樹木根系検出:平野森弘(名古屋大学)ら	A2 林業遺産の保全にむけた改善策の提案:柴崎茂光(国立歴史民俗博物館)ら			趣旨説明	
15:30	T4-2 VisualSMを用いた多枚数画像からの樹木根系三次元モデルの再構築:岡本祐樹(兵庫県立大学)ら	A3 秋田藩横手御城付山林の管理と利用:芳賀和樹(東京大学)			T5-1 注意回復要素による借景の影響の評価:尾崎勝彦(freelance)	
15:45	T4-3 根系が抱きかかえる土壌の量-台風が地上に残した根鉢の解析-:谷川東子(名古屋大学大学院)ら	A4 戦時中の鳥取県旧大山村における民有林非営利探計画の事例:小林正統(鳥取大学)ら			T5-2 森林放棄頻度と日常の幸福感との関連:J-MICO Study大幸研究:森田えみ(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	
16:00	調整・討論	A5 入会林野における機能分離と排他性に関する試論:斎藤暖生(東京大学)			T5-3 秋季における自然観察会が心身に与えるリラックス効果とは?高山範理(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)ら	
16:15	T4-4 踏圧下で生育したグイマツ雑種F ₁ 苗木の根系応答:菅井徹人(北海道大学農学院)ら	A6 木造文化財建造物の木材利用と修理材材の調達方法-勝興寺を事例として-:山田毅音(筑波大学)ら			T5-4 社会福祉施設における森林療法導入上の課題:上原敏(東京農業大学)	
16:30	T4-5 温帯混交林における地上部-地下部フェノロジーの関係:桑辺七穂(兵庫県立大学大学院)ら	A7 近代日本における木炭商業の動向:土屋智樹(東京農業大学大学院)ら			全体討議	
16:45	T4-6 高木限界に生育する樹木4種の細根の水および炭素利用様式:矢原ひかり(信州大学)ら	A8 高知県における備長炭生産の現状と課題:垂水亜紀(森林研究・整備機構 森林総合研究所 四国支所)			全体討議	
17:00	調整・討論	A9 2017年7月九州北部豪雨後の被災地住民による流木活用の取組:知念良之(九州大学)ら				
17:15	T4-7 ヒノキ林における細根現存量と枯死量の推定~空間的なばらつきを踏まえて~:藤井黎(京都大学大学院)ら	調整・討論				
17:30	T4-8 アラスカ内陸部の斜面位置の異なるクロトウシ林における細根動態:野口孝太郎(森林総合研究所東北支所)ら	A10 ジビエ利用促進による農林業被害と地域活性化への影響:長野県長野市を事例に:立花敏(筑波大学)ら				
17:45	T4-9 土壌断面画像における深層学習を用いた細根解析の自動化:矢吹新(京都大学大学院)ら	A11 宮崎県北地域におけるハテナコ採取文化の展開:堀原理人(宮崎大学)ら				
18:00	T4-10 分光反射率画像を用いた細根系の再定義:吸収機能と輸送機能の境界を探る:谷川夏子(信州大学)ら	A12 トテナミの利用と資源管理-京都大学産学研究院と地域住民との協働-坂野上なお(京都大学)ら				
18:15	議論・総合討議	A13 インドネシアの農村における小規模カカオ産業による地域振興効果:沖田佳音(名古屋大学大学院)ら				
18:30		A14 台湾原住民族の森林利用-「山田焼壺」の再発見:小池浩一郎(島根大学)				
18:45		A15 中国雲南省の国有農場におけるゴム林生産の現状と課題:浦馬玲(九州大学)ら				

研究発表題目(公募セッション・部門別口頭発表) 3月29日午前 1/2

会場	C15	C13	C25	C23	S2Y
開始時刻	経営2	林政2	動物・昆虫1	植物生態	
9:00	D11 Using Remote Sensing to Map Protected Area Vulnerability to Fire in the Russian Far East:KhatancharoenChulabush(The University of Tokyo)ら	A16 三重県北部地域の森林管理におけるNPOの現状と展望:清水環(Nowanowa Co., Ltd.For Forest and Human Environment)ら	L1 オオシラビソ丸太におけるトドマツノキクイムシの繁殖様式:高木悦郎(首都大学東京)ら	H1 北海道東部阿寒湖畔のテフラ層中の花粉分析と森林相の推移:春木雅寛(北海道大学)ら	
9:15	D12 定期撮影航空写真とUAV測量を活用した森林資源量推定の検討:山城悠太(宮崎大学)ら	A17 中山間地域と都市部の連携による森林整備の取組に関する考察:石佳凡(早稲田大学)ら	L2 トドマツノキクイムシの母坑内における一夫二妻制:小林憲太(首都大学東京)ら	H2 極東ロシア・ゼーヤ自然保護区と近接する森林の更新と地上部バイオマス:清野達之(筑波大学)ら	利用1
9:30	D13 森林管理の高度化のためのALOS-2/PALSAR-2を用いた伐採地検出技術の開発:林真智(宇宙航空研究開発機構)ら	A18 福岡市水道局における水源林管理の動向:福岡市水源かん養林を事例に:山口広子(筑波大学)ら	L3 クビアカツヤカミキリ飼育個体の産卵数と孵化率の推移:浦野忠久((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所)	H3 40年間に於ける富士山森林限界植生の動態:崎尾均(新潟大学)ら	K1 アクチュエータ速度制御によるグラブローダの操作性向上効果:山口浩和(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
9:45	D15 落葉期ブナ林のUAV空撮データを用いた樹幹抽出:村上拓彦(新潟大学)ら	A19 飛騨市の広葉樹のまちづくりに関する取り組みと展望:竹田慎二(飛騨市役所)ら	L4 マツ類枯死木から採取されるカミキリ科幼虫の識別法:相川拓也(森林総合研究所)ら	H4 温暖化条件下で標高方向の種子散布が果たす役割:液果・堅果樹木での検証:直江将司(森林総合研究所)	K2 林内人力作業支援のための小型車両機構と機能デザイン:仁多俊俊夫(東京大学)ら
10:00	調整・討論	A20 岐阜県の事例を中心とした東海地方の針広混交林化の現状と課題:勝野真莉菜(愛知県立大学)	調整・討論	調整・討論	K3 林分環境利用維持管理と小型車両の可能性:藤井美由紀(東京大学大学院)ら
10:15	D16 TLS点群を用いた樹木形質の算出と精度評価:江藤信輔(電気通信大学)ら	A21 全国巨樹・巨木林の会の活動実績と課題:松島昇(NPOフィールドリサーチ)	L5 バラコート処理木によるマツノマダラカミキリの誘引と大量捕獲:江崎功二郎(石川県農林総合研究センター林業試験場)ら	造林1	K4 林分PCDと機械学習による人力伐倒作業の最適化:伊能健悟(東京大学)ら
10:30	D17 地上型3Dレーザ計測から得られた点群による枝下高の推定:中村裕香(株式会社woodinfo)ら	A22 森林にかかわる主観的幸福度の観点からみた森林所有者の意向・態度:高橋卓也(滋賀県立大学)ら	L6 マツ枯死木のくん蒸処理方法の違いによるガス濃度の経過と殺虫率の差異:川口エリ子(鹿児島森林技術総合センター)ら	E1 ヒノキ稚苗のコンテナ移植時期が得苗率と成長経過に及ぼす影響:渡邊仁志(岐阜県森林研究所)ら	討論・調整
10:45	D18 地上レーザー計測における樹高推定の改善:千葉幸弘(日本森林業振興会)	A23 「自伐型林業」の実態と参入のための条件:佐藤宣子(九州大学)ら	L7 マツノサイセンチュウ近縁2種の便乗型成虫のカミキリムシへの乗り移り:小澤社大(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら	E2 雪害がスギコンテナ苗の初期成長に及ぼす影響:岡子光太郎(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)	K5 作業道開設時のオペレータの注視点の比較:松本武(東京農工大学)ら
11:00	D19 新潟県阿賀町三川地域における台杉状天然スギの樹幹解析:田中慧吾(東京大学)ら	A24 熱帯における森林減少の発生と制御の仕組み:宮本基枝(森林総合研究所)	L8 マツノサイセンチュウのクロコブウムシへの乗り移り:前原紀敏(森林総合研究所)ら	E3 高下刈による省力化とシカ被害軽減:野宮治人((国研)森林機構 森林総合研究所)ら	K6 切取のり面の勾配や土質による超音波距離センサの測距精度への影響:小野祥(東京農工大学大学院)ら
11:15	D20 針葉樹天然林における樹幹表面積の回帰モデル:井上昭夫(近畿大学)ら	A25 タンザニアのREDD+におけるセーフガードの制度設計の方向性(仮):福岡崇(亜細亜大学)	調整・討論	E4 マーキングテープによる植栽木の視認性向上がもたらす下刈り作業の効率化:陶山大志(鳥根県中山間地域研究センター)ら	K7 チェンソー製材機による集材作業の省力化:園田登(八木嶋地域資源保全会)ら
11:30	調整・討論	A26 生態系サービス林業/森林サービス産業とイタリヤにおける先駆的取り組み:栗田晋吾(ケンブリッジ大学/上智大学)	L9 カシノガキクイムシの樹冠上での誘引の試み:山崎理正(京都大学)ら	E5 コウヨウザンの効果的な野兎害対策手法の検討について:大塚次郎(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	K8 林道への到達距離と作業道を利用した車両系集材の生産性について:宗岡寛子(国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所)ら
11:45		A27 ロシア連邦国立公園の管理実態と課題 -沿バイカル国立公園を事例として-:TataurovaNadezhda(岩手大学大学院連合大学農学研究科)ら	L10 知多半島におけるナラ枯れ防除で見えてきたことと課題:福田秀志(日本福祉大学)ら	調整・討論	調整・討論
12:00			L11 ナラ枯れの発生原因:小林正秀(京都府森林技術センター)		
12:00 ~ 13:30	P2ポスター発表コアタイム				

研究発表題目(公募セッション・部門別口頭発表) 3月29日午前 2/2

	S1X	S10	S11	S20	S21
開始時刻	防災1	遺伝・育種	教育1	立地	
9:00	J1 森林の生存戦略の普遍性に基づく洪水濁水緩和機能評価方法の批判:谷誠(人間環境大学)ら	F1 トマト分離集団を用いたイオノームのQTL解析:後藤晋(東京大学)ら	C1 子どもが森でやってみたいことは何か:遠藤知里(常葉大学短期大学部)	I1 気温上昇がコナラ丸太の初期分解へ及ぼす影響:小林真(北海道大学)ら	
9:15	J2 桐生水文試験地における45年間の流況曲線の変動:鶴田健二(京都大学)ら	F2 亜高山帯および冷温帯に分布するカバノキ属樹種の時空間的集団動態史の推定:加藤本音(筑波大学大学院)ら	C2 小学校児童のもつ森林に関連する事柄への認識—埼玉県羽生市の事例—杉浦克明(日本大学)ら	I2 RandomForestとTea-bagを用いた気候変動による有機物分解速度の変化予測:森大吾(森林総合研究所九州支所)ら	
9:30	J3 大起伏花崗岩山地の降雨流出に流域規模が与える影響:小杉賢一郎(京都大学)ら	F3 温暖地域に移植した北方針葉樹3種の温暖化ストレスに関わるRNA-seq解析:久本洋子(東京大学)ら	C3 フェノロジー観察学習Webアプリケーションの開発と小学校での授業実践:中村和彦(東京大学)ら	I3 Effects of litter and slope on the chemical properties of soils in two coniferous plantations in the same hillslope:フラナクモイン(九州大学)ら	
9:45	J4 山地流域における平水時比流量の空間分布と貯留・流出経路の関係:浅野友子(東京大学)ら	F4 クロマツ林遺伝子保存のための採種母樹と種子プールの遺伝的多様性評価:岩泉正和(国研)森林研究・整備機構)ら	C4 子どもの自然離れの現状と保護者の意識:秋田県3地点の事例より:北村芽唯(秋田県立大学大学院)ら	I4 洞爺湖中島におけるエゾシカ個体数の変動に伴う土壌諸特性の変遷:金子命(酪農学園大学大学院)ら	
10:00	J5 山地源流域における基岩内地下水面形状が水収支に及ぼす影響:正岡直也(京都大学)ら	調整・討論	C5 熊野地域の小中高の児童・生徒に対する木育プログラムの開発と実施:山本康介(三重大学)ら	I5 土壌水分条件が団粒再形成過程に及ぼす影響:小野裕(信州大学)	T6
10:15	調整・討論	F5 スギの雄性不稔候補遺伝子(MSF)の同定と遺伝的多様性解析:上野真義(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら	C6 国産広葉樹材を用いた木琴製作に関する中学校技術・家庭科の授業実践:東原貞志(上越教育大学)ら	I6 盛土上に植栽されたクロマツ実生苗の外生菌根の細胞外酵素活性:山口郷彬(三重大学大学院)ら	T6-1 Proboscis Monkey Research from sky:渡辺信(琉球大学)
10:30	J6 森林撈伐後20年間の溪流水硝酸イオン濃度変動:勝山正則(京都府立大学大学院)ら	F6 九州におけるスギ在来品種の遺伝的リソースの整理と遺伝的関係の解明:武津英太郎(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら	調整・討論	討論・調整	T6-2 Agroecological projects implemented by NGOs working with indigenous communities in the Brazilian state of Mato Grosso:小張真理子(筑波大学)
10:45	J7 中国山地中部の森林小流域における降雨時の水文・水質応答:芳賀弘和(鳥取大学)ら	F7 空中さし木法によるスギさし種の発根誘導条件の最適化:栗田学(森林総合研究所林木育種センター九州育種場)ら	C7 自然体験を意図しない野外活動が参加者の自然意識に及ぼす影響:八幡直輝(岩手大学)ら	特用林産	T6-3 The effectiveness of financial incentives in forest conservation: discussions from local perspectives in Vietnam:Hoang Phan BichNgoc(九州大学)ら
11:00	J8 質量分析による分子情報を用いたフィンランド森林流域の溶存有機物の評価:高橋優子(兵庫県立大学)ら	F8 千葉県における1994~2018年のスギ雄花着生状況の年次変動:福島成樹(千葉県農林総合研究センター)	C8 野外活動プログラムにおける室内講話の有効性:比屋根哲(岩手大学)ら	N1 フラビ地上部の137Cs濃度と根系の関係:手代木徳弘(福島県林業研究センター)	T6-4 How small and medium enterprises get timber legality verification?:The case of furniture industry in Jepara, Indonesia:北山舜(名古屋大学大学院)ら
11:15	J9 赤外線サーモグラフィを用いた飽和側方流の観測:青木康真(京都大学)ら	F9 若齢グイマツ雑種F ₁ における空間構造を考慮した遺伝パラメータの推定:石塚航(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	C9 森林の中での体験と充足感について:河崎梨乃(愛媛大学)ら	N2 クロモジ枝葉の採取時期とサイズが精油の抽出量に及ぼす影響:高橋輝昌(千葉大学)ら	T6-5 A review of literature on elite capture in tropical forest governance: focusing on Indonesia:大田真彦(九州工業大学)
11:30	J10 表面温度を用いた森林での蒸発散推定法の検証:篠原慶規(宮崎大学)ら	調整・討論	C10 森林での体験活動が大学生の主体的な学びを育む:井倉洋二(鹿児島大学)	調整・討論	T6-6 Discussing the allocation of REDD+ national forest reference level to projects:江原誠(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
11:45	調整・討論		C11 森林体験は教育たり得るのか?:大石康彦(森林総合研究所多摩森林科学園)ら		討論・調整
12:00					
12:00 ~ 13:30	P2ポスター発表コアタイム				

研究発表題目(部門別口頭発表) 3月29日午後 1/2

会場	C15	C13	C25	C23	S2Y
開始時刻		林政3			
14:00		A28 ノルウェー森林白書を讀む:山本伸幸(森林総研)			
14:15	経営3	A29 スウェーデンの中小規模森林管理のグローバル化:早松真智(国立研究開発法人森林総合研究所)	動物・昆虫2	造林2	利用2
14:30	D21 超短伐期ヤナギの新たな取種・運搬手法とチップ化のコストについて:高橋正義(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)	A30 ドイツの木材販売の共同化:堀靖人(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)	L12 岩手県におけるブナの結実豊凶がツキノフグマの繁殖成功に及ぼす影響:栃木香帆子(東京農工大学)	E6 鹿児島県の管理モウソウチク林における管理・生産と林分構造の現状:孫藤程(京都大学大学院)	K9 日本版チェーンソー伐木作業安全ゲームの開発と効果:山田容三(愛媛大学)
14:45	D22 胸高帯のみかけの低下に及ぼす傾斜度の影響:スギ若齡林での事例:國崎貴嗣(岩手大学)	A31 東部ドイツの森林官と森林管理制度に関する予備的考察:石崎涼子(森林研究・整備機構 森林総合研究所)	L13 ゴキウの食物の嗜好は母グマゆすりか?:長沼知子(東京農工大学)	E7 スギ精英樹の成長特性と競争感受性における系統間差:松下通也(森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター)	K10 地下足袋とチェーンソーブーツの歩き方の比較:小山敢(鳥取県林業試験場)
15:00	D23 日本の森林の炭素蓄積量は大幅に過小評価されていた:江草智弘(東京大学大学院)	A32 ドイツの林業請負事業者の実態—林業労働力の国際化に伴う認証制度の役割—滝沢裕子(岩手大学大学院連合農学研究所)	L14 痕跡調査によるニホンジカ皆伐地利用頻度の推定:大谷達也(森林総合研究所)	E8 過密人工林における樹冠評価方法の検討:飯田玲奈(群馬県林業試験場)	K11 竹林整備の機械化作業:吉村哲彦(鳥根大学)
15:15	D24 無形林産物も供給する森林管理:鷹尾元(森林総合研究所)	A33 オーストリアの林業における外国人労働力導入の動向:田中亘(森林総合研究所)	L15 llevelの選択性指数による島根半島のニホンジカの葉の選択性樹種の抽出:高橋絵里奈(鳥根大学)	E9 藪の中の競争を緩和するギャップサイズ探索:水永博己(静岡大学)	調整・討論
15:30	調整・討論	A34 林業事業者における技能・技術の習熟段階と創発的学習:杉山沙織(筑波大学)	L16 神奈川県産の哺乳類相と森林景観構造との関係:大石圭太(神奈川県自然環境保全センター)	調整・討論	K12 木質バイオマス発電所の最適立地に関する検討-山形県を事例として-海邊健二(東北大学)
15:45	D25 市町村における森林GISの運用状況:鹿又秀聡(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)	A35 森林組合と組合員をつなぐ森林組合地域組織の実態と課題:笹田敬太郎(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)	L17 人工林の生物多様性に補栽樹種が及ぼす影響:国内研究のメタ解析:河村和洋(北海道大学)	E10 アカネズミ類種子散布によるミズナラのトドマツ人工林への侵入過程の解明:中西敦史(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)	K13 静岡県における「木材需給情報共有システム」実現に向けた取組:佐々木重樹(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)
16:00	D26 飛騨市における航空機LiDARを用いた広葉樹の資源量推定に関する検討:真砂陽太郎(国際航業株式会社)	A36 森林組合による再造林の現状と課題—南九州の事例—弓削隼(宮崎大学)	調整・討論	E11 成長速度と林分の発達を促進するダケカンバ二次林の施業方法:吉田俊也(北海道大学)	K14 高性能林業機械の燃料使用に関する考察:尾分達也(九州大学大学院農学研究院)
16:15	D27 LiDARデータを用いた1967年作成福岡県林地生産力分布図の検証:鶴崎幸(福岡県農林業総合試験場)	A37 農林業センサスによる生産森林組合の事業分析:松下幸司(京都大学)	L18 樹液に誘引される昆虫群集の樹林間比較:吉田智弘(東京農工大学)	E12 岩手県のブナ択伐天然更新施業地における伐採30年後までの森林動態:杉田久志(雪森研究所)	調整・討論
16:30	D28 無償データを用いてWeb上で解析できる森林計画ツールの開発:加藤頭(千葉大学)	A38 林業経営体のうち受託かつ自伐経営体の動向:農林業センサス調査分析より:川崎章憲(九州大学)	L19 Climate change impacts on the potential geographical distribution of the stag beetles, genus <i>Platycerus</i> :張勝男(東京大学)	調整・討論	
16:45	調整・討論	調整・討論	L20 中国太白山におけるルリクワガタ属4種の宿主材選好性:朱雪姣(東京大学)	E13 母樹保護法及び更新伐により成立したコナラ二次林の林分構造の比較:沼宮内信之(一般社団法人日本森林技術協会)	
17:00		A39 森林保険事業への認識に関する研究:都道府県森林組合連合会を事例に:菱田歩海(筑波大学大学院)	調整・討論	E14 76年生落葉広葉樹林における伐採後2年間の萌芽枝の発生:消長:三木直子(岡山大学)	
17:15		A40 日本における林業への補助金支出が国内林業セクターに及ぼす影響:樋熊悠宇至(筑波大学)		E15 高知県安田川山希少個体群保護林におけるトカサワラの成長と更新:酒井敦(森林総合研究所)	
17:30		A41 高原林業地における木材取引情報の非対称性の把握:茂木もも子(筑波大学・東京家政大学)			
17:45		A42 鳥取県の木材流通構造:芳賀大地(鳥取大学)			
18:00		A43 沖縄県における木造住宅建築の増加とその構造:大田伊久雄(琉球大学)			
18:15		A44 中国における家具産業集積に関する研究:張植農(筑波大学)			
18:30		A45 栃木県における大径材利用の抱える課題:林宇一(宇都宮大学)			
18:45		A46 LVL工場の整備が地域林業に及ぼした影響—鳥取県日南町の事例—:金山知広(京都大学)			

研究発表題目(部門別口頭発表・公募セッション) 3月29日午後 2/2

会場	S1X	S10	S11	S20	S21
開始時刻					
14:00					
14:15	防災2	風致・観光	教育2	微生物	生理
14:30	J11 北海道胆振東部地震で発生した崩壊斜面における初期の表層動態の観測: 中田康隆(北海道立総合研究機構 林業試験場)ら	B1 立山ルートにおける植生復元施工地の緑化木ミヤマハノキの管理について: 大宮徹(富山県森林研究所)ら	C12 少子高齢社会における地域学習コンテンツの開発: 北海道名寄市智恵文の事例: 青柳かつら(北海道博物館)ら	M1 緯度系列がスギ人工林に生息する土壌線虫の群集構造に及ぼす影響: 北上雄大(三重大学大学院)ら	G1 スギ苗木における梅雨期降水の葉面吸収: 香川聡(森林総合研究所)
14:45	J12 近年の広域で発生する表層崩壊の特徴: 経隆悠(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	B2 保存樹管理者に対する意識調査からみた都市緑化・保全制度の現状と課題: 監場将司(名古屋大学)ら	C13 世界自然遺産候補地やんばるにおける林業の担い手の役割と可能性: 大島順子(国立大学法人琉球大学)ら	M2 コナラ属樹木の"樹液酵母"とは何か?: 遠藤力也(理化学研究所)ら	G2 フタバガキ科苗木における乾燥応答: 小林正樹(国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター)ら
15:00	J13 斜面崩壊の引き金となる豪雨の評価についての簡単な検討: 執印康裕(宇都宮大学)	B3 IUCN保護地域管理カテゴリの課題: 伊藤太一(筑波大学)	C14 専門人材の育成に向けた長野県の取り組み: 小山泰弘(長野県林業総合センター)	M3 絶滅危惧種トガサワラの残存林周辺に潜在する外生菌根菌の空間分布: 岡田経太(三重大学大学院)ら	G3 熱帯林冠木における大気飽差に対する気孔反応と葉の特性に関する研究: 辻祥子(京都大学)ら
15:15	J14 地表面に堆積する積雪のせん断抵抗力を考慮した斜面安定解析: 岡本隆(森林総合研究所)ら	B4 オーバーツーリズムによる砂漠化: モンゴル・フグンタル国立公園の事例: 宮坂隆文(名古屋大学)	C15 戦後の高校教育、農業教育における森林・林業教育の変化と課題: 井上真理子(森林総合研究所)ら	M4 フォトグラメトリを用いた子実体の3D標本作製: 白川誠(東京農業大学大学院)ら	調整・討論
15:30	J15 格子法における流木輸送速度の評価方法: 鈴木拓郎(国研 森林研究・整備機構)	B5 屋久島国立公園における山岳部利用のあり方に関する議論の経緯と今後の課題: 土屋俊幸(東京農工大学)ら	C16 林業アカデミーにおける研修上の課題: 小菅良幸(ちなん中国山地林業アカデミー)	M5 コナラ枯死木の分解初期に関わる菌類群集の地理分布: 深澤遼(東北大学)ら	G4 フナの幹における光利用効率とガス交換: 榎本正明(静岡大学)ら
15:45	J16 河道滞留土砂が土砂流出に与える影響に関する土壌浸食モデルを用いた検討: 堀田紀文(東京大学)ら	調整・討論	C17 森林・林業大学校修了生に対する林業経営体の評価: 牧田邦宏(鹿児島大学)ら	調整・討論	G5 リュウキュウコクタン(琉球大学)の剥皮と摘葉が繁殖枝の炭素量、窒素量に及ぼす影響: 谷口真吾(琉球大学)
16:00	調整・討論	B6 Understanding recreation demand of urban green spaces: A use of individual travel cost method: 金慧隣(北海道大学)ら	調整・討論	M6 寒冷地マツ林においてマツ材線虫病原菌の発生パターンを規定する要因: 中村克典(森林総合研究所)ら	G6 マツとフナの葉における非構造性炭水化物動態の日周期の違い: 榎浦正子(京都大学)ら
16:15	J17 樹冠通過雨の成分分離とそれに基づく雨滴衝撃エネルギーの空間的なばらつき: 南光一樹(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら	B7 冒険型パークによる森林利用の新展開: フォレストアドベンチャーを事例に: 平野悠一郎(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)	C18 高校の遠足で取り組む森林環境教育の2年目: 小西伴尚(三重中学校・三重高等学校)ら	M7 日本産針葉樹に対する北米産マツノザイゼンチュウの接種試験: 秋庭満輝(森林総合研究所)ら	調整・討論
16:30	J18 森林火災後の掻き起こし地タケカンバ若齢林の生存状況: 速水将人(道総研 林業試験場)ら	B8 自然ガイド制度の類型化と課題: 寺崎竜雄(公益財団法人日本交通公社)	C19 自然史系博物館におけるボランティア活動がもたらす学習の特徴: 木山加奈子(埼玉県教育委員会)	M8 潜在感染木の中で病原線虫はどこに潜んでいるのか: 二井一禎(京都大学)ら	G7 ゲノム編集により花成抑制遺伝子を改変したポプラの諸特性: 西口満(森林総合研究所)ら
16:45	J19 石狩海岸線の樹高成長に及ぼす微地形の影響: 岩崎健太(北海道立総合研究機構 林業試験場)ら	B9 山岳地における混雑情報提供による登山者への影響: 愛甲哲也(北海道大学)ら	C20 萌芽調査区を利用した森林教育プログラム: 中島皇(京都大学)	M9 日本産 <i>Phytophthora</i> 属菌3種の樹木23種の苗に対する接種試験: 市原俊(森林総合研究所 関西支所)ら	G8 フナ樹冠の花成遺伝子の発現に及ぼす硫酸と硝酸の異なる影響: 斎藤秀之(北海道大学)ら
17:00	J20 2019年台風15号による千葉県内の風倒木と電柱損壊の関係: 黒宮健佑(千葉大学)ら	B10 「ペーパートレイル」問題へのアプローチ: 自然・文化の視点からの示唆: 古田尚也(大正大学)	C21 ドイツ各州の森林法と森林教育: 寺下太郎(愛媛大学大学院)	M10 暗色雪腐病の発病に及ぼす温度と湿度、光の効果: 坂上大翼(東京大学)	G9 ジベレリンに対するヒノキの花量と遺伝子発現: 片畑一郎(岐阜大学)ら
17:15	J21 振動観測、引き出し試験、生態情報からみる立木の耐風性: 上村佳奈(信州大学)ら	調整・討論	C22 単一事例実験法による森林環境教育プログラムの効果検証: 山田亮(北海道教育大学 岩見沢校)ら	M11 サクラ類こぶ病に対する光誘導抵抗性のメカニズムに関する一考察: 石原誠(森林総合研究所)ら	G10 ジャスモン酸メチルの代謝能と樹脂形成の関係性: 楠本大(東京大学大学院)ら
17:30	J22 力学的ダウンスケーリング気象データを用いた冠雪害リスクマッピングの試行: 勝島隆史(森林総合研究所)ら	B11 Monitoring National Parks' Potential and Perceived Constraints in an Era of Internationalization: Jones Thomas E. (Ritsumeikan APU)ら	調整・討論	調整・討論	調整・討論
17:45	調整・討論	B12 国立公園と保護地域における環境保全のための基金に関する研究: 山本清龍(東京大学大学院)ら			G11 低酸素環境下での熱帯樹木の根のフェニルアラニン-アンモニアリアーゼ活性: 山ノ下卓(東京大学)ら
18:00		B13 那須平成の森にみる基金を活用した自然資源の協働型管理: 山島有喜(東京大学大学院)ら			G12 ユーカリが含む多様な加水分解性タンニンのアルミニウム無毒化能の評価: 田原恒(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら
18:15		B14 伊吹山における入山協力金を活用した自然再生事業の展開: 小堀貴子(東京大学大学院)ら			G13 Genome-wide identification and expression analysis of poplar BBX transcription factors involved in stress responses: 李超鋒(東京大学)ら
18:30					G14 スギ多数系統を用いた高温ストレス耐性評価: 高島有哉(森林総合研究所 林木育種センター)ら
18:45					調整・討論

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-004からP1-297) 3月28日 1/5

会場:豊田講堂 1F/2Fフロア # : 学生ポスター賞応募 ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

林政	風致・観光	教育	経営
P1-004 木質バイオマスのエネルギー利用を想定した地域活性化策の効果分析: 田畑智博(神戸大学)ら	P1-018 根株移植木の10年目での生存率と萌芽発生状況: 作田耕太郎(九州大学)ら	P1-32 佐渡演習林における実習の心理的効果: 松倉君予(新潟大学)ら	P1-039# GeoEye-1画像によるナラ枯れの把握: 中川真海(信州大学)ら
P1-005 福島県奥会津地域における分散型木質エネルギー利用のサプライチェーン設計: 根本和直(東北大学)ら	P1-019# 大雪山における登山道侵食防止マットによる高山植生への効果: 佐々木美英(北海道大学)ら	P1-33 全国の大学演習林における技術職員の構成および取得資格の調査: 戸原誠一(鹿児島大学)ら	P1-040# Landsatデータをを用いた林縁周辺における土地被覆変化の把握: 辻藤也(新潟大学大学院)ら
P1-006 三重県南部地域の原木市売り市場における原木取引の現状: 石川智代(三重県林業研究所)	P1-020 文学を通してみる森林文化(1): 『樞山節考』と『蕨野行』: 松岡幸司(信州大学)	P1-34 高知農業高等学校の林業教育におけるICT活用の検討: 高橋一史(高知県立高知農業高等学校)ら	P1-041# 福島県只見町沼ノ平地域における時系列空中写真を用いた地形変動の把握: 篠原朋恵(新潟大学)ら
P1-007 木本性蜜源の利用実態と資源管理上の課題: 山本美穂(宇都宮大学)ら	P1-021 UAVを用いた朝霧高原火入れ茅場の景観モニタリング手法: 丹羽悠二(東京大学)ら	P1-35 ロンドンの保全ボランティアと東京の里山ボランティアにおける奉仕の在り方: 倉本直(明治大学)	P1-042# UAVを用いた2018年台風第21号風倒被害の解析II: 岡田雄一郎(島根大学)ら
P1-008 『岩手県管轄地誌』にみられる明治期の林産物: 泉桂子(岩手県立大学)	P1-022 阿蘇くじゅう国立公園における野焼きの地域別の特徴: 加藤小梅(鹿児島大学)ら	P1-36# 奈良県の中高生を対象とした森林環境教育プログラムの開発と検証: 奥芝理那(近畿大学大学院)ら	P1-043# 長伐期人工林におけるUAV-SRMによる間伐計画支援: 吉井達樹(三重大学)ら
P1-009 『伊豆林政史一資料編』詳細目録の調整: 井出雄二(森林学会員)	P1-023# 北山杉林業に対する管理意欲と地域住民の認識の研究: 高田弥生(京都大学)ら	P1-37# 林業大学校のカリキュラムー長那西小の森若返りプロジェクトIー: 千賀義博(伊那市立伊那西小学校)ら	P1-044# 異なる解析ソフトウェアを用いたUAV計測値の比較: 亀山翔平(日本大学)ら
P1-010 森林環境譲与税を活用した森林整備による減災・防災対策の可能性と課題: 安達啓介(神戸学院大学)	P1-024 アーカイブ画像を用いた六甲山地における名所景観の緑視率の変遷: 大野朋子(神戸大学大学院)ら	P1-38# 私たちの学校林の成り立ちー伊那西小の森若返りプロジェクトIー: 千賀義博(伊那市立伊那西小学校)ら	P1-045# 深層学習を用いた高解像動画からのリアルタイム樹種判別: 田中慧(日本大学)ら
P1-011# Economic Analysis of Future Coastal Planning: Ecosystem Functions vs Disaster Risk Reduction: 大森結衣(京都大学)ら	P1-025 自然景観の季節変化がもたらすレクリエーションの評価ービッグデータ分析ー: 柴田嶺(新潟大学)ら	P1-046# 深層学習を用いた広葉樹の樹種判別に向けた基礎検討: 江澤一照(日本大学大学院)ら	P1-062# 木口画像から読み取る年輪情報と強度の関係: 原田喜一(京都府立大学大学院)ら
P1-012# 中国の集団林をめぐる改革とその方向性の検討: 韋瑛傑(東京大学)ら	P1-026 大津市比良比叡地域における森林管理と道のネットワーク: 深町加津枝(京都大学)	P1-047# 地上レーザ計測における樹高推定式の理論的誘導: 越河一樹(熊本県立大学大学院)ら	P1-063# ヒノキ人工林における列状間伐後11年間の成長動態解析: 館田一歩(宇都宮大学)ら
P1-013# 伝統林業地智頭における江戸時代の変遷: 川下の市場と技術の発展に注目して: 松宮悠夏(鳥取大学)ら	P1-027# 中国における森林セラピー利用の現状: 歴国園(東京大学)ら	P1-048# 地上レーザによる森林計測の課題検討: 山崎浩司(名古屋大学)ら	
P1-014# 地域おこし協力隊は地域の何に魅力を感じているのか?: 柿木歩実(岩手県立大学)ら	P1-028 Twitterを使った住民の健康づくり推進と住民参加の空間情報収集: 藤原章雄(東京大学)ら	P1-049# 地上レーザースキャナによるアカマツ林の形質評価: 重松友希(九州大学)ら	
P1-015# 林業の働き方改革における人事考課の重要性について: 上栗慎吾(鹿児島大学)	P1-029# Twitterのつぶやきで国立公園来訪者の行動を把握できるか?: 梶川将弘(名古屋大学)ら	P1-050# 点群データを利用した若齢人工林における林分構造の解析: 佐藤有晟(宇都宮大学)ら	
P1-016# 中山間地域における在来作物の利用ー長野県飯田市下栗の事例よりー: 上田隆太郎(名古屋大学)ら	P1-030# ツイッターを用いた保護地域来訪者の興味抽出: 位置情報の有無による違い: 久保田裕(名古屋大学)ら	P1-051# ALSを用いた胸高直径・材積推定のTLSによる補正: 古川修平(京都府立大学大学院)ら	
P1-017# まつたけはいつ高級品となったかー戦後のレシピと採取者のヒアリングからー佐々木理沙(岩手県立大学)ら	P1-031# クライミング・エリアの運営実態に関する研究ー笠置山を事例としてー: 佐藤康介(岩手県立大学)ら	P1-052# 航空機LiDARによる常緑広葉樹林資源の利用可能性の把握ー糸島市を事例としてー: 西岡昌泰(九州大学)ら	
		P1-053# 航空機LiDARデータを用いたトドマツ人工林の地位指数推定: 福地孝哉(千葉大学大学院)ら	
		P1-054# Measuring tree height of high-value timber species using LiDAR, UAV-DAP, and ground survey: A comparative analysis: Kyaw Thu Moe (The University of Tokyo)ら	
		P1-055# Traditional knowledge of local people on shifting cultivation system in Bago Mountains of Myanmar: Akari Phyu Phyu Thet (Kyoto University)ら	

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-004からP1-297) 3月28日 2/5

会場:豊田講堂 1F/2Fフロア # :学生ポスター賞応募 ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

造林	T4 樹木根の成長と機能	遺伝・育種	生理
P1-064# スギ特定母樹種中苗の植栽当年の成長に及ぼす初期形状比と下刈り省略の影響:中山葉月(宮崎大学)ら	P1-077# ヒノキ細根は細根系内のどの位置で脱落するのか?:吉田敏(名古屋大学大学院)ら	P1-091# Studying the genetic diversity of Indonesian teak to identify the origin of commercial plantations on Java Island:PrasetyoEko(Tsukuba University)ら	P1-108# Construction of a linkage map in <i>Chamaecyparis obtusa</i> and its comparison with <i>Cryptomeria japonica</i> D. Don:DoganGuliz(新潟大学大学院)ら
P1-065# 海岸林再生地に植栽した広葉樹の3年間の生長:防風ネットとマルチング材:古幡奏未(長野大学)ら	P1-078# 冷温帯林における樹木細根の滲出速度の多樹種比較:畷麻衣子(信州大学)ら	P1-092# 白山国立公園刈込池内の天然林におけるフナノ成木・稚樹集団の遺伝的構造:塚本将司(三重大学大学院)ら	P1-109# スギのヨシ遺伝子と密に連鎖するSNPマーカーの検出:斉藤龍之介(新潟大学)ら
P1-066# 海の波の音と菌根菌がコナラ苗木の3年間の生長に与える影響:武田浩太(長野大学)ら	P1-079# 沖縄マングローブ林における根直径に着目した細根動態の推定:木原友美(京都大学大学院)ら	P1-093# 石灰岩地に隔離分布する絶滅危惧種チヂミネバリの遺伝構造:吉田拓矢(東京大学)ら	P1-110# 胚乳を用いたスギの胚致死遺伝子の検出:自殖家系と他殖家系の比較:梶井敦仁(岐阜大学)ら
P1-067# 土壌に潜在するECM菌とAM菌がコナラ苗の生育に及ぼす影響:矢作和樹(東京農工大学)ら	P1-080# 山岳域における広葉樹と針葉樹の根生存戦略:細根呼吸と形態特性からの探求:岡本瑞輝(信州大学)ら	P1-094# オルガネラDNAを用いた新潟県に分布する <i>Epimedium</i> 属3種の遺伝的解析:小田恵(新潟大学)ら	P1-113# 個体光合成の温度依存性の再現に、陰葉の温度カーブは必要か?:園友翔平(静岡大学大学院)ら
P1-068# スギの植栽密度と成長特性並びに強度特性との関係:植田小晴(京都府立大学)ら	P1-081# スキャナ法によるスギ細根の成長・枯死パターンの解明:趙星一(兵庫県立大学)ら	P1-095# Phylogenetic position estimation of Manokamii larch based on complete chloroplast genome:陳淑芬(東京大学)ら	P1-114# 苗木群落のLAIや粗度が蒸散量と葉温に与える影響:金弘(千葉大学)ら
P1-069# 針葉樹林の択伐施業における選木方法の検討:笠原清史(鳥取大学)ら	P1-082# 長野県カラマツ林におけるシュートと細根の動態と色変化の関係の解明:田村梓(信州大学)ら	P1-096# 屋久島におけるヤクタネゴヨウの遺伝的多様性と集団遺伝構造:柴野達彦(宇都宮大学)ら	P1-115# カゾラのエンボリズム発生・回復過程における水分通導の可視化:平川雅文(東京大学)ら
P1-070# Stand quality of Teak plantation related site conditions in mountainous area of Luangprabang province, Lao PDR:シーモンボンカムホ(名古屋大学)ら	P1-083 福島原発事故後における森林植物根のCs-137移行係数の深度分布:佐々木拓哉(筑波大学)ら	P1-097# 空中花粉のメタゲノム解析における定量性:伊藤愛(岐阜大学大学院)ら	P1-116# 樹皮における物質動態:岩尾一輝(名古屋大学大学院)ら
P1-071# 箭生産のためのモウソウテク木の管理が下層植生に与える影響:東出達也(鳥取大学)	P1-084 スギ個体の根系構造情報からスギ林分の根系分布を推測する:藤堂千景(兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)ら	P1-098# 自然条件下におけるヒノキとサワラの種間雑種形成の可能性について:上塚佑樹(岐阜大学大学院)ら	P1-117# 生育環境の異なるコナラ成木の葉の特性と虫害の樹冠内における鉛直分布:則定優成(東京農工大学大学院)ら
P1-072# 樺木林業における萌芽-保残木施業地の林分構造:村岡宝音(鳥取大学)ら	P1-085 沖縄の亜熱帯林における土壌呼吸量の空間変動とその要因:松本一穂(琉球大学)ら	P1-099# Geographic variation of morphological and physiological traits in <i>Betula ermanii</i> revealed by common garden experiment:Aye Myat Myat Paing(東京大学)ら	P1-118# Non-structural carbohydrates in sprouts of <i>Robinia pseudoacacia</i> trees after cutting treatments:クランニチラギラン(The United Graduate School of Agricultural Science Iwate University)ら
P1-073# 針葉樹人工林内の斜面位置が広葉樹の埋土種子組成および実生数に及ぼす影響:田中真子(東京農工大学)ら	P1-086 ヒノキ人工林における間伐が細根動態に与える影響:仲畑了(京都大学)	P1-100# トドマツにおけるカロチノイドの役割:標高適応との関連に着目して:山崎有(東京大学大学院)ら	P1-119# チシマザサにおける水核活性物質の探索:KuboHikaru(東京大学)ら
P1-074# 76年生落葉広葉樹林における伐採後の実生更新:前田紹吾(岡山大学大学院)ら	P1-087 日本の森林生態系における土壌深度別の細根現存量と細根形質の関係:向井真那(京都大学大学院)ら	P1-101# フナのRADシーケンシングを用いたゲノムワイド関連解析:藤森悠菜(名古屋大学)ら	
P1-075# 「自然配植」技術による広葉樹植栽十年後の人工林伐採跡地の植生:松本敦貞(京都府立大学)ら	P1-088 分光・蛍光撮影によるカラマツ細根の枯死分解過程の評価:中路達郎(北海道大学)ら	P1-102# 遺伝的適地適木を目指した宮城県産スギ精英樹と在来系統の地域性評価:小沼拓矢(東北大学)ら	
P1-076# 亜熱帯常緑混交林における個体の空間分布と樹冠サイズによる樹種間の親和性:新聞一心(琉球大学)ら	P1-089 Comparison of soil core, ingrowth core and root scanner method for root studies in temperate broadleaved forests:安志榮(Chungnam National University)ら	P1-103# Genetic management of Japanese Black Pine population:MukasyafAziz Akbar(九州大学大学院)ら	
	P1-090 ロシア・カラマツ林における森林火災が細根現存量と根呼吸に与える影響:牧田直樹(信州大学)ら	P1-104# GENOMIC PREDICTION OF GROWTH AND WOOD TRAITS OF <i>Shorea platyclados</i> : COMMERCIAL TIMBER IN SOUTHEAST ASIA:SAWITRI(UNIVERSITY OF TSUKUBA)ら	
		P1-105# カラマツの長枝化と花芽分化におけるトレード・オフ関係:馬場俊希(北海道大学)ら	
		P1-106# DNAマーカーを用いた無花粉スギ育種素材の選抜:渡部大寛(新潟大学)ら	
		P1-107# スギ不定胚形成細胞の誘導過程が花粉親寄与率に及ぼす影響:金枝拓実(新潟大学)ら	

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-004からP1-297) 3月28日 3/5

会場: 豊田講堂 1F/2Fフロア # : 学生ポスター賞応募 ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

植物生態	立地	T2 2020年からの森林放射能研究
P1-121# 里山景観内の過去の利用様式の違いが現在の植生構造と与える影響: 村上紅葉(鳥取大学)ら	P1-138# 奥秩父山地におけるシカ忌避植物と環境条件の関係: 牧野結衣(千葉大学)ら	P1-148# 都市緑地の落葉広葉樹林における管理が炭素収支に及ぼす影響: 王郭超(明治大学大学院)ら
P1-122# 宝ヶ池公園におけるアカマツ・コハノミツバツツ群落の再生: 柴田健士(京都府立大学)ら	P1-139# シカ食害下の樹木動態と環境要因がリター生産量に及ぼす影響: 塚本宝(東京大学)ら	P1-149# 都市緑地の落葉広葉樹林における落ち葉の管理が炭素動態に及ぼす影響: 久米俊郎(明治大学)ら
P1-123# 温帯落葉広葉樹林における木本性つる植物の群集構造と個体数: 仲田郁実(東京農業大学)ら	P1-140# 13Cパルスラベリング手法を用いたモウソウチクの炭素輸送過程の追跡: 小林慧人(京都大学)ら	P1-150# 埋立地に造成された東京港野鳥公園の保護区樹林地における窒素動態: 前田健蔵(東京農工大学大学院)ら
P1-124# 沖縄島やんばる地域の天然林におけるリュウキュウマツの出現傾向: 大嶋優希(琉球大学)ら	P1-141# 沖縄島北部の亜熱帯常緑広葉樹林における純一次生産量の年変動: 坂本幸志郎(琉球大学)ら	P1-151# アカマツやミズキの混交するカラマツ人工林における葉面積指数の推定: 小枝慧子(信州大学)ら
P1-125# 沖縄島やんばる地域の非皆伐林における大径木の生育状況: 矢部岳広(琉球大学)ら	P1-142# 種多様性が高い冷温帯広葉樹林における純一次生産量の年変動: 唐澤拓朗(静岡大学)ら	P1-152# 沖縄島北部の亜熱帯常緑広葉樹林における地上部枯死有機物の動態: 阿部隼人(琉球大学)ら
P1-126# 亜高山帯老齢林における樹木個体群の非平衡性: 40年間の観測データから: 鈴木紅葉(横浜国立大学)ら	P1-143# 土壌窒素が異なるヒノキ2林分の樹幹からの距離に応じた細根数形態特性: 土居龍成(名古屋大学大学院)ら	P1-153# 北海道東部の森林における土壌微生物群集と窒素無機化ポテンシャルの関係: 中山理智(京都大学)ら
P1-127# 南アルプス全層雪崩跡地における高木性樹木の初期更新: 宮城昂(信州大学)ら	P1-144# 落葉広葉樹林と針葉樹人工林およびその移行部における土壌呼吸特性: 重藤皓一(静岡大学)ら	P1-154# 洞爺湖中島におけるエゾシカ個体数の変動に伴う植物体化学特性の変遷: 高橋梨帆(酪農学園大学)ら
P1-128# 沼ノ平地すべり域における植生の多様性: 松浦隆介(新潟大学)ら	P1-145# 航空機LiDARによる葉面積指数推定の検討 - 落葉広葉樹林の事例 - : 荒木一穂(岐阜大学)ら	P1-155# 森林流域における水溶性リンの動態に関する研究: 文銘(北海道大学)ら
P1-129# 森林の萌芽動態における攪乱体制と機能形質の役割: 田中翔大(東京大学大学院)ら	P1-146# 温帯林の二次遷移に伴う森林構造と光環境の変化: 松尾智成(京都大学)ら	P1-156# 針葉樹林土壌の溶解有機物組成の季節変化が鉄イオン動態に与える影響: 小林高嶺(北海道大学)ら
P1-130# ニセアカシアの林床萌芽の維持に対する生理的統合の寄与: 青木雅織(秋田県立大学)ら	P1-147# 林冠の開いたクロトウヒ成熟林における枝と幹の伸長量と肥大量の乾燥応答: 田邊智子(京都大学)ら	P1-157# 日本列島の自然林における土壌窒素とリンの可給性を決定する要因: 佐々木真優(京都大学)ら
P1-131# ハリエンジュとヤナギ類の分布に及ぼす河川環境と生理生態的要因: 平山こころ(新潟大学)ら	P1-148# ヒノキ人工林土壌からの二酸化炭素放出におよぼす下層植生の影響: 武居玄(信州大学)ら	P1-158# スギ材のアルカリ金属濃度の個体間差と成長速度・水利用効率との関係: 大橋伸太(森林総合研究所)ら
P1-132# ユキツバキの果実および種子生産に対するクローン繁殖の影響: 小濱宏基(新潟大学)ら	P1-149# スギ人工林皆伐後7年間の土壌呼吸速度の経年変化: 阿部有希子(東京大学大学院)ら	P1-159# 森林内土壌中アルカリ金属濃度と立木の放射性セシウム濃度との関係性: 氏家亨(国土防災技術株式会社)ら
P1-133# 霧雪気候下の辺縁生育域で衰退するブナ個体群における開花結実の現状: 星野恭宏(東京農業大学)ら	P1-150# コナラの菌根感染に及ぼす森林立地と樹木周辺土壌の影響: 塚谷奈古(東京農工大学大学院)ら	P1-160# 非破壊検査機を用いた岩手県内におけるコナラ原木の放射性セシウム濃度の測定: 成松真樹(岩手県林業技術センター)ら
P1-134# 溪畔林構成樹種の種子生産の長期動態とそのメカニズム: 今あゆみ(新潟大学)ら	P1-151# 秩父地域を対象とした、機械学習によるデジタル土壌マッピングの試み: 嶋崎明也(東京大学)ら	P1-161# 異なる空間線量率下でのほだ木用可搬型放射性セシウム検査装置の現地実証: 金田一美有(茨城県林業技術センター)ら
P1-135# テンナンショウ属の花粉媒介者と種子散布者: 浅間山山麓の事例: 前田夏樹(公立大学法人長野大学)ら	P1-152# メジロ体内における種子滞留時間: ヒヨドリおよびシロハラとの比較: 平尾多聞(宮崎大学)ら	P1-162# コナラ当年枝中のセシウム濃度の個体内変動: 長倉淳子(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
P1-136# シカによる下層植生採食がミズナラ林冠木の成長と繁殖に及ぼす間接的影響: 長根由紀子(酪農学園大学)ら	P1-153# 会津地方におけるコナラ萌芽枝の放射性セシウム濃度について II: 橋本正伸(福島県林業研究センター)ら	

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-004からP1-297) 3月28日 4/5

会場:豊田講堂 1F/2Fフロア #:学生ポスター賞応募 ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

防災			利用	
P1-187 木製杭を用いた雪崩防止林造成におけるブナ植栽木の生育特性:柴和宏(富山県農林水産総合技術センター 木材研究所)ら	P1-204 表面波探査による地中埋没流木の判読の可能性:浅野志穂((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P1-221# 安定同位体比を用いた吸水深度推定を目的とした土壌・植物水抽出方法の検討:村中麻咲(京都大学大学院)ら	P1-238 ヒノキ人工林の50%刈状間伐6年後の下層植生遷移が水循環に及ぼす影響:邱瑛璋(東京農工大学)ら	P1-242# 都道府県別の木質バイオマス発電のための未利用木材利用可能量推計:松岡佑典(宇都宮大学)ら
P1-188 全国1km統計DSデータを活用した岐阜県における森林雪害の将来予測:久田善純(岐阜県森林研究所)ら	P1-205# 山地流域における発生・滞留・流出流量の評価:九州北部豪雨の事例:宇田川理奈(東京農工大学)ら	P1-222 谷壁急斜面における土壌水分動態の観測に基づく洪水流出機構の再検討:小島永裕(滋賀県琵琶湖環境科学センター)ら	P1-239 冷温帯落葉広葉樹林における年間の熱収支および蒸散散の年々変動:小坂泉(日本大学)ら	P1-243# Current Situation on Timber Production and Usage in Mongolia:BattuvshinBiligt(Tokyo University of Agriculture and Technology)
P1-189 段階的な目標林型を設定した多雪斜面における木本緑化:相浦英春(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)ら	P1-206# ヒノキ人工林の風害リスク評価における林冠地形と樹木力学特性の統合モデル:小谷野開多(静岡大学)ら	P1-223 山地斜面における土層中の間隙空気の挙動と流出応答:岩上翔(森林総合研究所)ら	P1-240 短スパンクローズドバス法を用いた乱流変動CO2フラックス測定:小南裕志(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P1-244# UAV由来の空中写真を用いた森林施業評価技術の検討:羽柴考佳(岩手大学大学院)ら
P1-190 北海道十勝地方のカラマツ人工林の耐風性とその改善手法の検討:阿部友幸(北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場)ら	P1-207# 宮崎海岸におけるクロマツ林の付着塩分量とその挙動:宮崎祐馬(宮崎大学)ら	P1-224 竜ノ口山南谷3%面積における計画材積率35%間伐による水流出の短期的変化:細田育広(森林総合研究所関西支所)	P1-241 複数気候シナリオを用いた森林から供給される水資源量の気候変動影響評価:澤野真治(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P1-245# 立木情報を考慮したタワーヤード架設可能範囲の広域分析:塚原美都(信州大学大学院)ら
P1-191 立木に作用する風荷重の計測手法の開発:宮下彩奈(森林総合研究所)ら	P1-208# 底生動物群集を指標とした開伐後の森林-溪流生態系の遷移評価:池邊善揮(東京農工大学農学府)ら	P1-225 長期水観測データを用いた全国の森林流域における降水-流出特性の比較:野口正二(森林総合研究所)ら	P1-246# 設置条件からみた森林作業道の損壊実態:生駒直(信州大学)ら	
P1-192 傾斜と風速の分布に基づく日本の針葉樹林で発生する地表火の強度の推定:吉藤奈津子((国研)森林研究・整備機構)ら	P1-209# 樹皮と葉リターの形質に着目した地表火による樹木への潜在的リスク評価:大塚美咲(北海道大学大学院環境科学院)	P1-226 SWATモデルを用いた茨城県の森林小流域における流出量の推定:今村直広(森林総合研究所)ら	P1-247 原木輸送におけるドライバーのヒヤリハット経験:中田知沙(三重大学)ら	
P1-193 クラゲチップの海岸防災林に対する施用効果:全権雨(江原大学)ら	P1-210# 日本の針葉樹人工林における月蒸散量の再現:柳山寛樹(東京大学大学院)ら	P1-227 人工林小流域での若齢時および壮齢時の水循環諸量の変化について:清水貴範(国立研究開発法人 森林研究・整備機構)ら	P1-248 バックホウの路体締固めにおける最適手法の検討:和多田友宏(岐阜県森林研究所)ら	
P1-194 復旧防潮堤での緑化手法の検討—盛土土壌の酸性化に対する留意点:渡辺名月(住友林業株式会社 筑波研究所)ら	P1-211# 樹液流計測で林分蒸散量を求めたければ校正しなさい:藤目直也(東京大学)ら	P1-228 カラマツ人工林と広葉樹林での浸透能の比較—散水装置による野外実験—:廣瀬満(山梨県森林総合研究所)ら	P1-249 花崗岩地域に作設された森林作業道における路面侵食の実態:白田寿生(岐阜県森林研究所)ら	
P1-195 史跡地樹叢の整備:河野修一(愛媛大学)ら	P1-212# Calibration for transpiration estimates of Japanese Larch (Larix kaempferi):TRANHUY(東京農工大学大学院)ら	P1-229 森林土壌中の水移動量の現地観測と数値計算:小林政広(森林研究・整備機構 森林総合研究所)	P1-250 竹粗朶の通水性:山口智(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	
P1-196 樹木根系による史跡の破損:江崎次夫(愛媛大学)ら	P1-213# 冷温帯落葉広葉樹林における6年間のCO ₂ フラックスの変動特性:大庭流維(日本大学)ら	P1-230 釜淵森林理水試験地における間伐が融雪水量および融雪期間に及ぼす影響:久保田多余子(森林総合研究所)ら	P1-251 災害リスクを考慮した森林路網の災害時代替路機能の評価:齋藤仁志(岩手大学)ら	
P1-197 静電容量法によるクロマツ根量の非破壊推定:萩野裕章(森林総合研究所)ら	P1-214# 森林内の積雪と森林外の積雪はどちらが遅くまで残るか?:平田智道(石川県立大学)ら	P1-231 釜淵森林理水試験地における間伐後1年間の浮遊土砂流出:阿部俊夫(森林総合研究所)ら	P1-252 路網計画における到達可能性の提案:白澤敏明(森林総合研究所)	
P1-198 日本の山地・丘陵地における土層厚マッピングとその不確実性評価:山下尚之((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P1-215# 森林流域の地下水における脱窒プロセスの時空間変動とその要因:白井峻太(京都大学大学院)ら	P1-232 温暖多雪域の冷温帯落葉広葉樹林小流域における溶存イオン収支:瀧澤英純(日本大学)ら	P1-253 SFMを使った動画による作業道の出来形計測:瀧誠志郎(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	
P1-199 高時間分解衛星画像を用いた林地崩壊発生状況の把握:古川邦明(岐阜県森林研究所)ら	P1-216# Spatial Variation of stream water quality under different land cover within sub watershed area of Inle lake, Myanmar:Nway Nway Aung(Kyoto University)ら	P1-233 落葉期のカツラ林におけるマルチール放出の空間変動特性:深山貴文(森林総合研究所)ら	P1-254 作業道の情報化施工のための機械開発:鈴木秀典(森林総合研究所)ら	
P1-200 平成30年北海道胆振東部地震で発生した崩壊斜面の植生基盤評価(速報):蓮井聡(北海道立総合研究機構森林研究本部 林業試験場)ら	P1-217# 半島マレーシア熱帯雨林Pasoh森林保護区における降水・流出水の起源の推定:緒方澄人(京都大学)ら	P1-234 常陸太田水文試験地におけるドローンを用いた流域植生情報の把握:飯塚浩太郎(東京大学)ら	P1-255 車両系林業機械の走行距離がカラマツ搬出コストに与える影響:猪俣雄太(森林総合研究所)ら	
P1-201 北海道胆振東部地震で崩壊した斜面の粘土鉱物組成:勝見尚也(石川県立大学)ら	P1-218# 山地流域における基底流量の分布と流域地形的特性:災害時水源活用への検討:猪越翔太(東京農工大学)ら	P1-235 針葉樹若齢林小流域における蒸散量と流出量:高木正博(宮崎大学)ら	P1-256 試作したゴムクローラ式クラムバンクスキッドによる集材作業の生産性:吉田智佳史(森林総合研究所)ら	
P1-202 桜島・有村川流域の斜面における表面侵食の月変化:平岡真合乃(国立研究開発法人土木研究所)ら	P1-219# 堆積岩山地における地形と地質構造が降雨流出に及ぼす影響:福岡諒(京都大学大学院)ら	P1-236 強制通水法による樹液流速測定法の検証:飯田真一(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P1-257 欧州製中距離対応型タワーヤードによる皆伐作業の生産性:中澤昌彦(森林総合研究所)ら	
P1-203 三重県の山地溪流における倒流木の発生と滞留:島田博匡(三重県林業研究所)ら	P1-220# 急峻な森林流域を対象とした分布型降雨流出モデルK-BLADEmodelの開発:亀山敏頭(東京大学大学院)ら	P1-237 根鉢秤量法に基づくHFD法による樹液流速測定のカリブレーション:竹内真一(東海大学海洋学部)ら	P1-258 タワーヤードにおける集材時の索張力と接地圧:佐々木達也(森林総合研究所)ら	

研究発表題目(ポスター発表 P1グループ P1-004からP1-297) 3月28日 5/5

会場:豊田講堂 1F/2Fフロア # :学生ポスター賞応募 ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~17:30

利用	動物・昆虫	T3 森林におけるシカ問題の解決に向けて	微生物	特用林産
P1-259 タワーヤーダの主要張力に関する一考察:岩岡正博(東京農工大学)ら	P1-268# ニホンジカによるスギ幼齢木への樹皮剥皮害と被害発生空間パターン:水嶋啓太(宮崎大学)ら	P1-280 スギ大苗植栽によるシカ食害軽減効果の検証:桑野泰光(福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター)ら	P1-283# 絶滅危惧樹木ヤクタンゴヨウ保全のための外生菌根菌の遺伝的救助:大嶋健資(東京大学大学院)ら	P1-293 生産システムがコナラ丸太樹皮の損傷に及ぼす影響:皆川拓(岩手県林業技術センター)ら
P1-260 作業日報を活用した静岡県における素材生産現場の生産性予測:木村公美(静岡県農林技術研究所)ら	P1-269# ヒノキ人工林ギャップに発達した藪植生に誘引される鳥類相と種子散布:高野翼(静岡大学大学院総合科学技術研究科)ら	P1-281 シカの捕獲管理支援システムの開発:石田朗(愛知県森林・林業技術センター)ら	P1-284# 琉球松林の外生菌根菌群集と森林の履歴:江戸時代の植生情報の利用:安井暲(東京大学)ら	P1-294 バカマツタケ林地接種地におけるシロの菌糸体の定量:今治安弥(奈良県森林技術センター)ら
P1-261 素材生産作業の日報データから林業での生産管理を考える:杉本和也(岐阜県立森林文化アカデミー)	P1-270# プナ二次林択伐による環境変化がオサムシ科甲虫群集に及ぼす影響:清水達哉(新潟大学)ら	P1-282 愛知県におけるGPS首輪調査によるシカの行動圏および行動パターン:釜田淳志(愛知県森林・林業技術センター)ら	P1-285# Ectomycorrhizal fungal communities of <i>Tilia japonica</i> across its distribution range:JanowskiDaniel(東京大学)ら	P1-295 国産マツタケの遺伝構造:黒河内寛之(東京大学)
P1-262 荷役作業自動化のためのインスタンスセグメンテーションによる材検出:有水賢吾(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P1-271# 常緑広葉樹林を流れる小河川における落葉の分解過程:佐藤駿(石川県立大学)		P1-286# ヌメリグテ菌根菌の放線菌がアカマツ実生の成長と菌根形成に与える影響:小川進(東京大学)ら	P1-296 マツタケ胞子への桂皮酸メチルの影響:藤田徹(京都府農林水産技術センター)ら
P1-263 異なるTLS計測方式による原木丸太出材量の推定:佐野俊和(広島県立総合技術研究所林業技術センター)ら	P1-272# CNNを用いたトビムシ自動カウントングシステムの開発:後藤和明(兵庫県立大学)ら		P1-287# 亜高山帯林の倒木上イワダレゴケ群落における共生シアノバクテリアの分布:原巳美子(東京大学大学院)ら	P1-297# 国内竹産業の変遷と存続要因~京都の事例~:笹原千佳(京都大学大学院)ら
P1-264 エチオピア高地における樹木形状の測定:酒井徹(国際農林水産業研究センター)ら	P1-273# 冷温帯森林性昆虫エゾハルゼミの生活史特性と遺伝的集団動態の解明:湯本景将(筑波大学大学院)ら		P1-288# スギ林の地上部に生息する線虫の群集構造:鈴木康平(三重大学)ら	
P1-265 未利用木質バイオマスのチップ敷設による雑草抑制効果の検証:黒田学(千葉県農林総合研究センター 森林研究所)ら	P1-274# 産地試験を用いたプナとプナカイガラタマバエとのフェロモナルカスケード:野中佳祐(東京大学大学院)ら		P1-289# 樹木に寄生する日本産 <i>Neofusicoccum</i> 属菌の分類学的研究:服部友香子(三重大学大学院)ら	
P1-266 積雪期における高視認性安全色の輝度情報:松村哲也(東京大学)ら	P1-275# Productivity and economic losses due to pest infestation of <i>Khaya senegalensis</i> plantations in Benin:DJOTANAKOTCHIFFOR KEVIN GEOFFROY(University of Tokyo)ら		P1-290# Inoculation of both <i>Fusarium</i> sp. and <i>Ceratocystis ficiicola</i> can bring fig saplings to early wilt:姜自如(名古屋大学)ら	
P1-267 熱赤外線カメラ搭載UAVを用いた雪山遭難者の視認性試験:大地純平(山梨県森林総合研究所)	P1-276# フライトミルによるカシノナガキクイムシ飛翔行動の活性化要因の解明:藤原聖真(兵庫県立大学大学院)ら		P1-291# 日光街道桜並木における材質腐朽病害の発生特性:2003年と2019年の比較:渡辺純音(宇都宮大学)ら	
	P1-277# カシノナガキクイムシが穿孔時に好む凹部の角度と飛翔前後の行動変化:隈廣志(京都大学大学院)ら		P1-292# 小笠原産7植物種に対する南根腐病菌の接種試験:大川夏生(日本大学)ら	
	P1-278# トドマツノキクイムシの穿孔孔の空間分布:武井進也(首都大学東京)ら			
	P1-279# トドマツノキクイムシの菌叢のX線マイクロCT観察及び共生菌の分離:三木尚輝(名古屋大学)ら			

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-071からP2-297) 3月29日 1/4

会場:豊田講堂 1F/2Fフロア ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

経営		造林		
P2-071 常緑広葉樹の用材利用の可能性~九州大学伊都キャンパス内外での事例~:溝上展也(九州大学)ら	P2-088 木口画像の特徴量について:細金万智子(日本ユニシス株式会社)ら	P2-105 BLK360による森林調査法とその精度:楢原幸子(京都府立大学)	P2-106 苗木生産における木質繊維を原料とした生分解性育苗容器の可能性:吉村知也(住友林業株式会社筑波研究所)ら	P2-123 1年生カラマツコンテナ苗植栽後の初期成長(第1報):清水香代(長野県林業総合センター)
P2-072 東京都における新ビジネスと広葉樹林施業-田中林業株式会社を事例として-:佐藤孝吉(東京農業大学)ら	P2-089 深層学習による高解像度DTMを用いた既存路網抽出:大久保敏宏(株式会社エフバイオス)ら	P2-107 幼苗移植によるクリーンラーチ挿し木苗生産 I低温順化誘導条件の検討:米田和人(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-124 異なるコンテナで育てたカラマツ苗の植栽後の成長:上村章(森林総合研究所)ら	
P2-073 不成績造林地に侵入した広葉樹の成長予測:龍原哲(東京大学)ら	P2-090 UAVと機械学習を利用した針葉樹単木検出およびDBH推定:竹内史郎(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-108 幼苗移植によるクリーンラーチ挿し木苗生産 II低温順化が成長に及ぼす影響:伏見愛雄(住友林業株式会社)ら	P2-125 下刈り期間が短縮されたヒノキ・カラマツ植栽木の5年後の成長:長谷川喬平(山梨県森林総合研究所)ら	
P2-074 間伐強度の異なるスギ林分における単木距離独立モデルの推定精度比較:福本桂子(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P2-091 UAVを用いた作業道の測量と造林地の周囲測量法III:米康充(島根大学)ら	P2-109 不定胚形成により再生された無花粉スギ苗の <i>in vitro</i> での成長:丸山E毅(森林総合研究所)ら	P2-126 筋残し刈り下での植栽後3年間のスギの成長:八木貴信(森林総合研究所)	
P2-075 わが国のスギ人工林の経営的評価-長期継続調査データの分析-:西園田広(森林総合研究所)ら	P2-092 森林材積のドローン計測と全天球画像による補正方法の試行:井筒憲司(株式会社エフバイオス)ら	P2-110 気温と低温湿層処理がスギの発芽に及ぼす影響:木村恵(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P2-127 複数系統のスギ特定母樹コンテナ中苗を用いた下刈省略試験1年目の苗の成長:山岸極(宮崎大学)ら	
P2-076 針葉樹人工林における直径分布のばらつき推移について:田中邦宏((国研)森林総合研究所関西支所)ら	P2-093 ドローン空中写真によるブナ林の季節変化の把握:小谷英司(森林総合研究所)ら	P2-111 スギコンテナ苗の育苗中の根系発達:飛田博順(森林総合研究所)ら	P2-128 下刈り省略下での特定母樹スギコンテナ中苗の成長と競合状態:平田令子(宮崎大学)ら	
P2-077 東京大学富士産の森研究所カラマツ系統別試験地の成長解析:石橋整司(東京大学)ら	P2-094 UAVにより調査・取得した林冠情報によるコナラ資源量の推定:矢田豊(石川県農林総合研究センター)ら	P2-112 密度調整とソート処理がスギ実生コンテナ苗の形状に及ぼす影響:山中豪(三重県林業研究所)	P2-129 夏挿したオノエヤナギの発根および生存率に影響を及ぼす要因:矢野慶介(森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場)ら	
P2-078 風倒被害に強いカラマツ人工林を仕立てるための施業モデル:滝谷美香(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-095 ドローン空中写真とSfMによる樹冠高推定の問題点-スギ若齢林の事例-:栗屋善雄(岐阜大学)ら	P2-113 日本海沿岸におけるクロマツコンテナ苗の栽培方法と植栽時期の検討:塚原雅美(新潟県森林研究所)ら	P2-130 関東に生育するヤナギ6種における堆肥による成長促進効果:香山雅純(森林総合研究所)ら	
P2-079 民有林での面的な収穫規整のための理論的検討:富山啓介(東京大学)	P2-096 撮影条件の差異がSfM処理に与える影響の評価:山本一清(名古屋大学)	P2-114 秋田県におけるスギコンテナ育苗の事例:佐藤博文(秋田県林業研究センター)	P2-131 岐阜県内に植栽されたコウヨウザンの初期成長:大洞智宏(岐阜県森林研究所)ら	
P2-080 地利条件を考慮した最適造林補助配分による木材生産林のゾーニング:守口海(高知大学)ら	P2-097 UAV-SfMを用いた高精度地位指数マッピングの試行:蝦名益仁(北海道立総合研究機構)ら	P2-115 コンテナ移植後のスギ挿し木の根系発達に及ぼす施肥および灌水処理の影響:伊藤哲(宮崎大学)ら	P2-132 コウヨウザン植栽木の活着・成長特性:池本省吾(鳥取県林業試験場)	
P2-081 林地残材がニホンジカ(<i>Cervus nippon</i>)の間伐林内の移動に及ぼす影響:園原和夏(日本大学)ら	P2-098 被災前後の空中写真・UAV撮影画像の組み合わせ解析による風倒被害の推定:花園創(森林総合研究所林木育種センター北海道育種場)ら	P2-116 暗処理がスギコンテナ苗植栽後の発根に及ぼす影響:染谷祐太郎(環境省)ら	P2-133 荒廃農地でのセンダンの初期成長:糟谷信彦(京都府立大学大学院)ら	
P2-082 苗木生産事業における次期林業経営の検討-足場丸太の場合-:川端俊介(東京農業大学大学院)ら	P2-099 UAV画像及び衛星画像上の針葉樹判別手法の開発:石原正彦(金沢工業大学)ら	P2-117 資材及び育苗方法の異なるスギコンテナ苗の活着と初期成長:佐藤渉(新潟県森林研究所)ら	P2-134 芽かき実施高がセンダンの幹の直径成長に与える影響:横尾謙一郎(熊本県林業研究・研修センター)ら	
P2-083 カンボジアシムリアップ州固定試験地データを用いた遷移過程の評価:加治佐剛(鹿児島大学)ら	P2-100 時系列衛星画像を用いた伐採分布の推定:志水克人(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	P2-118 不織布ポットおよびツリーンセクターを用いたスギ実生苗植栽試験:藤井崇(徳島県立農林水産総合技術支援センター)ら	P2-135 降雨遮断2年目の土壌乾燥に対するスギ成木の応答 I. 葉の水利用特性:井上裕太(森林総合研究所)ら	
P2-084 森林管理におけるNDVIの利用の可能性について:吉野聡(東京農業大学)	P2-101 衛星3次元データVRICONの林業分野への利用可能性に関する検討:前田佳子(国際航業)ら	P2-119 生分解性不織布ポットを用いたスギ・ヒノキ苗の植栽後2年間の成長:北原文章(森林総合研究所)ら	P2-136 降雨遮断2年目の土壌乾燥に対するスギ成木の応答 II. 光合成特性:田中憲蔵(森林総合研究所)ら	
P2-085 二時期の航空機リモートセンシングデータによる森林変化検出:高橋與明(森林総合研究所九州支所)ら	P2-102 衛星画像に含まれる影の三次元点群を用いた解析:松岡真如(高知大学)	P2-120 コンテナ形状がウルシコンテナ実生苗の当年成長におよぼす影響:白旗学(岩手大学)ら	P2-137 降雨遮断2年目の土壌乾燥に対するスギ成木の応答 III. 樹液流速:荒木真岳((国研)森林機構 森林総合研究所)ら	
P2-086 土地被覆タイプの違いが2017年九州北部豪雨災害に与えた影響:太田徹志(九州大学)ら	P2-103 UAV-LIDARによる長伐期にキキ人工林の資源量推定:松英恵吾(宇都宮大学)	P2-121 ミャンマー乾燥地における普通苗と長根苗の土壌深部への根系発達:柴崎一樹(公益財団法人 国際緑化推進センター)ら	P2-138 街路樹4樹種の健全率の年次推移-樹木内部欠陥簡易診断装置を使用して-:内山和子(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	
P2-087 森林内での2周波マルチGNSSによるRTK測位の位置精度検証:高岸且(株式会社パスコ)ら	P2-104 カラマツ人工林における地上型レーザスキャナの精度検証事例:細田和男(森林総合研究所)ら	P2-122 育苗方法の違いは植栽当年のカラマツ類の成長と死亡に影響するのか?:大野泰之(北海道立総合研究機構)ら	P2-139 上川町でのミズナラ人工造林において産地間差は問題になるのか?:平松悠輝(上川町)	

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-071からP2-297) 3月29日 2/4

会場:豊田講堂 1F/2Fフロア ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

造林		遺伝・育種		
P2-140 最近5年間の四国4県の民有林における獣害対策:米田令仁(Forestry and Forest Products Research Institute)ら	P2-157 周囲に広葉樹種子源のないスギ人工林皆伐後に出現する樹種とは:石川実(愛媛県農林水産研究所林業研究センター)ら	P2-159 雌性配偶体DNAを用いたスギのde novo変異の探索:長谷川陽一(森林総合研究所)ら	P2-176 エリートツリーミニチュア採種圃における外部花粉の低減:西原寿明(愛媛県農林水産研究所)ら	P2-193 小型RTK-GNSSキットによる苗木植栽位置の高精度測位と配置図作成:松永孝治(森林総合研究所九州育種圃)ら
P2-141 屋久島のスギ人工林におけるアブラギリの更新状況:金谷整一(森林総合研究所九州支所)ら	P2-158 長伐期施業林における伐採列を利用した中層間伐に伴う更新木の損傷:望月貴治(Φ森林環境研究所)ら	P2-160 スギさし木苗における発根および根系形成に関連する遺伝的多型:福田有樹(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-177 広島県におけるコウヨウザン球果と種子の成熟について:坂田勉(広島県立総合技術研究所林業技術センター)ら	P2-194 ヒノキ科樹木の葉鞘切片からの個体再生・種子胚からの不定胚形成細胞の誘導:細井佳久(森林総合研究所)ら
P2-142 タイのチーク植栽木の生残と直径成長に対する地形と個体密度の影響:楢間岳(国際農林水産業研究センター)ら		P2-161 RNA-seqを用いたサクラ属の生育不全実生で特異的に発現する遺伝子の探索:鶴田燃海(東京大学)ら	P2-178 ヒノキミニチュア採種圃のための剪定と着花促進方法の検討:遠藤良太(千葉県農林総合研究センター)ら	
P2-143 エチオピア在来アカシア林の異なる土地における季節的変動と要因について:竹中浩一(国際農林水産業研究センター)ら		P2-162 秩父山地におけるヒナウチワカエドとコハウチワカエドの交雑実態:齊藤陽子(東京大学)ら	P2-179 スギ樹冠上部、中部、下部での緑枝量・緑枝雄花着花指数・総雄花数の関係:加藤一隆(国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター 北海道育種圃)ら	
P2-144 スギの直径生長と伸長成長の季節変化:齊藤哲(森林総合研究所)ら		P2-163 四国固有のインツサクラの遺伝的特徴:加藤珠理(森林総合研究所)ら	P2-180 無花粉スギの普及促進に向けた育種的な技術・品種開発の取組み:高橋誠(森林総合研究所林木育種センター)ら	
P2-145 スギ精英樹次代検定林の材積成長に品種と立地が及ぼす影響:伊東康人(兵庫農総)ら		P2-164 アスナロ属の耐凍性関連遺伝子のブライマー開発:稲永路子(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター)ら	P2-181 無花粉スギリソースの遺伝子型のカタログ化:坪村美代子(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	
P2-146 スギの成長に遺伝子型と可塑性が及ぼす影響:品種試験地45年目の結果:榎木勉(九州大学)ら		P2-165 高温環境下におけるスギの発現変動遺伝子群の系統間比較:永野聡一郎(森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-182 自殖家系における雌性不稔個体の分離を利用した不稔遺伝子保有精英樹の探索:河合慶恵(研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター(関西育種圃)ら	
P2-147 高齢スギ人工林の林分特性:岐阜県郡上市の事例:宮本和樹(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら		P2-166 スギ環境ストレス応答遺伝子群の発現解析:田村美帆(九州大学大学院)ら	P2-183 関西育種基本区開発したスギ少花粉品種のGA処理による雄花着花の年変動:宮下久哉(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら	
P2-148 スギ高蓄積林分成立条件の高解像度での定量評価:岐阜県郡上市における事例:中尾勝洋(森林総合研究所関西支所)ら		P2-167 BAP処理を行ったクロマツの球果サイズと種子数の関係:宮本尚子(森林総合研究所林木育種センター東北育種圃)ら	P2-184 耐雪性スギの材質指標に関する樹幹内半径方向の変動:宮下智弘(山形県森林研究研修センター)ら	
P2-149 スギの系統による樹冠構造の違いが森林生産に及ぼす影響について:小野田雄介(京都大学)ら		P2-168 カラマツ採種圃における環状剥皮の適期を指標する要因の推定:逢田英俊(岩手県林業技術センター)ら	P2-185 クロマツの連鎖地図構築とマツ材線虫病抵抗性に関する主要遺伝子座の同定:平尾知士(森林総合研究所林木育種センター)ら	
P2-150 針葉樹の枝下高および枝下直径の推定:鳥田宏行(北海道立総合研究機構)ら		P2-169 スギ花芽分化に与えるシベリ処理方法の影響:田中功二(地独) 青森県産業技術センター林業研究所)ら	P2-186 複数箇所で実施した抵抗性クロマツ実生へのマツノザイセンチュウ接種試験:井城泰一(森林総合研究所林木育種センター東北育種圃)ら	
P2-151 北海道江差町におけるヒバ天然林の27年間の動態:真坂一彦(岩手大学)ら		P2-170 異なる時期にマルチキャビティコンテナに挿し付けたスギ挿し種の発根量:丹羽花恵(岩手県林業技術センター)ら	P2-187 東北産アカマツの種子生産年の違いは発芽パターンと当年成長に影響するか? 那須仁弥(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター)ら	
P2-152 茨城県における高齢ヒノキ人工林の林分動態:五十嵐哲也(森林総合研究所)ら		P2-171 クリーンラーチ(グイマツ雑種F1)コンテナ育苗におけるグルタチオン施用効果:成田あゆ(地方独立行政法人北海道立総合研究機構)ら	P2-188 スギ第二世代精英樹候補コンテナ苗の初期成長:藤本浩平(高知県立森林技術センター)ら	
P2-153 成熟したカンバ二次林において間伐は効果があるか?:山崎遥(北海道大学)ら		P2-172 ドロノキさし木苗の成長のクローン間変異:生方正俊(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-189 管接ぎヒノキ個体の林地植栽1年後の状況:山野邊太郎(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター)ら	
P2-154 山形県におけるスギ林皆伐後の天然更新状況:高橋文(山形県森林研究研修センター)ら		P2-173 スギコンテナ苗の活着率と初期成長に及ぼす冷凍保存の影響:大平峰子(森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター)ら	P2-190 スギ検定林における環境効果の見える化と成長量補正手法の検討:江島洋(佐賀県林業試験場)ら	
P2-155 ヒノキ天然更新施業試験の結果から事業計画を考える:酒井武(森林総合研究所)ら		P2-174 空中さし木法による周年のスギさし木発根特性について:佐藤太郎(大分県農林水産研究指導センター)ら	P2-191 西南日本の3地域におけるスギ精英樹の植栽2年後の成長:三浦真弘(森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター(関西育種圃)ら	
P2-156 京都盆地で進行中のコジイの分布拡大は高齢ヒノキ林分でも起こるのか?:壽元道徳(京都大学)ら		P2-175 カラマツにおける萌芽誘導処理:田村明(森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-192 スギ天絞の発現と増殖方法の影響:山田浩雄(森林総合研究所林木育種センター)ら	

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-071からP2-297) 3月29日 3/4

会場:豊田講堂 1F/2Fフロア ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

生理	植物生態	立地
P2-195 観葉植物からのモノテルペン類の放出に関する可能性検討:仲村慎一(高砂熟学工業株式会社)ら	P2-208 白山における標高と融雪傾度に沿ったナナカマド属3種の分布とフェノロジー:木佐貫博光(三重大学)	P2-225 2018年噴火以降の西之島における植物の初期侵入状況:上條隆志(筑波大学生命環境系)ら
P2-196 針葉樹の光合成機能解析-光化学系 I サイクリック電子伝達反応の検出-津山孝人(九州大学)	P2-209 クマザクラの生育環境と分布域:勝木俊雄(森林総合研究所)ら	P2-226 冷温帯高木16種の樹冠フェノロジーと樹液流量の季節変化パターンとの比較:飯尾淳弘(静岡大学)ら
P2-197 カラマツとグイマツの針葉のNDVI画像からのクロロフィル含量の推定:玉城聡(森林総合研究所林木育種センター 北海道育種場)ら	P2-210 アオモジ同齢個体群における雄と雌のサイズと空間分布:川口英之(島根大学)ら	P2-227 コナラの萌芽更新時における炭素動態:高梨聡(森林研究・整備機構)ら
P2-198 プナにおける窒素代謝関連遺伝子群の解析:赤田辰治(弘前大学)ら	P2-211 結実フェノロジーが異なるブナ科樹木の資源動態:韓慶民(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら	P2-228 エルニーニョ・ラニーニャはポルネオ熱帯雨林の群落光合成をどう変えるか?:熊谷朝臣(東京大学)ら
P2-199 カラマツにおける3種のカリウムトランスポーター遺伝子の機能と発現の解析:西村佳穂(信州大学)ら	P2-212 グイマツの球果生産における気温較差モデルの検証:今博計(北海道立総合研究機構)ら	P2-229 草原の蒸散は森林と比べて小さいのか?:宮沢良行(九州大学)
P2-200 北海道で発生したカラマツ集団枯損における衰弱木の生理変化と遺伝子発現:和田尚之(北海道立総合研究機構)ら	P2-213 東京大学愛知赤津サイトにおける種子生産量年変動:岸本光樹(東京大学)ら	P2-230 小笠原諸島の侵略的外来種アカギによる着生及びつる植物群集への影響:安部哲人(森林総合研究所)ら
P2-201 雑草束鞘細胞へのリグニン沈着は葉の水利用・力学特性とどう関係しているか?:河合清定(京都大学)ら	P2-214 ヒノキ天然林における種子生産量と充実率の長期変動:野口麻穂子(森林総合研究所東北支所)ら	P2-231 外来種植栽人工林の現状と課題:長池卓男(山梨県森林研)
P2-202 カエデ属2種における水輸送と分布特性の関係:梅林利弘(東京大学)ら	P2-215 ツツジ科小低木の強制受粉実験:浅間山高山帯の事例:井出朝(長野大学)ら	P2-232 絶滅危惧種オキナワセッコクの自生地と森林管理(2):阿部真(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
P2-203 根圏pH環境が熱帯樹木の根圏低酸素ストレス応答に与える影響:則定真利子(東京大学)ら	P2-216 ツツジ科小低木の果実利用と種子散布:浅間山高山帯の事例:高橋一秋(長野大学)ら	P2-233 マレーシアの再生林における林内環境がフタバギ科の成長に与える影響:伊尾木慶子(武蔵野大学)ら
P2-204 カエデ属樹木の冬季の樹液流出と気温との関係:岩永史子(鳥取大学)ら	P2-217 ヒグマの生息しない島におけるヤマブドウの空間遺伝構造:松山周平(酪農学園大学)ら	P2-234 沖縄島やんばる地域の亜熱帯林における樹洞の発生:高嶋敦史(琉球大学)ら
P2-205 熱帯低地林におけるフタバギ科高木種の水利用特性:東若菜(神戸大学院)ら	P2-218 野ネズミによる捕食圧の変動がオオシラビソ実生の発生に与える影響:千葉翔(山形県森林研究研修センター)ら	P2-235 熱帯雨林内の3次元構造におけるリター分解過程の評価:遠藤いず貴(兵庫県立大学)ら
P2-206 ニホンカラマツ、グイマツおよびグイマツ雑種F ₁ の形成層活動の季節的変化:渡辺陽子(北海道大学)ら	P2-219 ファイルメーカーフロ電子野儀による天然林モニタリングの効率化:磯田圭哉(森林総合研究所林木育種センター)ら	P2-236 低木の受光態勢の光環境可塑性は種によってどのように異なるのか?:石橋和明(静岡大学)ら
P2-207 クロマツの接ぎ木接合部における維管束形成層の再生過程の組織観察:中島剛(青森県産業技術センター林業研究所)ら	P2-220 秋田スギ天然林における樹種別の単幹・複数幹による繁殖特性:太田敏之(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)	P2-248 長野県の亜高山帯における標高別の樹木の成長と窒素同位体比:田中(小田)あゆみ(信州大学)ら
	P2-221 空中写真の判読による北八ヶ岳縞枯れ林の50年間の更新過程の推定:岩本宏二郎(森林総合研究所)ら	P2-249 八郎潟干拓地に造成されたクロマツ防風林土壌の窒素無機化速度:細川奈々枝(秋田県立大学)ら
	P2-222 愛知県北部地域の天然林における約20年間の森林動態:澤田晴雄(東京大学)ら	P2-250 冷温帯林におけるササ除去が窒素動態および外生菌根菌組成に及ぼす影響:福澤加里都(北海道大学)ら
	P2-223 水道水源林における異なる林床植生を持つ天然林の約20年間の種組成変化:星野義延(東京農工大学大学院)ら	P2-251 木質有機物分解への環境影響解明の試み-標準試料による分解試験-:酒井佳美(森林総合研究所)ら
	P2-224 白神山地のブナ天然林の森林動態のサイト間比較:鳥丸猛(三重大学)ら	P2-252 木質燃焼灰施用後3年間のスギ新植林分の成長:山田毅(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら
		P2-253 小面積皆伐をしたヒノキ林分における繁殖器官の生産量の長期観測:中西麻美(京都大学)ら

研究発表題目(ポスター発表 P2グループ P2-071からP2-297) 3月29日 4/4

会場:豊田講堂 1F/2Fフロア ポスター準備8:30~11:00, コアタイム奇数番12:00~12:45, 偶数番12:45~13:30, ポスター撤収16:30~18:00

動物・昆虫	動物・昆虫	微生物		
P2-263 気温変化に対するツキノワグマの環境選択と活動状態の変化:小池伸介(東京農工大)ら	P2-280 鷹取山保護林におけるカンナガキクイムシによるブナ科樹木枯死の経年変化:佐藤重穂(森林総合研究所)ら	P2-282 土壌菌類ギルド間の相互作用が有機物分解に及ぼす影響:執行直彦(東京大学)ら		
P2-264 ニホンジカ生息密度が哺乳動物種の生息状況に及ぼす影響:八代田千鶴(森林総合研究所関西支所)ら	P2-281 カラマツヤツバキクイムシ被害広域把握のための衛星画像処理の検討:小野寺賢介(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P2-283 都市近郊の孤立林におけるシラカシ葉の内生菌群集:松村愛美(東京大学)ら		
P2-265 ニホンジカ分布拡大要因の解析:近藤洋史(森林総合研究所)ら		P2-284 日本国内の温帯林には類似したアーバスキュラー菌根菌群集がみられる:大和政秀(千葉大学)ら		
P2-266 長野県塩尻市東山におけるシカの生息状況に応じた捕獲実証:柳澤賢一(長野県林業総合センター)		P2-285 樹木と共生する外生菌根菌の多様性は保残伐施業によって保全されるのか:小長谷啓介(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら		
P2-267 ツリーシェルターによるスギ・ヒノキ苗木の食害防止効果と成長に及ぼす影響:大橋草博(岐阜県森林研究所)		P2-286 関東地方のヒメコマツ林における外生菌根菌の埋土孢子群集:小泉敬彦(日本大学)ら		
P2-268 分子生物学的手法を用いたシカ・カモシカの判別法の再検討:津田吉晃(筑波大学)ら		P2-287 北極圏森林境界の菌根宿主選択性:宮本裕美子(北海道大学)ら		
P2-269 セシウム137濃度が異なるサケ科溪流魚の胃内容物は異なるか:金指努(福島大学)ら		P2-288 ヤクタネシヨウロの埋土孢子は何年生きるのか:過去の松枯れ被害地から推定:村田政穂(東京大学大学院)ら		
P2-270 沖縄島北部におけるヤンバルクイナの繁殖分布に影響する要因:八木橋勉(森林研究・整備機構森林総合研究所)ら		P2-289 林床管理された都市近郊林における外生菌根菌種組成:石川陽(東京農業大学)ら		
P2-271 ボルネオ島低地熱帯雨林における林冠木13種の種子死亡要因の解明:浅野郁(信州大学)ら		P2-290 サワラ根株心腐被害林における腐朽材中と土壌中の菌類群集組成:原口竜成(東京大学)ら		
P2-272 徳島県北部におけるスズメバチ群集の季節的動態:山下聡(徳島大学)ら		P2-291 イテヨウの枯死に関与する <i>Phytophthora</i> 属菌について:升屋勇人(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら		
P2-273 シイタケ害虫ナガマドキノコバエ類の菌床上の生育ステージ別場所選好性:片桐奈々(岐阜県森林研究所)ら		P2-292 北海道のカラマツはなぜ大量枯死するのか? 徳田佐和子(北海道立総合研究機構 林業試験場)ら		
P2-274 マツ材線虫病初期被害林におけるマツノマダラカミキリ幼虫の罹病木穿孔密度:伊藤昌明(地独)青森県産業技術センター林業研究所)ら		P2-293 トドマツ立木幹・地表部根系損傷からの腐朽進展に関与する要因:山口岳広(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)		
P2-275 山地性バラ科樹木の細枝におけるクビアカツヤカミキリ孵化幼虫の発育:法眼利幸(和歌山県林業試験場)ら		P2-294 リコンピナーゼポリメラーゼ増幅によるスギ赤枯病の迅速診断:安藤裕萌(森林総合研究所)ら		
P2-276 誘引トラップを用いたクビアカツヤカミキリ成虫の捕獲方法の検討:松本剛史(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら		P2-295 デイゴの急速な枯死病害の主な原因である <i>Fusarium</i> 菌の分離及び接種試験:亀山統一(琉球大学)ら		
P2-277 ミズナラ林においてカンナガトトラップで捕獲されたキクイムシ類:西信介(鳥取県林業試験場)		P2-296 日本の戦前・戦後期におけるスギ苗木病害の実態:高畑義啓(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)		
P2-278 カンナガキクイムシのmtDNA配列に見られたダブルピークについて:濱口京子(森林総合研究所関西支所)ら		P2-297 森林マイクロバイオームによる樹木腐朽病害の検出可能性の検討:山田利博(東京大学)ら		
P2-279 カンナガキクイムシの過冷却点の地域変異:北島博(森林総合研究所)ら				

ポスター発表会場配置（豊田講堂[1F/2Fフロア]）

※ポスター番号（下3ケタ）は配置場所番号に対応しています。当日会場に掲示されている配置図を参照してポスターを11：00までに掲示してください。また、ポスターは、発表当日の16：30～17：30（28日）、～18：00（29日）に撤収してください。学生ポスター賞を授賞したポスターは、29日に、受賞ポスターの掲示場所に再掲示します。

3月28日		3月29日	
配置場所番号	ポスター番号	部門	ポスター番号
1	PP-001	JFR論文賞	PA-001
2	PP-002	日林誌論文賞	PA-002
3	PP-003		PA-003
4	P1-004		PA-004
5	P1-005		PA-005
6	P1-006		PA-006
7	P1-007		PA-007
8	P1-008		PA-008
9	P1-009		PA-009
10	P1-010		PA-010
11	P1-011		PA-011
12	P1-012		PA-012
13	P1-013		PA-013
14	P1-014		PA-014
15	P1-015		PA-015
16	P1-016		PA-016
17	P1-017		PA-017
18	P1-018		PA-018
19	P1-019		PA-019
20	P1-020		
21	P1-021		KP-021
22	P1-022		KP-022
23	P1-023		KP-023
24	P1-024		KP-024
25	P1-025		KP-025
26	P1-026		KP-026
27	P1-027		KP-027
28	P1-028		KP-028
29	P1-029		KP-029
30	P1-030		KP-030
31	P1-031		KP-031
32	P1-032		KP-032
33	P1-033		KP-033
34	P1-034		KP-034
35	P1-035		KP-035
36	P1-036		KP-036
37	P1-037		KP-037
38	P1-038		KP-038
39	P1-039		KP-039
40	P1-040		KP-040
41	P1-041		KP-041
42	P1-042		KP-042
43	P1-043		KP-043
44	P1-044		KP-044
45	P1-045		KP-045
46	P1-046		KP-046
47	P1-047		KP-047
48	P1-048		KP-048
49	P1-049		KP-049
50	P1-050		KP-050
51	P1-051		KP-051
52	P1-052		KP-052
53	P1-053		KP-053
54	P1-054		KP-054
55	P1-055		KP-055
56	P1-056		KP-056
57	P1-057		KP-057
58	P1-058		KP-058
59	P1-059		KP-059
60	P1-060		KP-060
61	P1-061		KP-061
62	P1-062		KP-062
63	P1-063		KP-063
64	P1-064		KP-064
65	P1-065		空き
66	P1-066		KP-065
67	P1-067		KP-066
68	P1-068		空き
69	P1-069		空き
70	P1-070		空き
71	P1-071		P2-071
72	P1-072		P2-072
73	P1-073		P2-073
74	P1-074		P2-074
75	P1-075		P2-075
76	P1-076		P2-076
77	P1-077		P2-077
78	P1-078		P2-078
79	P1-079		P2-079
80	P1-080		P2-080
81	P1-081		P2-081
82	P1-082		P2-082
83	P1-083		P2-083
84	P1-084		P2-084
85	P1-085		P2-085
86	P1-086		P2-086
87	P1-087		P2-087
88	P1-088		P2-088
89	P1-089		P2-089
90	P1-090		P2-090
91	P1-091		P2-091
92	P1-092		P2-092
93	P1-093		P2-093
94	P1-094		P2-094
95	P1-095		P2-095
96	P1-096		P2-096
97	P1-097		P2-097
98	P1-098		P2-098
99	P1-099		P2-099

3月28日		3月29日	
配置場所番号	ポスター番号	部門	ポスター番号
100	P1-100		P2-100
101	P1-101		P2-101
102	P1-102		P2-102
103	P1-103		P2-103
104	P1-104		P2-104
105	P1-105		P2-105
106	P1-106		P2-106
107	P1-107		P2-107
108	P1-108		P2-108
109	P1-109		P2-109
110	P1-110		P2-110
111	P1-111		P2-111
112	P1-112		P2-112
113	P1-113		P2-113
114	P1-114		P2-114
115	P1-115		P2-115
116	P1-116		P2-116
117	P1-117		P2-117
118	P1-118		P2-118
119	P1-119		P2-119
120	P1-120		P2-120
121	P1-121		P2-121
122	P1-122		P2-122
123	P1-123		P2-123
124	P1-124		P2-124
125	P1-125		P2-125
126	P1-126		P2-126
127	P1-127		P2-127
128	P1-128		P2-128
129	P1-129		P2-129
130	P1-130		P2-130
131	P1-131		P2-131
132	P1-132		P2-132
133	P1-133		P2-133
134	P1-134		P2-134
135	P1-135		P2-135
136	P1-136		P2-136
137	P1-137		P2-137
138	P1-138		P2-138
139	P1-139		P2-139
140	P1-140		P2-140
141	P1-141		P2-141
142	P1-142		P2-142
143	P1-143		P2-143
144	P1-144		P2-144
145	P1-145		P2-145
146	P1-146		P2-146
147	P1-147		P2-147
148	P1-148		P2-148
149	P1-149		P2-149
150	P1-150		P2-150
151	P1-151		P2-151
152	P1-152		P2-152
153	P1-153		P2-153
154	P1-154		P2-154
155	P1-155		P2-155
156	P1-156		P2-156
157	P1-157		P2-157
158	P1-158		P2-158
159	P1-159		P2-159
160	P1-160		P2-160
161	P1-161		P2-161
162	P1-162		P2-162
163	P1-163		P2-163
164	P1-164		P2-164
165	P1-165		P2-165
166	P1-166		P2-166
167	P1-167		P2-167
168	P1-168		P2-168
169	P1-169		P2-169
170	P1-170		P2-170
171	P1-171		P2-171
172	P1-172		P2-172
173	P1-173		P2-173
174	P1-174		P2-174
175	P1-175		P2-175
176	P1-176		P2-176
177	P1-177		P2-177
178	P1-178		P2-178
179	P1-179		P2-179
180	P1-180		P2-180
181	P1-181		P2-181
182	P1-182		P2-182
183	P1-183		P2-183
184	P1-184		P2-184
185	P1-185		P2-185
186	P1-186		P2-186
187	P1-187		P2-187
188	P1-188		P2-188
189	P1-189		P2-189
190	P1-190		P2-190
191	P1-191		P2-191
192	P1-192		P2-192
193	P1-193		P2-193
194	P1-194		P2-194
195	P1-195		P2-195
196	P1-196		P2-196
197	P1-197		P2-197
198	P1-198		P2-198

3月28日		3月29日	
配置場所番号	ポスター番号	部門	ポスター番号
199	P1-199		P2-199
200	P1-200		P2-200
201	P1-201		P2-201
202	P1-202		P2-202
203	P1-203		P2-203
204	P1-204		P2-204
205	P1-205		P2-205
206	P1-206		P2-206
207	P1-207		P2-207
208	P1-208		P2-208
209	P1-209		P2-209
210	P1-210		P2-210
211	P1-211		P2-211
212	P1-212		P2-212
213	P1-213		P2-213
214	P1-214		P2-214
215	P1-215		P2-215
216	P1-216		P2-216
217	P1-217		P2-217
218	P1-218		P2-218
219	P1-219		P2-219
220	P1-220		P2-220
221	P1-221		P2-221
222	P1-222		P2-222
223	P1-223		P2-223
224	P1-224		P2-224
225	P1-225		P2-225
226	P1-226		P2-226
227	P1-227		P2-227
228	P1-228		P2-228
229	P1-229		P2-229
230	P1-230		P2-230
231	P1-231		P2-231
232	P1-232		P2-232
233	P1-233		P2-233
234	P1-234		P2-234
235	P1-235		P2-235
236	P1-236		P2-236
237	P1-237		P2-237
238	P1-238		P2-238
239	P1-239		P2-239
240	P1-240		P2-240
241	P1-241		P2-241
242	P1-242		P2-242
243	P1-243		P2-243
244	P1-244		P2-244
245	P1-245		P2-245
246	P1-246		P2-246
247	P1-247		P2-247
248	P1-248		P2-248
249	P1-249		P2-249
250	P1-250		P2-250
251	P1-251		P2-251
252	P1-252		P2-252
253	P1-253		P2-253
254	P1-254		P2-254
255	P1-255		P2-255
256	P1-256		P2-256
257	P1-257		P2-257
258	P1-258		P2-258
259	P1-259		P2-259
260	P1-260		P2-260
261	P1-261		P2-261
262	P1-262		P2-262
263	P1-263		P2-263
264	P1-264		P2-264
265	P1-265		P2-265
266	P1-266		P2-266
267	P1-267		P2-267
268	P1-268		P2-268
269	P1-269		P2-269
270	P1-270		P2-270
271	P1-271		P2-271
272	P1-272		P2-272
273	P1-273		P2-273
274	P1-274		P2-274
275	P1-275		P2-275
276	P1-276		P2-276
277	P1-277		P2-277
278	P1-278		P2-278
279	P1-279		P2-279
280	P1-280		P2-280
281	P1-281		P2-281
282	P1-282		P2-282
283	P1-283		P2-283
284	P1-284		P2-284
285	P1-285		P2-285
286	P1-286		P2-286
287	P1-287		P2-287
288	P1-288		P2-288
289	P1-289		P2-289
290	P1-290		P2-290
291	P1-291		P2-291
292	P1-292		P2-292
293	P1-293		P2-293
294	P1-294		P2-294
295	P1-295		P2-295
296	P1-296		P2-296
297	P1-297		P2-297

企画シンポジウム

S1 階層モデルが変える森林科学分野のデータ解析

Power of hierarchical model in forest science

コーディネータ： 飯島勇人（森林総合研究所），伊東宏樹（森林総合研究所）

3月27日 10:00-13:00 会場 S30

本シンポジウムの目的は、階層モデルというモデルが、森林科学分野で得られるデータ解析手法として非常に重要であることを普及することである。森林科学分野に限らず、研究者は自らが目にする現象と現象を駆動する要因を明らかにするためにデータを取得し、データを解析する。しかし、既存の解析手法には、大きく分けて2つの致命的な問題が存在する。1つは、特に野外で得られるデータには研究者が測定する過程で様々な誤差が含まれているため、それをそのまま真の値として扱くと、明らかにしたい要因の効果を検出できない可能性が高まることである。2つめは、既存の解析手法は興味のある特定の要因の効果を帰無仮説の元で評価することが多いが、研究者が目にしていく系全体（例えばある動物種の個体数の変化）の中で興味のある要因（例えば個体数の変化における出生率）がどのような働きをしているのかという、生態的な過程を考慮できない点である。近年海外で盛んに用いられている階層モデルは、これらの問題点を克服している。階層モデルは、興味のある現象やそれを駆動する要因を含む系全体の動態を記述するモデル（生態モデル）と、生態モデルで記述した要素に関して取得するデータの取得過程を記述するモデル（観測モデル）の2モデルから構成される。森林には様々な生物種が含まれ、気象などの外的要因も作用するため、その動態を司る要因は複雑である。また、森林を利用する人間の行動やアンケート結果も、その人間の性別や年齢と言った属性に加え、他者の存在なども影響するため、これらを司る要因はやはり複雑である。そして、このような状況で収集されるデータには様々な誤差が含まれ、欠測も生じうる。そのため、階層モデルは森林科学分野のデータ解析において非常に強力な枠組みとなり得る可能性を秘めているといえる。本シンポジウムでは、階層モデルを概説し、森林科学分野での研究事例を紹介する。

S2 森林遺伝研究で明らかにするブナの生態—樹木の生態遺伝学最前線—

Ecology of Japanese beech revealed by forest genetics: the leading edge in ecological genetics for forest trees

コーディネータ： 玉木一郎（岐阜県立森林文化アカデミー），
長谷川陽一（森林総合研究所），稲永路子（森林総合研究所），
木村恵（森林総合研究所）

3月27日 10:00-13:00 会場 C25

国内の様々な樹木を対象に森林遺伝研究が行われており，研究成果の蓄積が進んでいる。次世代シーケンサーの登場により，データ取得が加速される昨今，蓄積された個々の成果をつなぎ合わせ，もっと大きな枠組みで森林のメカニズムの理解に迫ることができる段階にあるのではないだろうか。例えば，系統地理学的研究では数十樹種以上の結果が論文として報告されており，情報の普及と活用を目指し，研究成果をまとめた書籍も出版されている。複数種の結果をまとめて活用した例である。一方で一つの樹種について，生態・生理を遺伝学的手法を用いて深く追求できている樹種は今のところ限られている。

ブナは，日本の冷温帯の主要構成樹種の一つであり，九州から北海道にかけて広く分布している。日本海側では純林を形成し，太平洋側ではその他の高木性樹種と混交林を形成する。生態・生理に関する研究の蓄積が豊富なだけでなく，日本の森林遺伝学の黎明期から研究の対象とされており，現在でも多くの研究グループにより森林遺伝研究が進められている。

本シンポジウムでは，ブナに関する最新の研究を紹介する。ブナの幅広い研究事例を遺伝学的視点から概観することで，日本を代表する広葉樹であるブナの生態について議論したい。また，ブナの例を通して，成果の蓄積と共有が今後，森林遺伝学の発展に与える影響について考える機会としたい。

S3 森林教育研究のさらなる展開を目指して-森林をフィールドとした教育実践活動から研究の可能性を探る-

For seeking to extend forest education research activities : exploring the possibility of research from educational activities in the forest

コーディネータ： 山田亮（北海道教育大学），井上真理子（森林総合研究所），
中村和彦（東京大学），芦原誠一（鹿児島大学）

3月27日 10:00-13:00 会場 C23

日本森林学会では、森林教育に関するセッションが第114回大会から設けられ、第129回大会から教育部門が設置された。近年では、地域における森林体験活動の展開など、教育に関する研究は、推進が期待されている。ただし、森林に関わる教育活動は、専門家養成のための専門教育から一般市民や子ども向けの普及活動まであり、活動内容も幅広く、様々な実践活動が行われている一方、研究方法の確立には至っておらず、未だ発展途上といえる。森林教育を研究対象として捉え、人を相手にする実践が基本となる教育活動を多角的に読み解き、森林科学の一部門として研究の発展を図るには、近接領域にある多様な分野の研究者や教育活動の実践者をもつ視点を交えて、研究に取り組む必要があるといえる。第129回大会では、森林教育に関わりが深い環境教育、野外教育、木材学や建築学の関係者とともに「森林教育研究のさらなる展開を目指して」と題した企画シンポジウムを開催し、森林教育研究の深化と拡がりの可能性を見いだすことができた。続く、第130回大会でも同様に、森林教育の近接分野の研究者が、教育実践活動から得られる効果について様々な視点で言及した。そして2019年5月、日本森林学会公開シンポジウム「新たな森林教育研究の挑戦-研究と実践現場をつなぐ-」の開催に至り、日本環境教育学会や日本野外教育学会、日本木材学会林産教育研究会との連携のもと、森林教育の実践や研究の課題を整理しながら、その意義や効果を森林科学に関わる研究者に伝えることができ、大きな成果を得た。

そこで、これまでの流れを踏まえ、森林教育研究のさらなる展開を目指して、近接領域の研究者や活動実践者からの研究や実践事例を集めたシンポジウムを企画した。森林科学の知見の普及に関心のある研究者や人材育成に関わる多くの学会員に参加いただき、ともに議論を行いながら、森林教育研究の可能性を追求していく機会としたい。

S4 森林環境譲与税と森林経営管理制度

Forest environmental tax and forest management system

コーディネータ： 香坂玲（名古屋大学），内山愉太（名古屋大学）

3月27日 10:00-13:00 会場 S2Y

森林経営管理法が2019年4月に創設され、市町村を中心とした新たな森林管理の枠組みが設けられた。同時にそのための費用を森林環境税の導入に先駆けて同年度から市町村に交付することとなった。もともと、その源流の異なる二つの政策である森林経営管理法と森林環境税（並びに森林環境譲与税）であったが、税制大綱をはじめ、都道府県の説明では緩やかに対をなすような形での説明が定着しつつある。

本セッションでは、森林の公益的機能の維持と経営管理の区分を前提としながら導入された森林環境譲与税の実情と課題を整理し、研究者と実務者の架橋により、政策的な示唆を抽出する。市町村における森林管理や林政への関心の高まり、施業の好機と肯定的に捉える評価もある一方で、国、自治体の各レベルで課題もある。例えば、既に県税として森林環境税を導入している府県は、税の住み分けを明確化する必要があり、都道府県と市町村の役割分担の見直し等も求められている。

自治体によっては大型の税収が見込まれるが、実態としては行政・現場のマンパワーや担い手不足の問題もあり、抱える課題は自治体毎に異なる面も大きく、もともとの制度設計と現場の間での調整や、自治体間での連携、情報共有が課題となっている。

そこで本セッションでは、新たな局面のタイミングにおいて、既に表れている課題や、今後想定される課題を抽出したうえで、課題への対応策について広く議論を行う。具体的には、森林環境税と森林環境譲与税の実態、県税との関係性、支援策としての意向調査、所有者探索、森林情報の共有の在り方（情報システム・GIS等）等を論考する。セッションでは、新たな政策の市町村の林政、市町村と都道府県の連携への影響の考察に加え、実務レベルでの課題、森林経営学の境界領域の議論にも注目する。

S5 周極域の森林における樹木の成長と炭素動態 — 「樹木根の成長と機能」共同シンポジウム—

Tree growth and carbon dynamics in forest ecosystems in the circumpolar region

コーディネータ： 野口享太郎（森林総合研究所），檀浦正子（京都大学），
平野恭弘（名古屋大学）

3月27日 10:00-13:00 会場 S1X

周極域の森林は地下部に莫大な量の炭素を蓄積しており，陸域生態系の炭素動態を理解する上で極めて重要な生態系であることが明らかになってきた。これらの周極域の森林を特徴づける要素として永久凍土の存在があり，いわゆる北方林は，面積にして20%以上が永久凍土上に分布している。しかしながら，森林限界以南の永久凍土の分布パターンには地域による違いがあり，シベリアでは連続永久凍土，アラスカ内陸部やカナダ北西部では不連続永久凍土，やや低緯度にあたるカナダ東部やモンゴル北部では点状の永久凍土分布が見られる。一方，フィンランドなどの北欧諸国では，森林の分布域は永久凍土の分布域と重ならない。

このような永久凍土の存在は，優占樹種やその成長様式を決める規定要因となっており，例えば，シベリアのグメリニカラマツ林やアラスカ内陸部のクロトウヒ林では，成熟林の林冠閉鎖が見られない，地下部へのバイオマス分配が極端に大きい等，私たちが普段よく目にする永久凍土の無い森林とは大きく異なることが，過去の森林学会大会においても報告されてきた。このような特徴的な樹木の成長パターンは，永久凍土上の森林の炭素動態にも大きく影響することが想像されるが，根の成長や地下部の炭素動態については情報が少ないのが現状である。

本企画シンポジウムでは，この分野の研究を20年以上にわたり牽引してこられた研究者の方々に，主にシベリア，アラスカ，カナダ，フィンランドで行われた研究について紹介していただき，周極域の森林における樹木の成長や炭素動態について情報共有する機会としたい。また，周極域は気候変動の影響を最も受けやすい地域と考えられ，実際に他の地域を上回る温度上昇や森林火災の増加などが観測されている。これらの現象の影響が懸念される中，今後の研究展開や取り組むべき課題についても考える場としたい。

S6 環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測

Forest productivity and distribution under changing environment

コーディネータ： 渡辺誠（東京農工大学）

3月27日 10:00-13:00 会場 S10

産業革命以降、化石燃料の消費増大に代表される人間活動によって、森林を取り巻く環境は劇的に変化している。気候変動に伴う降水量の変化、大気CO₂濃度の上昇、窒素や硫黄などを含んだ酸性物質の沈着量の増加、オゾンやPM_{2.5}などの大気汚染物質が森林生態系に与える地球規模の影響が懸念されている。このような環境変化は、光合成活性の低下、土壌の養分・水分の利用性や病虫害に対する抵抗性といった様々なプロセスに複雑な変化を与え、森林の生産性や分布に影響を与える。そして、そのフィードバック作用として、森林からの養分・水分および揮発性有機化合物などの放出特性も変化する。数十年以上かけて蓄積される森林バイオマス、環境資源としての森林の持続的利用、そして流域レベルでの物質循環の将来予測を行う上で、これら人為的な環境変化と森林・樹木における相互作用の理解は避けて通ることができない重要な課題である。本シンポジウムでは、中国科学院生態環境研究センターの曲来叶氏より中国の北京における大気汚染の樹木に対する影響に関して講演して頂く。そして、関連分野の研究者による環境変化と森林・樹木の関係についての講演を加えて、包括的な討論を行う。様々な分野における最新の知見を持ち寄り、日本をはじめとしたアジア地域の森林に対する大気環境の変化の影響と将来の展望を議論する。特に異なる分野間の異なるスケールで得られた知見を、どのように融合していくのかについての議論を深めることを目的とする。

S7 木質バイオマスの小規模利用に適した燃料調達から上手なエネルギーの使い方

From appropriate procurement of woody biomass for small-scale facilities to wise use of energy produced

コーディネータ： 有賀一広（宇都宮大学），久保山裕史（森林総合研究所），
佐藤政宗（森のエネルギー研究所）

3月27日 15:00-18:00 会場 C15

平成24年7月に再生可能エネルギー固定価格買取制度FITが開始され、木質バイオマス発電、特に固定価格が高値に設定された未利用木材を燃料とする発電施設が、平成30年9月時点で、全国で112カ所新規認定され、すでに61カ所で稼働しています。未利用木材を燃料として利用することは、林業振興や山村の雇用創出などに貢献することが期待されていますが、一方で出力5,000kWで60,000t/年程度が必要とされる未利用木材を買取期間20年間、安定して調達できるかが懸念されています。

そこで、FIT制度では平成27年4月より小規模な発電施設を整備し、地産地消を推奨するため、出力2,000kW未満で40円/kWhの価格が設定されました。また、木質バイオマス発電施設の発電効率は25%前後と低く、設備・燃料コストが高いため、高い経済性を確保することは容易ではありません。一方、バイオマスエネルギー利用の先進地である欧州では、木質バイオマスエネルギーの実に82%が熱として利用されており、実際に発電事業者の65%が熱電併給を行い、熱も生産しています。

このような中、農林水産省と経済産業省は平成29年7月に、報告書「『地域内エコシステム』の構築に向けて」を公表し、小規模熱利用・熱電併給の導入を促進しています。本企画シンポジウムでは、午前中に行われる公募セッション「木質バイオマスの小規模エネルギー利用の現状と課題」において紹介される各地域の取り組みを補足しながら現状を取りまとめ、課題を抽出するとともに、小規模熱利用や小型ガス化炉に適した燃料調達から生産された熱と電気の上手な利用方法まで講演者の皆様にご講演いただきます。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

S8 津波被災海岸林の再生を考える2：海岸林への広葉樹導入の可能性と造成生育基盤での広葉樹の生育状況

The possibility of planting broad-leaved trees in coast forests and the current growth state of the broad-leaved trees planted in the constructed and/or reclaimed afforestation bases

コーディネータ： 小野賢二（森林総合研究所），野口宏典（森林総合研究所），
太田敬之（森林総合研究所）

3月27日 15:00-18:00 会場 C13

東日本大震災大津波による被災海岸林の復興は「東日本大震災からの復興の基本方針」等、国の方針に基づいて取り組まれている。

これまでの企画シンポでは、海岸林の復興を進める上で問題化した「盛土工を伴う生育基盤の土壌物理性不良および植栽木の根系発達不良に着目し、造成基盤上への森林造成に関して、80年代以降のさまざまな実績やそこから得られた成果、併せて現行の海岸林復興における状況と現状の課題を紹介してきた。

林野庁が諮問した東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会の提言「今後における海岸防災林の再生について」は、先般の甚大な津波被災状況を踏まえ、従前有した飛砂防止・防風・防潮等の各種防災機能の回復に加え、津波への被害軽減効果も考慮した海岸防災林の復興を検討し、地域における防災機能を確保する必要があるとした。さらに、そのための留意事項として、林帯の配置や盛土による有効土層厚の確保のほか、地域ニーズを踏まえた多様な森づくり・生物多様性保全の観点から広葉樹植栽の検討にも触れている。

海岸林への広葉樹導入は、マツ材線虫病の顕在化以降、各地で検討され、試行されてきた。しかし、これまでの検討は耐風・耐塩性を中心としたもので、自然土壌とは異なった特殊な土壌特性を持つ造成基盤上への広葉樹導入は先例が少なく、知見の集積が求められている。

本企画シンポでは、海岸林への広葉樹導入の可否に関して、事業ベースでの実績に基づいた取組、成果をご紹介頂く予定である。また、地域における減災、防災機能の確保の面から、こうした既存事業地に植栽された広葉樹の活着、生育、そして根系発達等の状況を研究的観点より現状の調査結果に基づきご報告頂く。そのうえで、現在進行中の海岸林復興事業も含めた、将来の海岸林（研究）へ期待されることや、海岸林の造成、保育、管理上の今後の課題について、情報を共有し、議論を深める場としたい。

S9 無花粉スギの普及促進に向けた技術開発の最前線

Frontier of techniques development aiming at deployment promotion of male-sterile seedlings in *Cryptomeria japonica*

コーディネータ：高橋誠（森林総合研究所），齋藤央嗣（神奈川県自然環境保全センター），
齋藤真己（富山県森林研究所），山田晋也（静岡県農林技術研究所）

3月27日 15:00-18:00 会場 C25

近年，社会問題になっているスギ花粉症の解決に向けて林野庁は花粉発生源対策を推進しており，平成29年度には日本全国で約971万本の花粉症対策苗木が植栽された。現状ではこれらのお大半が少花粉スギや低花粉スギであり，無花粉スギの苗木生産量は数万本程度にとどまっている。しかし，無花粉スギは花粉を全く飛散させない特性を有していることから，今後の花粉発生源対策における積極的な普及促進が望ましい。

そこで，本シンポジウムでは無花粉スギの普及促進に向けて，農業分野との連携や，果樹分野からの技術の導入，地域環境の活用等といった独創的な発想で技術開発を行っている研究者らに最新の成果について報告していただく。また，新たに開発した技術を導入することによる低コスト化や省力化の可能性についても情報を提供していただき，今後の各地域における増産体制の整備の見通しなど，無花粉スギの今後の普及促進について討議したい。

S10 次世代の林業技術者育成に向けて ―誰が森林のデザインを担うのか

Cultivating the future generation of the forestry expert – Who shall design forest and forestry?

コーディネータ： 田村典江（総合地球環境学研究所），奥山洋一郎（鹿児島大学）

3月27日 15:00-18:00 会場 C23

森林環境税の導入や森林経営管理法の策定など，森林管理の政策枠組みが大きく変化している。しかし制度は森林管理に実効性を持たせるための道具に過ぎず，地域の森林の将来像をどう描き，どう形づくるのかという問いは，本質的な検討課題として，依然，森林・林業界に残されている。

昨年度の本学会では，「現代の林業専門教育はどうあるべきか ―森林科学・技術と社会を再考する」というテーマで，専門教育に求められるものについて議論を行った。その結果，林業技術者は大きくマネージャーとワーカーに区分できること，両者の役割を理解した議論が必要である一方で，ワーカーについては緑の雇用研修や林業大学校等で体制の充実やカリキュラムの近代化が進んでいることが確認された。一方で，地域の森林の将来を描く能力，コーディネート力をもったマネージャーの育成については，あいまいな部分が多く残されていることわかった。

これまで，マネージャーの育成は公務員の再教育や資格取得に向けた研修として整備されてきた。これは，日本では従来，森林管理のマネージャーは，主として林業系公務員がその役割を担い，公務員育成のうちに技術者育成が内包されてきたためである。しかし，森林の将来ビジョンが一定であった間伐・育林中心の時代から主伐が本格化する時代へと移るなかで，地域の森林管理は行政のみで設計しうるものではなくなりつつある。例えば，ある林地に対して，将来的にも針葉樹の木材生産林にするのか，他の機能を重視した森林にするのか，場合によっては他用途に転用するのかなど，森林の将来を見通した生産，再造林の設計が重要であり，将来像を描く中で地域の様々な主体を取りまとめ，合意形成を担う技術者が必要とされている。本企画シンポジウムでは，誰が森林のデザインを担うのか，次世代の林業技術者育成に高等教育機関・研究機関はどのような役割を果たすべきかについて議論したい。

S11 生理部門企画シンポジウム「日本林業の造林技術的課題を樹木生理学から考える」と
ポスター1分紹介

Physiology Section Symposium “Approaching silviculture technical issues in
forestry in Japan from tree physiology” and poster introduction

コーディネータ： 則定真利子（東京大学），田原恒（森林総合研究所），
小島克己（東京大学），斎藤秀之（北海道大学），
津山孝人（九州大学），飛田博順（森林総合研究所），
松本麻子（森林総合研究所）

3月27日 15:00-18:00 会場 S11

講演会「日本林業の造林技術的課題を樹木生理学から考える」と生理部門のポスター発表
の1分紹介からなる生理部門の企画シンポジウムを開催します。

生理部門では樹木の成長の仕組みを明らかにする研究に携わる方々の情報・意見交換の
場となることを目指します。個体から細胞・分子レベルまでの幅広いスケールの現象を対
象とした多様な手法によるアプローチを対象として、以下のキーワードを掲げています：
樹木生理，個体生理，生態生理，水分生理，栄養成長，生殖成長，物質輸送，栄養，環境
応答，ストレス耐性，光合成，呼吸，代謝，細胞小器官，細胞壁，植物ホルモン，組織培
養，形質転換，遺伝子発現，ゲノム解析，エピゲノム解析，オミクス解析。従来の研究分
野の枠組みにとらわれることなく、さまざまなスケール・手法で樹木の成長の仕組みの解
明に携わる多くの皆様に生理部門での口頭・ポスター発表にご参加頂くとともに本シンポ
ジウムにご参集頂きたいと考えております。

講演会では、日本林業が直面している造林技術的課題の解決に向けて樹木生理学的知見
がどのように活かせるのかを考えます。東京大学の丹下健氏に現在の日本林業の造林技術
的課題の概要と生理学的アプローチへの期待について講演頂いたのち、苗木生産に焦点を
当て、森林総合研究所の原山尚徳氏に、苗木の生理生態学的特性の解明による、カラマツ
のコンテナ苗利用に関わる諸課題の克服に向けた取組について、また同研究所の森英樹氏
に、QTL（量的形質遺伝子座）解析等を通して見えてくる、スギの成長量や材質の決定の仕
組みについて、現在の知見の概説を含めて研究成果を披露頂きます。

1分紹介では、生理部門でポスター発表をされる方に発表内容を1分間でご紹介頂きま
す。大会での発表申し込みの締め切りの後に、生理部門でのポスター発表に発表申し込
みをされた方々に1分紹介への参加を呼びかける予定です。

S12 森林の多面的機能のモデリング：現状と課題

Modeling multiple functions of forest ecosystems - achievements and issues

コーディネータ： 山浦悠一（森林総合研究所），五味高志（東京農工大学），
柴田英昭（北海道大学）

3月27日 15:00-18:00 会場 S20

森林は木材生産機能のほかに水源涵養や国土保全，生物多様性の保全など，様々な機能を有する。国民から期待される森林の機能は地域によって異なる一方で，成熟した人工林は近年各地で盛んに伐採されるようになった。人工林の様々な機能をより高めるため，針葉樹単層林から広葉樹が混交し階層構造が発達した林分への誘導の必要性についても指摘されている。林相が森林の多面的機能に及ぼす影響を明らかにし，モデリングすることの重要性は，従来に増して大きくなってきたと言える。しかし，森林施業が森林の多面的機能に及ぼす影響については，従来から様々な研究が行なわれているものの，情報は断片的であり，林齢や樹木密度，構成樹種といった異なる属性を有した森林の多面的機能評価を俯瞰的に評価した事例はほとんどない。

森林を含めた各種土地利用が提供する機能（サービスとも呼ばれる）に関しては，InVESTモデルなど国内外で開発されたツールを用いて推定することが可能となってきた。一方で，人工林が森林景観で重要な日本では，天然林と人工林の差異を考慮に入れて森林施業と森林の機能の関係を明らかにし，それに基づいた新たなモデルを構築することも重要であろう。

そこで本企画シンポジウムでは，森林の組成や構造，立地環境とその機能の関係性，それらのモデル化について，その到達点と課題を関連研究者が集い議論する。研究成果を森林計画や政策に利用するユーザーからの視点，多様な森林管理のニーズなどの視点も交え，聴衆とともに森林の多面的機能のモデル化とその活用への議論を期待したい。

S13 国産漆の増産に向けて苗木生産を考える

To produce seedlings of lacquer trees, *Toxicodendron vernicifluum* toward high urushi lacquer production in Japan

コーディネータ： 田端雅進（森林総合研究所），渡辺敦史（九州大学）

3月27日 15:00-17:00 会場 C14

ウルシの樹脂を含む樹液（漆）は、国宝・重要文化財の保存・修復等伝統文化の維持に貢献してきたが、昨今伝統文化を支える国産漆の供給が危機的状況にある。現在、日本で使用される漆の約97%を中国産が占め、国産漆は残り3%程度しか生産されていない。国宝・重要文化財の保存・修復において国産漆と中国産漆を混合して使用してきたが、国においては国産漆のみを用いた国宝・重要文化財の保存・修復を進める方向で取り組んでいることから、安定的な需給体制を確立する必要性が高まっている。一方、ウルシ果実はロウ成分を含んでおり種子の発芽には脱蠟処理が必要であるが、種子発芽に関わる十分な知見はなく、苗木供給体制の整備も遅れていることから、近年、苗木が不足する問題が発生している。これまで平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業及び平成28年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（現、イノベーション創出強化研究推進事業）で研究を行い、第123・124・129・130回森林学会のテーマ別シンポジウム及び企画シンポジウムにおいてウルシ林の植栽適地、漆が良く出る個体を確実に識別・同定出来るDNAマーカーの開発、国産漆の生産に関わる収益性等について報告し、情報共有した。

今回のシンポジウムでは、ウルシ林における遺伝的多様性、発芽処理が種子発芽に及ぼす影響、種子生産を阻害する被害等の研究成果を発表していただき、苗木生産技術に関わる課題を整理し、今後の苗木供給体制の整備について議論を深めたい。

公募セッション

T1 木質バイオマスの小規模エネルギー利用の現状と課題

Current status and challenge of small-scale utilization of woody biomass for energy

コーディネータ： 有賀一広（宇都宮大学），
久保山裕史（森林総合研究所），佐藤政宗（森のエネルギー研究所）

3月27日 10:00-13:45 会場 C15

平成24年7月に再生可能エネルギー固定価格買取制度FITが開始され、木質バイオマス発電、特に固定価格が高値に設定された未利用木材を燃料とする発電施設が、平成30年9月時点で、全国で112カ所新規認定され、すでに61カ所で稼動しています。未利用木材を燃料として利用することは、林業振興や山村の雇用創出などに貢献することが期待されていますが、一方で出力5,000kWで60,000t/年程度が必要とされる未利用木材を買取期間20年間、安定して調達できるかが懸念されています。

そこで、FIT制度では平成27年4月より小規模な発電施設を整備し、地産地消を推奨するため、出力2,000kW未満で40円/kWhの価格が設定されました。また、木質バイオマス発電施設の発電効率は25%前後と低く、設備・燃料コストが高いため、高い経済性を確保することは容易ではありません。一方、バイオマスエネルギー利用の先進地である欧州では、木質バイオマスエネルギーの実に82%が熱として利用されており、実際に発電事業者の65%が熱電併給を行い、熱も生産しています。

熱利用・熱電併給に当たっては、事業者自らが熱の需要先を開拓する必要があるとともに、熱の販売価格が固定されていないことなどから、導入に当たっては慎重な検討が必要となっています。このような中、農林水産省と経済産業省は平成29年7月に、報告書「『地域内エコシステム』の構築に向けて」を公表し、小規模熱利用・熱電併給の導入を促進しています。本公募セッションでは各地域で取組まれている木質バイオマスの小規模エネルギー利用についてご紹介いただき、小規模エネルギーの現状を整理するとともに、今後の課題に関して議論を深めたいと考えております。

T2 2020年からの森林放射能研究

Radioactivity studies in the contaminated forests after 2020

コーディネーター： 小松雅史（森林総合研究所），大久保達弘（宇都宮大学）

3月27日 10:00-13:00 会場 C13

ポスター発表 3月28日 P1-162~P1-186

この大会が行われる2020年3月には、福島第一原発事故からすでに9年が経過する。前年度の大会では、これまでの研究結果から森林の放射性セシウムは変化の小さい「準平衡状態」にあるのでは、という視点からセッションの討論を行ない、参加者からも準平衡状態を実感しているという意見を得た。放射性セシウムが森林で平衡状態にあるのであれば、これ以上調査・研究を行う必要はないのでは、という意見もあるだろう。しかし、緩やかな平衡状態になったことでさらに研究の必要性が増したと考えている。その理由の一つとして、変化が小さくなったとは言えチェルノブイリ原発事故後と同様に完全な平衡状態には達していないことが挙げられる。主要な汚染元素である放射性セシウム137の半減期が約30年と長く森林内に留まることから、長期的なスパンで見据えるのであればより高精度な予測が求められる。また一方で、より巨視的な観点から準平衡状態を捉えると、事故初期はサイト間・サイト内のヘテロな汚染によって生じるばらつきが解釈を難しくさせていたが、時間経過によってばらつきが小さくなり、生物種や環境による影響をより評価しやすい状況になったと言える。そのために様々な時空間スケールで森林内の放射性セシウムの挙動をより詳細に理解し、得られた成果をいまだ続いている森林および林産物の汚染問題の解決または緩和技術の開発、将来万が一同様の事故が起きてしまった場合に被害を最小限に止めるための指針、といったものに繋げていく必要がある。今後もさらなる森林放射能研究の発展が望まれることから、引き続き公募セッションを企画することとした。社会科学的観点も含めた幅広い分野・視点からの参加をお願いしたい。

T3 森林におけるシカ問題の解決に向けて

For eliminating the impact of deer on forestry and forest ecosystems

コーディネータ： 藤木大介（兵庫県立大学），飯島勇人（森林総合研究所），
明石信廣（北海道立総合研究機構），安藤正規（岐阜大学），
田村淳（神奈川県自然環境保全センター）

3月27日 15:00-17:15 会場 S30

ポスター発表 3月28日 P1-280~P1-282

全国各地におけるシカの増加によって、森林では様々な影響が顕在化している。シカによる森林への影響を軽減するためには、シカの生息状況や森林への影響の把握方法、影響の程度を決定する要因の解明のみならず、科学的モニタリングや捕獲技術に支えられた個体数管理手法の確立が必要とされる。また、これらの知見や技法を育林技術や林業経営、さらには森林に関する政策と統合するための多様な視点からの検討が必要である。

シカによる影響の蓄積によって、森林生態系に容易には回復させることのできない変化が生じることが明らかにされつつあり、他の生物や土壌などに及ぼす影響についても研究がすすんでいる。森林への影響が広域化し、これまでシカの少なかった地域でもシカ対策が求められるようになってきているが、そこでは、すでに対策がすすんでいる他地域の事例が大いに参考となるだろう。一方、林業分野ではシカの生息下で適切に施業を進めていくための方策が求められており、更新施業の中でシカ捕獲を実施するなどの実験的取り組みなども実施されている。今後、人工林資源が成熟して再造林面積が増加することが予想される中、再造林地のシカによる更新阻害問題が深刻化する可能性がある。育林技術や林業経営の視点からのシカ対策に関する研究も大いに取り組まれる必要があるだろう。

本セッションは、6回目の開催となる。今年も、シカ問題に関心をもつ多様な分野の研究者の参加による活発な議論を行いたい。

T4 樹木根の成長と機能

Development and function of tree roots

コーディネータ： 平野恭弘（名古屋大学），野口享太郎（森林総合研究所），
大橋瑞江（兵庫県立大学）

3月27日 15:00-18:30 会場 S1X

ポスター発表 3月28日 P1-077~P1-090

『樹木根の成長と機能』の公募セッションでは、樹木根をキーワードに太い根から細い根まで、生態系レベルから細胞レベルまで、根と関連した多岐にわたる研究を公募し、報告対象といたします。本公募セッションでは、樹木根だけでなく、様々な境界領域分野との融合を目指します。ご自身の研究内容に「根」に関する測定や「根」に関連する事象があれば、葉や材質特性など樹木地上部に関する研究、土壌微生物、土壌化学特性、土壌緊縛力など土壌に関する研究、温暖化や酸性化といった環境変動に関する研究など、根以外を主な対象とする発表も広く歓迎いたします。また、今後「根」を測定項目としたい会員向けに測定方法の共有も目的とします。発表形式は口頭発表またはポスター発表とします。

発表当日は、趣旨説明の後、口頭発表していただき、適宜発表間に討論時間を設け、最後に総合討論の時間を設ける予定です。趣旨説明では根研究学会の開催する根研究集会の紹介、2020年6月に米国で開催予定の第8回国際樹木根会議の紹介など樹木根研究の国際および国内動向を森林学会員に広く情報提供します。総合討論では、樹木根と境界領域分野との研究者間ネットワーク作りを促進するための討論も行いたいと思います。

T5 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究

Basic and applied studies on forest amenities

コーディネーター： 上原巖（東京農業大学）

3月27日 15:15-17:00 会場 S21

本セッションは第131回大会で16回目を迎え、森林科学研究の分野の中で、一般市民の需要と関心が高い分野の1つである。これまでの大会では、生理的および心理的なアプローチの基礎的研究をはじめ、臨床事例、研究手法、尺度開発、国内外の地域における事例研究などが発表されてきた。基礎的研究から、保健休養に供する森林環境の整備といったハードの課題、治療・保養プログラム作成等のソフトの課題、そして各臨床症例・事例研究や、保養地事例などに至るまで多岐にわたった内容になっていることが特徴である。そのため、森林・林業関係者だけでなく、医療、社会福祉、心理、教育など、多領域の専門家に参加していただきながらコラボレーションを行ってきたことが本セッションの特色であり、存続意義である。森林環境は、一般市民の日常的な健康増進はもとより、日常の各職場における保健衛生や、医療、福祉、教育などの社会における諸分野での可能性が大きい。本大会のセッションでは、そのような諸分野における視点から心身の保健休養に供する森林、樹木の利用、活手法などの調査研究だけでなく、特に事例研究にも重点を置き、森林の持つ保健休養機能についての研究手法、アプローチ方法についても検討、考究することを目的とする。

T6 熱帯林研究

Tropical Forestry Research

コーディネータ : TERAUCHI Daisuke 寺内大左 (Toyo University 東洋大学),
OTA Masahiko 大田真彦 (Kyushu Institute of Technology 九州工業大学),
ONDA Nariaki 御田成顕 (Kyushu University 九州大学),
FUJIWARA Takahiro 藤原敬大 (Kyushu University 九州大学)

3月29日 10:15-12:00 会場 S21

This session is designed to share knowledge, information, and experiences on tropical forestry research. To address issues and achieve better conservation and utilization of tropical forests, it is essential to have the following: (1) knowledge on interdisciplinary approaches, (2) dialogue based on accurate information, and (3) learning from past experiences of trial and error. We invite presentations from various research fields such as ecology (e.g. biodiversity, carbon stock), silviculture, socioeconomics (e.g. farm economy, community forestry), anthropology (e.g. local livelihood, culture), politics (e.g. national and international policy), and information science (e.g. remote sensing, GIS). We also welcome presentations by international students as well as young Japanese researchers. To carry out discussion among participants from different countries, English is official language for all presentations and following question and answer in this session. To facilitate lively discussion in this session, the speakers are encouraged to make your presentations understandable for the participants with different background and mother languages.

学会企画

1. 「国有林野の管理経営に関する法律等の一部を改正する法律」の概要

コーディネータ： 大住克博（企画・社会連携担当理事，鳥取大学）

3月27日 18:00-19:00 会場 S30

昨年施行された森林経営管理法による新たな森林管理システムでは，経営管理が不十分な民有林を意欲と能力のある林業経営者（森林組合，素材生産業者，自伐林家等）に集約・集積することが打ち出された。このシステムを円滑に実施し意欲と能力のある林業経営者を育成するためには，安定的な事業量の確保が必要であるとされる。そこで，「国有林野の管理経営に関する法律等の一部を改正する法律」（以下，本法）は，国有林野が民有林を補完する形で，こうした林業経営者に長期的・安定的に木材を供給するために提案された。国有林では，本法等に基づき，今後増加が見込まれる国有林材の一部について，公益的機能の維持増進や地域産業の振興等を条件に，現行の入札に加え，一定期間・安定的に原木供給できる仕組みを拡充することとしている。今後の森林経営に重要な影響を与えると考えられる本法について，林野庁から最新情報を含め説明していただき，学会員の間で情報共有を図る機会としたい。

説明者： 武田義昭（林野庁経営企画課調査官）

コメンテータ： 土屋俊幸（東京農工大学），横井秀一（岐阜県立森林文化アカデミー）

2. ダイバーシティ推進セッション：森林学会におけるダイバーシティの実現について
考える～だれもが楽しく参加できる学会・大会を目指して～

コーディネータ： 高山範理（ダイバーシティ推進担当理事，森林総合研究所），
竹内啓恵（ダイバーシティ推進担当主事，東京大学）

3月27日 13:00-15:00 会場 S21

森林学会では、2018年4月に男女共同参画部門をダイバーシティ推進部門に改組し、さらに同年12月にこれまでの理事・主事体制から委員会として、ダイバーシティ推進に係る運営・組織的体制を強化したところです。

一方、昨年度大会においては、学会企画としてランチョンワークショップを開催し、男女共同参画やダイバーシティ推進に係るテーマのうち、学会として何を優先すべきなのか等について会員のみなさんと検討しました。そこで今回の名古屋大会では、ダイバーシティ推進に係るセッション（報告会およびシンポジウム）を開催し、前半の報告会にて昨年度のワークショップで寄せられた学会員の要望・意見、男女共同参画に関するデータ、他学会でのダイバーシティ推進に向けた取り組みや事例等について会員のみなさまと共有するとともに、後半のシンポジウムにて、今後森林学会として進むべきダイバーシティ推進の方向性等についてみなさまと一緒に考える機会を設けたいと思います。

学生・ポストク・若手・中堅・ベテラン・外国の方を問わず、多くの会員のみなさまのご参加をお待ちしております。

共催：国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

後援：男女共同参画学協会連絡会

3. 森林学会発行の2誌における査読のプロセス

コーディネータ： 正木 隆（日林誌編集担当常任理事，森林総合研究所）

伊藤 哲（JFR 編集担当常任理事，宮崎大学）

3月29日 17:00-19:00 会場 S2Y

論文執筆において、投稿すること以上に厄介なのは査読のプロセスである。査読に対してどのように対応するかで、論文の掲載に至るまでの時間が早まり、あるいは遅くなり、手間が減り、あるいは増える。そこで、学会が発行する森林学会誌と JFR の両編集委員長として、本企画を提案する。本企画は、大きく3つの観点からの話題提供で組み立てる。

第1に、査読者がどのような点から原稿を見ているか、どのようなことを考えて審査報告を仕上げているか、について紹介する。この話題提供では、これから査読が依頼される頻度が増すかもしれない若い研究者にも参考になるような内容を伝えたいと考えている。第2に、査読者からの報告をとりまとめる編集委員が、どのようなことを考えて審査結果をまとめているか、について話題提供する。そして、第3に、著者は編集委員のコメント及び査読者の指摘に対して、どのように対応すればよいのか、について話題提供する予定である。

話題提供予定

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1) 査読者がやっていること | 伊藤 哲（宮崎大学，JFR 編集委員長） |
| 2) 編集委員がやっていること | 正木 隆（森林総研，日林誌編集委員長） |
| 3) 著者がやるべきこと | 井上昭夫（近畿大学，JFR 編集委員） |

第7回 高校生ポスター発表 学校名・発表題目

3月29日（日）ポスター発表会場（豊田講堂 1Fフロア）

発表 11：00～14：00（コアタイム 奇数番 12：00～12：45 偶数番 12：45～13：30）

表彰式など 14：00～

発表番号	学校名	発表題目
KP-021	北海道岩見沢農業高等学校	巻き枯らし間伐を施したトドマツにおける樹木水分量の変化についての調査
KP-022	北海道旭川農業高等学校	旭農版コンテナ苗の生産 ～1粒播種までの道～
KP-023	北海道旭川農業高等学校	アクセシブルデザイン・スロープトイの開発と公開
KP-024	岩手県立一戸高等学校	ウルシの苗木生産技術向上に関する研究
KP-025	宮城県農業高等学校	究極の管理法一桜塩と連携で目指せ！桜の国 ～津波地域の育樹に関する研究～
KP-026	秋田県立秋田中央高等学校	要注意外来生物ハリエンジュの燃料化への取り組み
KP-027	栃木県立栃木高等学校	有機物が供給するリン酸による窒素固定植物の成長の違い及びリン酸の動態
KP-028	群馬県立利根実業高等学校	ソバ殻を培地基材としたキノコ栽培 ～アラゲキクラゲの栽培実験～
KP-029	群馬県立利根実業高等学校	イノシシの生態・行動調査と侵入防護研究
KP-030	埼玉県立秩父農工科学高等学校	森の学校プロジェクト ～手付かずの森の有効利用～
KP-031	埼玉県立秩父農工科学高等学校	秩父の文化と伝統を世界へ ～秩父銘仙wood capの提案～
KP-032	東京都立江北高等学校	荒川の上・中・下流の水生生物の生態 ～環境によるゴカイの体重変化を調べる
KP-033	東京都立科学技術高等学校	林業残渣のバイオマス利活用としてのガス化
KP-034	東京都立科学技術高等学校	サンプスギの葉抽出物質によるチャアナタケモドキ耐性の検証
KP-035	東京都立大島高等学校	「椿」を守るためのタイワンリスの防除に関する研究
KP-036	東京都立大島高等学校	伊豆大島の耕作放棄地と産業廃棄物を活用したレモン栽培の可能性
KP-037	東京都立小笠原高等学校	外来種と競合する島のカワニナを未来に残すために
KP-038	東京大学教育学部附属中等教育	東京都の林業を可視化する ～中高生に向けた林業マップの作成～
KP-039	東京学芸大学	QZSSとQGISを用いた簡便な境界線調査法の開発
KP-040	海城中学高等学校	狭山丘陵の雑木林における菌根量の季節変化
KP-041	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	マレーシアにおけるパーム油生産の現状
KP-042	浅野中学・高等学校	バイオチャー散布における森林土壌の改良効果と植物体と与える影響
KP-043	新潟県立新津高等学校	ヒゴスミレを絶滅から救いたい
KP-044	岐阜県立大垣西高等学校	岐阜県西濃地区に分布するタンボガ属に関する調査
KP-045	岐阜県立不破高等学校	閉鎖的な南宮山におけるニホンジカの生息密度推定
KP-046	岐阜県立郡上高等学校	ヒノキコンテナ苗の生産技術向上に向けて
KP-047	愛知県立安城農林高等学校	エリンギの培地成分と香りに関する研究
KP-048	愛知県立豊田西高等学校	産・学・公が連携した環境改善事業 ～MORIBITOプロジェクト～
KP-049	名古屋市立向陽高等学校	幹からみた植生に関する研究
KP-050	名古屋市立向陽高等学校	シカの食生と食害に関する研究
KP-051	名古屋大学グローバルサイエンスキャンパス参加校	海上の森におけるGISを用いた植生遷移と地質・水質との関係解明
KP-052	名古屋経済大学市邨高等学校	裸地から森林までの30年、100年
KP-053	三重中学校・三重高等学校	高校の探究の授業で扱った緑のダム実験
KP-054	三重中学校・三重高等学校	学校の行事で扱う森林環境教育
KP-055	滋賀県立河瀬高等学校	森林土壌を多面的に探る ～間伐材の処理方法は森林土壌に影響するか～
KP-056	京都府立嵯峨野高等学校	凍てつく大地に挑む ～カナダケベック州におけるメープル林下の土壌調査～
KP-057	京都府立嵯峨野高等学校	緑のダムの貯水能を探る ～森林における斜面崩壊と土壌物理性の関係～
KP-058	京都府立宮津高等学校	丹後地方の巨樹の分布について
KP-059	京都府立菟道高等学校	Tea Bag Indexを用いた学校林の土壌分解速度に関する研究
KP-060	奈良県立青翔高等学校	里山を守る ～奈良県二上山におけるナラ枯れ被害について～
KP-061	奈良学園中学校・高等学校	校内サギソウ群落の生活史の解明と資源の回復に寄与する取組
KP-062	愛媛県立松山南高等学校	100円グッズを活用した簡易的な人工林の健康診断
KP-063	熊本県立矢部高等学校	山都町の木材を活用した木工品の製作と木育活動の実践
KP-064	熊本県立矢部高等学校	八朔祭の大造り物の製作 ～林業の学びを生かした地域貢献の取り組み～

関連研究集会等

集会名	日 時	会 場
森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト	3 月 27 日	17:30~19:30 全学教育棟 S13
IUFRO-J 令和 2 (2020) 年機関代表会議	3 月 29 日	13:15~14:15 全学教育棟 S12
林業経済学会 2020 年春季大会シンポジウム	3 月 30 日	9:00~18:00 全学教育棟 S30
第 24 回森林施業研究会シンポジウム	3 月 30 日	9:00~12:00 全学教育棟 C15
広葉樹林業研究会	3 月 30 日	13:00~16:00 全学教育棟 C15
森林遺伝育種学会総会および 第 9 回森林遺伝育種学会シンポジウム	3 月 30 日	9:00~12:30 全学教育棟 C13
森林利用学会総会	3 月 30 日	10:30~12:00 全学教育棟 S1X
森林計画学会・森林利用学会合同シンポジウム	3 月 30 日	13:00~16:00 全学教育棟 S1X
森林計画学会総会 森林計画学会賞授賞式, 受賞者講演	3 月 30 日	9:30~12:00 全学教育棟 S10
第 26 回森林昆虫談話会	3 月 30 日	9:00~12:00 全学教育棟 S11
樹木病害研究会	3 月 30 日	9:00~12:00 全学教育棟 C14
第 4 回森林水文・地球科学研究会	3 月 30 日	9:00~12:00 研究所共同館Ⅱ 4 階 409 号室
森林立地学会理事会	3 月 28 日	16:00~17:30 豊田講第 5 会議室
森林立地編集委員会	3 月 27 日	18:00~19:00 全学教育棟 S12
森林立地学会現地研究会	3 月 30 日	9:00~16:45 愛知県瀬戸市

森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト

日時：3月27日（金）17:30～19:30

会場：全学教育棟 S13

テーマ：森林・林業分野における GIS，リモートセンシング技術の応用全般

内容：学生研究コンテストは次世代の森林 GIS を担う若手研究者・技術者の育成と交流の場です。森林学会大会の他部門で発表したものと重複しても結構です。一人 15 分程度の口頭発表を行い、優れた発表数件を表彰します。以下の 2 部門で各 5 名程度を募集し、応募多数の場合は選抜します。

部門 (1) 卒業論文の研究

部門 (2) 修士論文，博士論文の研究

連絡先：高橋正義，〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1 森林総合研究所 森林災害・被害研究拠点，Tel: 029-829-8314，Fax: 029-874-3720，martaka@ffpri.affrc.go.jp

IUFRO-J 令和 2（2020）年機関代表会議

日時：3月29日（日）13:15～14:15

会場：全学教育棟 S12

内容：令和元（2019）年度会務報告・会計決算報告・監査報告の審議と承認，令和 2（2020）年度事業計画案・予算案の審議と承認，役員選出と承認，その他

連絡先：杉元倫子，国際森林研究機関連合日本委員会（IUFRO-J）事務局，〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1 森林総合研究所 国際連携・気候変動研究拠点 国際研究推進室，Tel: 029-829-8327，E-mail: iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

林業経済学会 2020 年春季大会シンポジウム

日時：2020 年 3 月 30 日（月）9：00～18：00

会場：全学教育棟 S30

テーマ：ポスト天然林時代の東南アジア林業

内容：世界的にみても天然林採取林業から人工林育成林業へのシフトが顕著であり，また日本とのつながりが密接な東南アジア地域を事例として取り上げ，人工林経営がどのように拡大したのか，その結果，資源管理・木材生産はどうかされているのか，そして今後どのように変化していこうとしているか，その実情を把握することを意図して，本シンポジウムを企画した。検討に際しては，産地国内における政策（産業政策，資源政策等），産業（木材産業の発展，木材需要・木材輸出入の構造変化等），資源（天然林資源の賦存・利用状況等），および国際的な木材貿易・造林投資動向等の要因を整理した上で，人工林経営の経緯・現状を捉え直すと共に，天然林・人工林をあわせた森林資源の持続的育成および持続的な森林管理への影響について考察したい。さらにそうした産地国における動向が日本国内の林業・木材産業にもたらす影響についても総合討論において検討したい。

座長：島本美保子（法政大学）

報告者・報告タイトル：

鮫島弘光（IGES）インドネシアにおける人工林の動向

葉山アツコ（久留米大学）地方政治の道具としての植林活動が牽引するフィリピンの森林再生

岩永青史（森林総合研究所）ポスト天然林時代におけるベトナムの森林資源戦略

コメンテーター：早船真智（森林総合研究所）

連絡先：原田一宏，〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林社会共生学研究室，E-mail: harada@agr.nagoya-u.ac.jp

第 24 回森林施業研究会シンポジウム

日時：2020年3月30日（月）9：00～12：00

会場：全学教育棟 C15

テーマ：目標林型を考える

内容：森林施業は「目標林型」を設定してバックキャストで考えよう—という考え方がある。何かを成し遂げるのに、ゴールを設定して向かうことは大事である。その一方、生産期間が長期にわたる林業において、将来の木材需要を想定した目標を設定するのにどれだけの意味があるのかという疑問も呈されている。このシンポジウムでは、立場が異なる4者から目標林型についての考えをお聞きし、目標林型という考え方やその具体像について議論したい。

1. 目標林型という考え～趣旨説明に変えて（横井秀一）
2. 話題提供
 - 1) 林業経営者の立場から（速水 亨）
 - 2) 請け負い事業者の立場から（香山由人）
 - 3) 市町村職員の立場から（鈴木春彦）
 - 4) 森林組合職員の立場から（鈴木敬介・阿部晃久）
3. 総合討論「施業の現場で、目標林型をどう考えればよいか？」

連絡先：横井秀一，〒501-3714 美濃市曾代 88 岐阜県立森林文化アカデミー，Tel: 0575-35-3884, Fax: 0575-35-2529,

E-mail: yokoi@forest.ac.jp

広葉樹林業研究会

日時：3月30日（月）13:00～16:00

会場：全学教育棟 C15

テーマ：資源の持続性や生態系の保全を考えた広葉樹林施業（材の利用，更新，多様性）

内容：広葉樹の利用を見据えた研究を進めるにあたって、現状どのような知見があり今後何を明らかにしなければならぬかを議論します。今回は利用を踏まえた管理という視点で、川上から川下に繋がる研究をされている方々から話題提供いただき、分野間での情報共有や連携の深化を目指します。

コーディネーター：森林総研関西 山下直子，道総研 大野泰之，森林総研 奥田史郎，北大北方生物圏フィールド科学センター 吉田俊也

<話題提供>

1. 広葉樹林施業に関する研究をふり返って 岐阜県立森林文化アカデミー教授 横井秀一
2. 豪雪地のブナ林を活かす—保全と活用のための取組みと課題— 只見町ブナセンター館長・新潟大学名誉教授 紙谷智彦
3. 更新補助作業を組み入れた天然林施業の実行可能性—北海道北部の事例— 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 吉田俊也
4. 自然の摂理に倣う広葉樹林施業—200年かけて巨木林に— 東北大学大学院教授 清和研二

コメンテーター：日本森林技術協会理事 田中浩，森林総合研究所東北支所長 梶本卓也

連絡先：山下直子，〒612-0855 京都市伏見区桃山町永井久太郎 68 森林総合研究所関西支所，Tel: 075-611-1201,

E-mail: naokoy@ffpri.affrc.go.jp

森林遺伝育種学会総会および第9回森林遺伝育種学会シンポジウム

日時：2020年3月30日（月）9:00～12:30

会場：全学教育棟 C13

シンポジウムテーマ：マツ材線虫病の理解はどこまで進んだのか？

内容：

話題提供

1. 新屋良治（明治大学農学部・JST さきがけ）
マツノザイセンチュウの病原性と病原力の理解はどこまで進んだのか？
2. 山口莉未（九州大学大学院生物資源環境科学府）
宿主-病原体間相互作用の視点からマツ材線虫病発病メカニズムを考える
3. 松永孝治（森林総合研究所林木育種センター九州育種場）
マツノザイセンチュウ抵抗性マツをどう使うか？
4. 中村克典（森林総合研究所東北支所）
マツ材線虫病被害・防除の現状と将来展望

連絡先：津村義彦，〒305-8572 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学生命環境系，E-mail: tsumura.yoshihiko.ke@u.tsukuba.ac.jp

森林利用学会総会

日時：3月30日（月）10:30～12:00

会場：全学教育棟 S1X

連絡先：森林利用学会事務局，〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科 森林利用学研究室内，E-mail: jfes-office@jfes.jp

森林計画学会・森林利用学会合同シンポジウム

日時：3月30日（月）13:00～16:00

会場：全学教育棟 S1X

テーマ：林業のスマート化の加速に向けた挑戦

内容：林業の成長産業化に向けては、森林経営管理制度を十分に機能させるために、情報通信技術（ICT）を十分に活用し、林業のスマート化を加速させることが急務である。そこで、森林計画学会と森林利用学会は、2030年に向けた技術体系の確立を目指した合同シンポジウム「林業のスマート化の加速に向けた挑戦」を開催する。

連絡先：森林利用学会事務局，〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科 森林利用学研究室内，E-mail: jfes-office@jfes.jp

備考：3月29日（日）に両学会合同の懇親会を予定しています。

森林計画学会総会，森林計画学会賞授賞式，受賞者講演

日時：3月30日（月）9:30～12:00

会場：全学教育棟 S10

内容：今年度の活動報告，決算報告および次年度の活動計画，予算の審議。2020年の「森林計画学会賞」，「黒岩菊郎記念研究奨励賞」，「南雲秀次郎記念学生奨励賞」の授賞式および受賞者講演。

連絡先：森林計画学会事務局，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所内，E-mail: jsfp_office@forestplanning.jp

第 26 回森林昆虫談話会

日時：3月30日（月）9:00～12:00

会場：全学教育棟 S11

テーマ：森林昆虫研究の発展にむけて その2

内容：「森林昆虫研究」と言っても研究内容は多岐にわたる。地域的かつ緊急的に現場対応が必要な課題，全国的に被害をもたらしている害虫に関する包括的な研究，熱帯地域を含む群集生態学に取り組み3名の方々に話題提供して頂き，基礎研究から現場への普及へと森林昆虫研究について広く議論する。

<話題提供>

1. 「マツ枯れ・ナラ枯れ被害最北地域の現状について」
伊藤 昌明（（地独）青森県産業技術センター林業研究所）
2. 「主要森林害虫の総論と各論：ナラ枯れ，トビクサレ，クビアカツヤカミキリなど」
衣浦 晴生（森林総研関西）
3. 「熱帯地域におけるキノコ食昆虫研究」
山下 聡（徳島大学生物資源産業学部）

世話人：吉田智弘（東京農工大学）・松浦 崇遠（富山県森林研究所）・松本剛史（森林総研）

3月29日（日）夜に懇親会を予定しています。

連絡先：松本剛史，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所 森林昆虫研究領域，Tel: 029-829-8254，

Fax: 029-873-1543，E-mail: mtakeshi@ffpri.affrc.go.jp

樹木病害研究会

日時：3月30日（月）9:00～12:00

会場：全学教育棟 C14

テーマ：北（寒冷地）の樹木病害

内容：北方に生育する樹木類は，種構成が一見単純ではあるが，広大に存在しており，重要な木材資源であると同時に貴重な生態系サービスを提供している。そして，そこで発生する樹木病害は，これらの構成樹種に適応した特有の病害や，雪や寒さといった寒冷環境に乗じて拡大する病害が存在するなど，南方の樹木病害とは異なる特性と様相を持つ。これに加えて，引き起こされる病害の実態調査や対策研究は，広域かつダイナミックなアプローチが必要とされるが，地域性を有するが故に，実態を知らぬ者にとっては縁遠く思われるかもしれない。今回，北方系の樹木病害について研究経験を持たれる諸兄に，各々の分野と観点から北の樹木病害について紹介していただき，樹木病害全般への理解を深める機会としたい。

司会：石原 誠

演者：

1. 「国産漆の使用100%化に向けたウルシ林の健全性と病気」 田端雅進（森林総研東北）
2. 「北海道のトドマツ・エゾマツ類の苗畑に発生する病害 —東京大学演習林における事例—」 坂上大翼（東京大学 秩父演習林）
3. 「北海道で認められる樹木細菌病」 石原誠（森林総研北海道）
4. 「カラマツ根株心腐病について」 大澤正嗣（山梨県森林総合研究所）
5. 「北海道東部で発生しているカラマツの衰退枯死について」 徳田佐和子（北海道立総合研究機構林業試験場）

世話人連絡先：楠本 大，〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770，東京大学大学院農学生命科学研究科 附属千葉演習林，E-mail: kusumoto@uf.a.u-tokyo.ac.jp; 石原 誠，〒062-0041 札幌市豊平区羊ヶ丘7番地，森林総合研究所北海道支所，E-mail: makolin@affrc.go.jp; 高橋由紀子，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所きのこ・森林微生物研究領域 森林病理研究室，E-mail: ytakah@ffpri.affrc.go.jp

第4回森林水文・地球科学研究会

日時：3月30日（月）9:00～12:00

会場：名古屋大学研究所共同館Ⅱ4階409号室

テーマ：森林水文学を超えていく・・・

内容：森林、水循環・・・の科学に微妙に関係しながら「こんな世界があったのか！！」と驚いていただけるような話題を揃えてみました。当該一流の方々にご講演をお願いしましたので、どうぞみなさま、至福の時間をお過ごし下さい。

話題提供：

1. 檜山哲哉（名古屋大学）

「北極海－大気－植生－凍土－河川系における水・物質循環の時空間変動」

地球温暖化と北極海氷縮小に起因した北ユーラシア域における大気－陸域水循環変動の解明と、植生変化や永久凍土荒廃による温室効果気体収支変動の推定を目指した研究プロジェクトをご紹介します。

2. 須藤健悟（名古屋大学）

「大気化学・気候モデルによる全球大気組成と気候変動の研究」

大気中の微量成分・エアロゾルと関連化学反応過程を計算する全球化学気候モデルによる、大気組成・気候変動や陸域生態系との相互作用についてご紹介いたします。

3. 中塚武（名古屋大学）

「樹木年輪セルロースの酸素・水素同位体比による新しい気候学・生態学・歴史学・考古学の展開」

樹木年輪に含まれるセルロースの同位体比の精密分析によって、過去の気候の変動や樹木の生理生態を復元し、気候と歴史の関係や遺跡・遺物の年代を明らかにする「同位体年輪年代学」の最新の成果を紹介いたします。

連絡先：熊谷朝臣，東京大学，E-mail: tomoomikumagai@gmail.com

森林立地学会理事会

日時：3月28日（土）16:00～17:30

会場：豊田講第5会議室

内容：2019年度事業報告・決算報告，2020年度事業計画（案）・予算（案）検討

連絡先：総務担当 石塚成宏，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所，Tel: 029-829-8227，Fax: 029-874-3720，E-mail: ritchi_general@ffpri.affrc.go.jp

森林立地編集委員会

日時：3月27日（金）18:00～19:00

会場：全学教育棟S12

内容：編集状況の報告および編集方針の検討

連絡先：総務担当 石塚成宏，〒305-8687 茨城県つくば市松の里1 森林総合研究所，Tel: 029-829-8227，Fax: 029-874-3720，E-mail: ritchi_general@ffpri.affrc.go.jp

森林立地学会現地研究会

日時：3月30日（月）9:00～16:45

開催場所：愛知県瀬戸市

テーマ：窯業地域の森林の歴史と長期水文観測

内容：「せともの」についての展示施設で、窯業と森林の関わり方の変遷を学習します。また、東京大学生態水文学研究所・赤津研究林で、はげ山復旧の歴史や長期継続されている水文観測について学習し、荒廃地の森林化により発達してきた森林土壌断面を観察します。

行程：9:00 総会（名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅前・パルティセと市民交流センター※）—10:15 瀬戸蔵ミュージアム—11:45 瀬戸蔵ミュージアム発—12:15 昼食—13:00 東京大学生態水文学研究所・赤津研究林—16:00 赤津研究林発—16:45 JR 高蔵寺駅着

（※総会参加者は 9:00、不参加者は 10:00 までに受付を済ませて下さい。総会終了後に瀬戸蔵ミュージアムまで徒歩で移動します）

参加費：¥3,500 前後（バス+施設利用料+昼食+保険代，学生・PD は割引予定）

申込方法：(1)森林立地学会申込フォーム（<http://shinrin-ritchi.jp/apply-excursion/>）(2) E-mail（ritchi_excursion@ffpri.affrc.go.jp）または (3) ハガキ・FAX にて、必要事項を記入の上 2020 年 2 月 28 日までに申込をしてください（詳細は上記 web ページ参照）。定員を超えた場合は早期締切になる場合があります。

連絡先：事業担当 渡邊仁志（岐阜県森林研究所）・山下尚之（森林研究・整備機構），Tel: 029-829-8227, Fax: 029-874-3720, E-mail: ritchi_excursion@ffpri.affrc.go.jp